

文部科学省
大学教育再生加速プログラム（AP）
テーマⅡ：学修成果の可視化



平成 29 年度

AP 事業中間報告書

～『学修成果の可視化』で目指すもの～

平成 30 年 3 月



学校法人 富山国際学園
富山短期大学

〔目次〕

はじめに	1
I. 「大学教育再生加速プログラム」(AP) 事業の趣旨・目的・位置付け	2
1. 「入口(入学)」から「出口(卒業)」までの「質保証」	2
～「アクションプラン」の策定による全学的・総合的なPDCAサイクルの構築	
2. AP事業の位置付け	3
(1) PDCAサイクルを教育活動にビルトインするためのAP事業	
(2) 「学修成果の可視化」で目指すPDCAサイクル	
～誰に対する、何のための「学修成果の可視化」	
3. 実施・推進体制	4
II. AP事業における取組概要	6
1. 「学修成果の可視化」によるPDCAサイクルのシステム化	6
2. 「三つの方針(DP・CP・AP)」の見直しと「学修成果」の明確化	6
3. 「学修成果」の把握・可視化方法	7
4. 「学修成果の可視化」によって、何をどのように改善するのか	8
III. Webシラバス・システムの概要	9
1. PDCAサイクルを支えるWebシラバス・システムの全体概要	9
2. Webシラバス・システムの構造	10
【注1】「学修成果評価システム」【サンプル図】	
【注2】「学生情報ファイル・システム(SIF)」【サンプル図】	
3. Webシラバスの掲載項目	16
IV. AP事業の成果(中間報告)	18
1. 「授業改善」のための仕組とその成果	18
(1) 「授業改善」のためのPDCAサイクルの仕組と定着	
【注】科目の「授業アンケート」結果と「授業改善レポート」【サンプル図】	
(2) 「授業改善」の進展とその効果・成果	
2. 「学修行動」改善のための仕組とその成果	21
(1) 「主体的な学び」のための「振り返りと気づき」を促す仕組作り	
(2) 「学修行動」の変容と「学修成果」の向上	
3. 教育課程の体系化と「カリキュラム・マップ」による点検・見直し	24
4. 第三者評価のPDCAへの反映	24
(1) 「富山短期大学外部評価委員会」による第三者評価	
(2) 「第三者アンケート」(平成27年11月実施)のインプリケーション	
V. 今後の課題	27

【参考資料】

【参考資料 1】 AP (テーマⅡ) 事業における「数値目標」と達成状況	30
【参考資料 2】 「富山短期大学「三つの方針」」	32
【参考資料 3】 AP 事業の実施状況と計画 (年度別)	39
【参考資料 4】 外部評価委員会の AP 事業に対する主なご意見・評価	43
【参考資料 5】 AP 事業の対外的波及のための取組	46
【参考資料 6】 「平成 29 年度 授業アンケート」	47
1. 1 年生 前期科目	47
2. 1 年生 後期科目	53
3. 2 年生 前期科目	59
4. 2 年生 後期科目	65
【参考資料 7】 「平成 29 年度 学修行動・生活調査 (2 年前期)」	71
【参考資料 8】 「平成 29 年度 第三者アンケート調査結果の概要」	81
就職先アンケート (要旨)	81
卒業生アンケート (要旨)	88
【参考資料 9】 「富山短期大学 2015 年度入学者の追跡調査」 (第 4 回富山短期大学外部評価委員会提出資料 (改訂版))	95
【参考資料 10】 『富山短期大学 授業改善事例集』 (目次)	103

はじめに

平成 26 年度、文部科学省は、「国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組みを実施する大学を支援することを目的」として、「大学教育再生加速プログラム」（以下、AP）事業を新たにスタートさせた。

AP は、「テーマⅠ：アクティブ・ラーニング」、「テーマⅡ：学修成果の可視化」、「テーマⅢ：入試改革・高大接続」（以上、平成 26 年度）、「テーマⅣ：長期学外学修プログラム」（平成 27 年度）、「テーマⅤ：卒業時における質保証の取組の強化」（平成 28 年度）の 5 つのテーマに分かれている。

平成 28 年度に文部科学省はテーマⅤを公募するにあたって、AP 事業を「高大接続改革推進事業」として位置付け、全てのテーマにおいて該当するテーマを中核に、入口（入学）から出口（卒業）までの質保証を伴った大学教育を実現するための総合的な取組を推進することとした。

富山短期大学は平成 26 年度に、「テーマⅡ：学修成果の可視化」分野において、短期大学では唯一選定された。「テーマⅡ」分野の選定校は、本学を含めて次の 8 校。横浜国立大学、北九州市立大学、八戸工業大学、東京女子大学、新潟工科大学、福岡歯科大学、富山短期大学、阿南工業高等専門学校。

これらの 8 校は、北九州市立大学を幹事校として、平成 28 年度に「AP「学修成果の可視化」あり方検討会議」をスタートさせ、平成 31 年度の最終年度に向けて、共同シンポジウムの開催、報告書の作成を行っていくこととなった。

以下に、平成 26 年度から 29 年度までの富山短期大学の AP 事業の取組を、「中間報告」としてまとめる。

I. 「大学教育再生加速プログラム」(AP) 事業の趣旨・目的・位置付け

1. 「入口(入学)」から「出口(卒業)」までの「質保証」

～「アクションプラン」の策定による全学的・総合的なPDCAサイクルの構築

昭和38(1963)年4月、富山短期大学の前身である富山女子短期大学は、県内高卒女子に高等教育の機会を与えたいとの県民の強い要望に応えるために、政官民の一致協力の下設立された。

その設立趣意書には、建学の基本として次のように謳われている。

「真に近代社会が要請する婦人像を求め、家庭婦人としても職業婦人としても基本的に必要な、人間愛を基調にした高い知性、広い教養、そして健全にして豊かな個性と、社会性に富む調和のとれた全人的な婦人形成を建学の基本とする。」

平成12(2000)年に、男女共学の富山短期大学となってからは、この建学の基本に基づいて、「高い知性、広い教養、そして健全にして豊かな個性をもった地域社会に貢献する人材の育成」を教育の目的(学則第1条)としている。

現在は、食物栄養学科、幼児教育学科、経営情報学科、福祉学科、専攻科食物栄養専攻の4学科1専攻を擁し、収容定員は690名である。

上記の教育目的を実現するために本学では、入口(入学)から出口(卒業)までの「質向上」と「質保証」を伴った大学教育を目指して、平成24年度に「三つの方針(DP・CP・AP)」を策定した。

この「三つの方針」に基づいて持続的な改革・改善を継続するために、平成27年度には、全学的かつ総合的な取組を5つの分野(①教育改革、②学生支援、③地域貢献、④入学者確保、⑤マネジメント体制)に整理して、「アクションプラン 2015～2017」を策定した。

以降、毎年度この「アクションプラン」を点検し、次なる改革・改善のためのPDCAサイクルを回している。

もとよりAP事業は、このアクションプランの【I. 教育】の中核的な柱となっている。

(平成27～29年度)アクションプランの構成	
【I. 教育】	学生の健全で豊かな「人間性」と「専門的知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学ぶ力」・「協働力」を養い、生きる力を育む教育の推進
	1 教育の「質向上」と「質保証」の徹底 2 学生の「主体的学び」を促進する教育の推進 3 地域志向の教育研究活動の増進 4 学生の成長を支えるために教職協働の強化・拡充
【II. 学生支援】	手厚い進路支援と充実した学生生活のための支援
	1 体系的・組織的・効果的なキャリア教育・進路支援 2 学生生活を支援するための、施設設備整備とサポート体制の充実
【III. 地域貢献】	地域を担う人材の育成と地域振興への貢献
	1 地域社会の発展に貢献できる人材の育成 2 地域連携・産官学連携の拡充・強化と、地域課題の解決・地域活性化の推進
【IV. 入学者確保】	ブランド・マネジメントの推進と入学者の安定的確保
	1 情報発信・広報活動の強化 2 アドミッションポリシーに沿った、幅広く、意欲のある学生の受入促進
【V. マネジメント体制】	マネジメント体制の強化による健全な大学運営
	1 教学マネジメント体制の強化による全学的な教育力の絶えざる向上 2 マネジメント体制の強化による、適切な財政運営と経営資源の有効活用

2. AP 事業の位置付け

(1) PDCA サイクルを教育活動にビルトインするための AP 事業

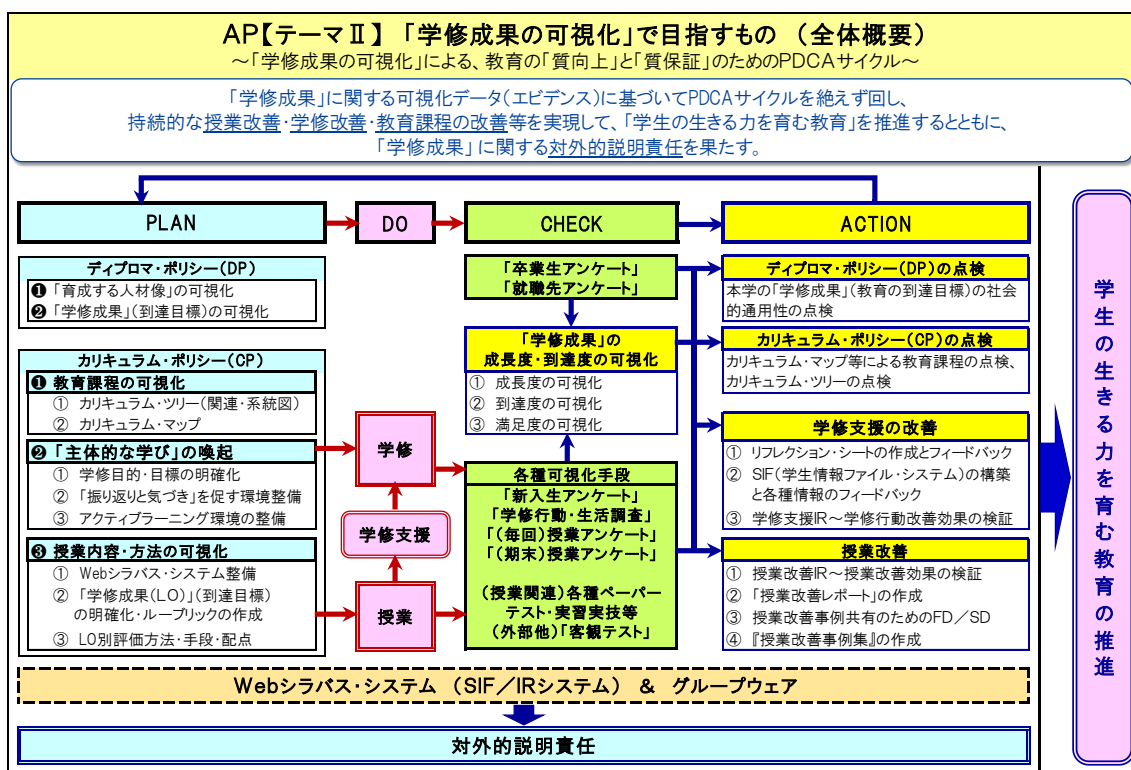
教育改革の中でも、教育の「質向上」と「質保証」を実現するには、各種の持続的な改善のための PDCA サイクルを日々の教育活動の中にビルトインする必要がある。

そもそも、「全人的な人間形成」を目指す教育にとって、教育の「質保証」とは、授業改善・学修改善・教育課程の改善等の各種の改善活動を日々の教育活動にビルトインして、絶えず改善のための PDCA サイクルを回すことに他ならないだろう。

そこで平成 26 年度に選定された AP 事業（テーマⅡ：学修成果の可視化）では、①教育の「質」のベンチマークである「学修成果（Learning Outcomes）」の把握と可視化、②授業・学修・教育課程の改善を行うための仕組み作り、③第三者評価を PDCA サイクルに反映させる仕組み作り、④教職協働による教育改善・改革の機動的な推進体制の強化、を主要な柱とした。

(2) 「学修成果の可視化」で目指すもの～誰に対する、何のための「学修成果の可視化」

教育の「質向上」と「質保証」のための PDCA サイクルを回すためには、「教育の質」を図るベンチマークが必要となる。そのベンチマークが「学修成果（Learning Outcomes）」に他ならず、「学修成果の可視化」は PDCA サイクルを日々の教育活動にビルトインする上で、効果的かつ不可欠な手段となる。



したがって、本学の AP 事業では、「学修成果」に関する可視化されたデータ等（エビデンス）で PDCA サイクルを絶えず回し、持続的な授業改善・学修改善・教育課程の改善等を実現して、「学生の生きる力を育む教育」を推進するとともに、「学修成果」に関する対外的説明責任を果たすことを目指している。

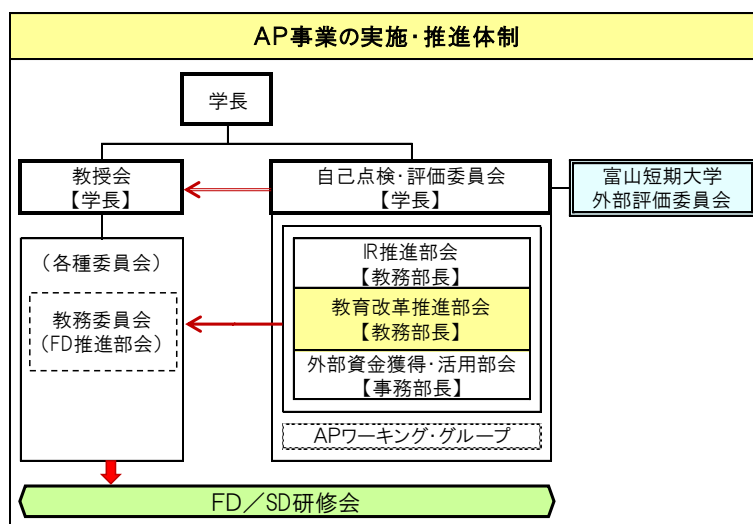
すなわち、

- ① 学生に対する「学修成果の可視化」によって、「振り返りと気づき」（リフレクション）を促し、「学習意欲」の向上と「主体的な学び」の喚起を促す。
- ② 教員に対する「学修成果の可視化」によって、授業内容・方法、評価手段・方法等の改善を促す。平成 28 年度からは、教員間で授業改善事例の共有を図るために、FD/SD 研修会での事例発表や『授業改善事例集』の作成を行っている。
- ③ 学科に対する「学修成果の可視化」によって、教育課程編成及び CP（カリキュラム・ポリシー）の改善や、DP（ディプロマ・ポリシー）、AP（アドミッション・ポリシー）の点検・見直しを促す。
- ④ ステークホルダーを初め第三者に対する「学修成果の可視化」によって、「対外的説明責任」を果たすとともに、第三者評価を PDCA サイクルに反映させる。

3. 実施・推進体制

平成 27 年度に、学長を委員長とする自己点検・評価委員会の下に、全学的な教育改革を強力に推進するため、IR 推進部会、教育改革推進部会、外部資金獲得・活用部会の 3 部会を設置した。

（注：自己点検・評価委員会は、学長、特命参事、学科長・専攻科長、部長・次長・センター長・課長等 22 名で構成されている。3 部会のメンバー構成も基本的に同様である。）



この 3 部会の一体的運用を図り、AP 事業を円滑に推進するために、従前の AP プロジェクトチームに替わって、特命参事、教務部長、事務部長、並びに関係教職員からなる AP ワーキング・グループを構成し、AP 事業の事務局としている。

システム的设计、ならびにシステム構築に係る外部業者との折衝、外部評価委員会の開催等に関する事務等は、教育改革推進部会に諮った後、すべてこの AP ワーキング・グル

ープが行っている。

IRに関する事務・作業もAPワーキング・グループが行い、その後IR推進部会に諮っている。

Webシラバス・システムでの成績入力に関する事務や、各種アンケートの実施・集計・配信ならびに授業改善レポートの作成等、教学に関する事項は基本的に教務部が担当している。その他の事項に関しては、学生部、入試・広報センター、就職支援センター、事務部等の関係部署が担当している。

また、Webシラバス・システム等各種システムや各種アンケート結果の利活用の方法等に関しては、平成28年度には毎月の教授会の後にFD/SD研修会を開催し、教職員全員の理解を深めるよう周知徹底に努めた。

なお、以上のAP事業に係るすべての事項は、関係委員会・教授会に報告され、教職員間での情報・理解の共有を図っている。

II. AP 事業における取組概要

1. 「学修成果の可視化」による PDCA サイクルのシステム化

本学の AP 事業では、「学修成果」に関する可視化されたデータ等（エビデンス）による PDCA サイクルを日々の教育活動の中にビルトインし、持続的な授業改善・学修改善・教育課程の改善等を実現して、教育の「質向上」と「質保証」を図ることを目指している。

PDCA サイクルを日々の教育活動の中にビルトインして持続的に回すために、以下のシステム化を中心とした 4 つの取組を推進している。

① 「学修成果の可視化」のためのシステムの構築

「学修成果（LO1～LO5）」別の成績入力、各種学生アンケートでの学生による到達度・成長度の自己評価入力、入力データの集計と定型フォーマットによる出力等を全て Web シラバス・システム上で行う仕組の構築。

② 「情報のフィードバック・共有」のためのシステムの構築

学生に各種情報をフィードバックするための「学生情報ファイル・システム（SIF）」、及び教職員間で情報を共有するための「グループウェア・システム」の構築。

③ 「授業改善 IR・学修支援 IR」を持続的に推進する仕組みの構築

Web シラバス・システム上で実施された各種学生アンケート結果等から得られたパネルデータを活用して、授業改善・学修改善・教育課程の改善等につなげる「授業改善 IR・学修支援 IR」を持続的に推進する仕組みの構築。

④ 「第三者評価」を絶えず PDCA サイクルへ反映させる仕組みの構築

富山短期大学外部評価委員会、「第三者（就職先・卒業生）アンケート」等で得られた第三者評価を DP・CP・AP 等の点検・見直しへ反映させる仕組みの構築。

2. 「三つの方針（DP・CP・AP）」の見直しと「学修成果」の明確化

平成 28 年度に、「三つの方針（DP・CP・AP）」の整合的・体系的な見直しを行った。

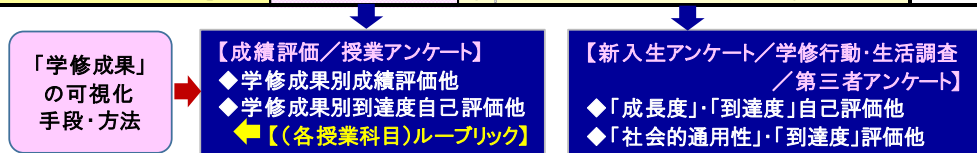
【【参考資料 2】「富山短期大学「三つの方針」」を参照】

新たな DP（ディプロマ・ポリシー）では、本学が育成する人材が身に付けるべき資質・能力として次の「5 つの力」を規定した。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 実践の土台となる「専門的知識・技能」② 実践を支える「思考力・判断力・表現力」③ 生涯学び続け成長するための「主体的に学ぶ力」④ 他者を尊重し多様な人々と共に共通の目標の実現に貢献できる「協働力」⑤ 健全で豊かな「人間性」 |
|---|

この「5 つの力」に対応して、「学力の三要素」を考慮した「5 つの基準」（LO1）知識・理解、（LO2）技能、（LO3）思考力・判断力・表現力、（LO4）関心・意欲・態度、（LO5）人間性・社会性を設定し、この「5 つの基準」別に各学科・各授業科目で育成する具体的な資質・能力（「学修成果」）を明示している。さらに、「学修成果」の全学的な共通のベンチマークとして、「5 つの基準」に対応させた「17 の具体的な資質・能力」（平成 28 年度までは 21）を規定して、「学修成果」の到達度・成長度を把握している。

「5つの力」(全学DP)・「学修成果」の「5つの基準」・「17の具体的な資質・能力」			
(DP)育成する人材像 身に付けるべき「5つの力」	「学修成果」の 「5つの基準」	身に付けるべき 「17の具体的な資質・能力」	「21世紀 型能力」 (NIER)
1 実践の土台となる「専門的 知識・技能」	(L01) (知識・理解)	① 幅広い教養・一般常識 ② 専門分野の基礎的な知識	【基礎力】 (基礎的 リテラシー)
	(L02) (技能)	③ 専門分野での実践に必要な技術・技能 ④ PCや情報機器を操作する力 ⑤ 分かりやすく伝える力・プレゼンテーション力 ⑥ 分かりやすく文章にまとめる力	
2 実践を支える「思考力・ 判断力・表現力」	(L03) (思考力・判断力・ 表現力)	⑦ 問題点・課題を発見して、 論理的に問題・課題を解決できる力	【思考力】 (認知 スキル)
3 生涯学び続け成長するた めの「主体的に学ぶ力」	(L04) (関心・意欲・ 態度)	⑧ 自分の適性や能力を把握する力 ⑨ 自学自習する力・習慣 ⑩ 自分で目標を設定し、計画的に行動する力 ⑪ ねばり強さ・持続力・集中力 ⑫ チャレンジ精神 ⑬ 自己効力感や自信・自己肯定感	【実践力】 (社会的 リテラシー)
		⑭ 多様な価値観・考えを持つ人々の理解と尊重 ⑮ 社会的責任の自覚と高い倫理観 ⑯ 地域や社会に貢献する意識 ⑰ 協働して共通の目標の実現に貢献する力	
4 他者を尊重し多様な人々と 共に共通の目標の実現に 貢献できる「協働性」	(L05) (人間性・社会性)		
5 健全で豊かな「人間性」			



3. 「学修成果」の把握・可視化方法

「学修成果」の把握・可視化は次の方法によっている。

- ① 教員は、Web シラバスに記載した、「学修成果 (L01～L05) 別配点基準」と「ルーブリック」に従って、「学修成果 (L01～L05)」別に各授業科目の成績評価を行う。
- ② 学生は、学期末の「授業アンケート」において、当該授業での「学修成果」の到達度を、「5つの基準」ごとに自己評価する。
- ③ ①と②により、授業科目毎ならびに学科全体 (教育課程) で、「学修成果 (L01～L05)」別の到達度を把握することが可能となり、レーダーチャート化している。
- ④ 学生は、1 年次後期初・2 年次初に行う「学修行動・生活調査」において、「17 の具体的な資質・能力」の成長度に関する自己評価を行う。
- ⑤ 学生は、入学時の「新入生アンケート」及び卒業時の「学修行動・生活調査」において、「17 の具体的な資質・能力」の到達度について同年代と比較した自己評価を行う。
- ⑥ ④と⑤により、学科全体 (教育課程) で、「17 の具体的な資質・能力」別、「5 つの基準」別の成長度と到達度を把握することが可能となり、グラフ化している。

これらの教員による成績評価入力、学生アンケートにおける自己評価入力は、すべて Web シラバス・システム上で行われている。その結果、それらの入力データの集計・分析が容易であり、集計結果は後述するように、Web シラバス・システム上で教員、学生にフィードバックされるようになっている。

4. 「学修成果の可視化」によって、何をどのように改善するのか

既に述べたように、本学の AP 事業では、「学修成果」に関する可視化されたデータ等（エビデンス）による PDCA サイクルを日々の教育活動の中にビルトインし、持続的な授業改善・学修改善・教育課程の改善等を実現して、教育の「質向上」と「質保証」を図ることを目指している。

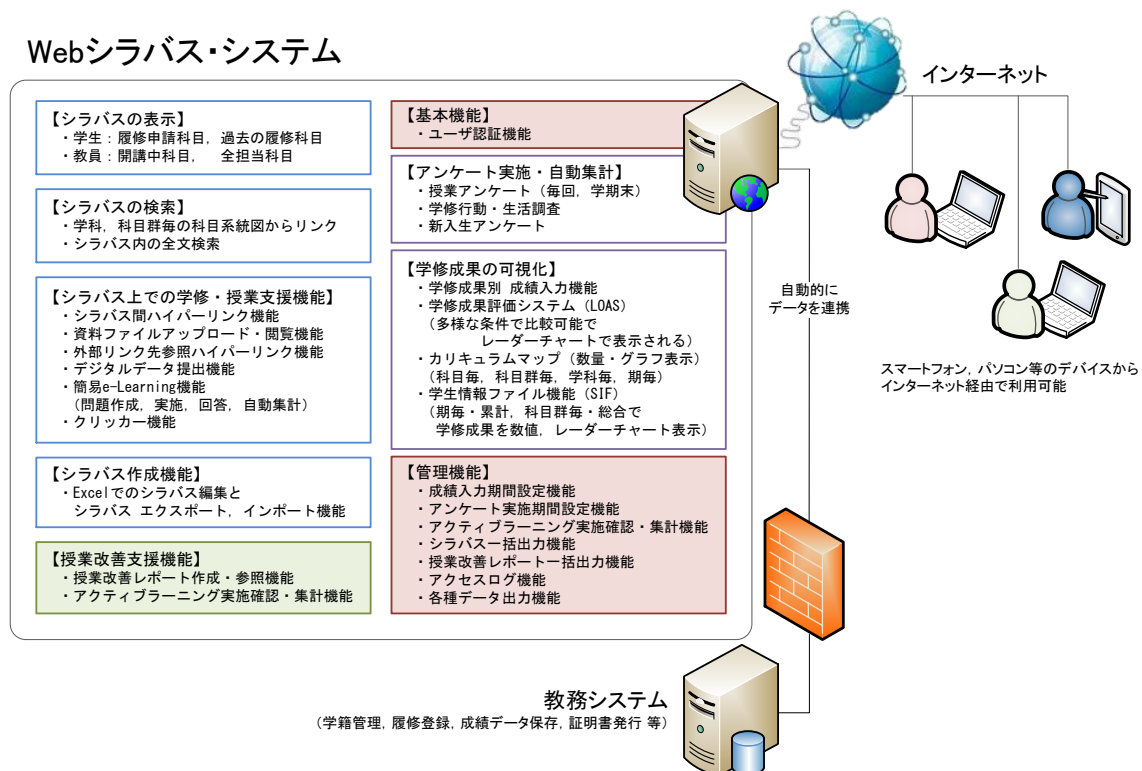
それでは、前述した方法で可視化されたデータ等を使って、何をどのように改善しようとしているのか。それを一覧にまとめたのが下図である。



III. Web シラバス・システムの概要

1. PDCA サイクルを支える Web シラバス・システムの全体概要

これまで述べてきた各種活動や学修成果の可視化のための中心的なシステムである Web シラバス・システムの全体概要、および Web シラバス・システム内の各種機能は下図のとおりである。



Web シラバス・システムはまず、平成 24 年度に文部科学省の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の補助金を得て構築された。

当初は、シラバスを Web 上に載せ、いつでもどこからでも学習できる「ユビキタス学修環境」を整備し、学生の「主体的学び」を促すことを目的に構築された。したがって、パソコンだけでなく、最近の学生の大半が所持しているスマートフォンからでも利用可能とし、シラバス表示やアンケートの回答等も各利用デバイスに応じて最適化されている。

Web シラバス・システムの主な機能は下記の 4 点である。

- ① 当初は、「学修・授業支援システム」として設計・構築された。そこでは、科目関連系統図を掲載し、履修科目間の関連性・系統性を示すとともに、同図から当該シラバスにリンクが貼られており、簡単に表示できるようにしてある。キーワードによるシラバス内の検索機能や、関連する授業科目のシラバスへのリンクも可能となっている。課題提出機能、e-Learning 機能、クリッカー機能をも装備し、双方向の授業を支援している。AP 事業に選定されてからは、同システムの機能を拡張し、「学修成果の可視化」による PDCA サイクルのプラットフォームとしている。すなわち、
- ② 「(毎回・期末) 授業アンケート」等各種学生アンケートの実施・自動集計・出力機能。

- ③ 「学修成果の可視化機能」として、カリキュラム・マップの自動作成機能、学修成果 (LO1～LO5) 別成績入力機能や、学生が獲得した学修成果を可視化する学修成果評価システム (LOAS : Learning Outcomes Assessment System)、学生へ情報をフィードバックするための学生情報ファイル・システム (SIF : Student Information File) 等。
- ④ 「授業改善支援機能」としては「授業改善レポート」作成・参照機能等がある。

2. Web シラバス・システムの構造

(1) ログイン画面

右図が、Web シラバスへの、学生・教員のログイン画面。



(2) 開講科目 (教員)・履修中科目 (学生) 一覧画面 (省略)

学生も教員もメールアドレスとパスワードを入力してログインすると、学生は履修中科目一覧が、教員は当該期及び前年度の開講科目一覧が出てくる。

その一覧画面から科目を選択すると、各科目の Web シラバス画面に移動する。右図は、



2017 年度入学生対象の「コンピュータ概論」の Web シラバスの上部部分 (一部)。

上から 2 段目の左端が「履修中科目」(教員は開講科目) 一覧画面へのボタン。

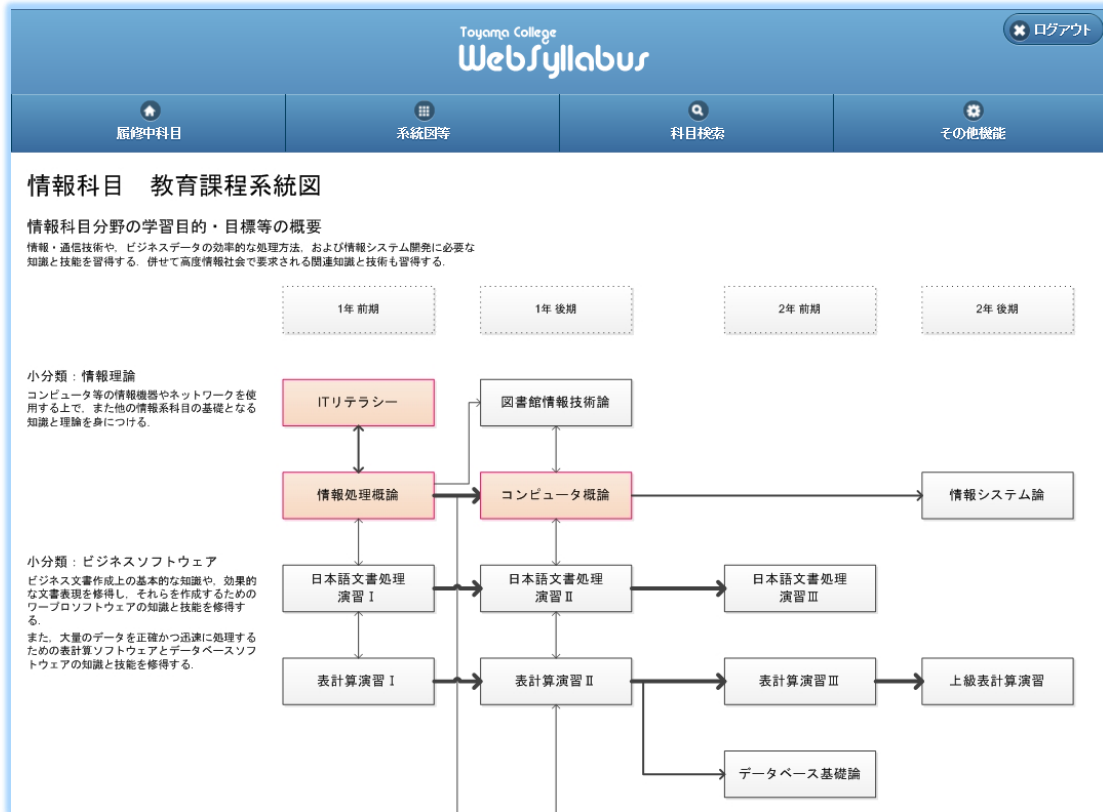
(3) 科目系統図

上図の授業科目名の右に、「科目コード」が記載されている。これが、学科別・科目群別に、各科目間の関連性と系統性を整理したナンバー。

このナンバリングに従って、科目間の関連性と系統性を整理した科目系統図をみるには、右図の上段左から二番目のボタンを選択すると、右図に示す科目群の一覧が表示され、表示させたい科目群のボタンを選択すると、該当の科目系統図が表示される。

次ページ図は、経営情報学科情報科目の系統図の一部であり、前述のとおり各授業科目名の領域に該当シラバスへのリンクが貼られており、簡単に表示できる。





(4) カリキュラム・マップ画面

科目系統図を表示させる際に、科目群を選択する画面があるが、その最下部に該当学科のカリキュラム・マップを表示させるためのボタンがある。

それを選択すると、各科目における学修成果（LO1～LO5）別の配点が右図のように科目群毎にまとめられて一覧表示される。

科目コード	科目名	1年前期					1年後期					2年前期					2年後期					合計						
		LO1	LO2	LO3	LO4	LO5	LO1	LO2	LO3	LO4	LO5	LO1	LO2	LO3	LO4	LO5	LO1	LO2	LO3	LO4	LO5	LO1	LO2	LO3	LO4	LO5		
M111-10	経済学の基礎	50		20	30																							
M112-10	経済学の基礎	45	20	20	20																							
M111-11	日本経済論					50		20	30																			
M111-12	金融論			40	40	20																						
M111-71	経済学特論			50	20	30																						
M112-11	現代企業と社会										90	20	40	50														
M112-12	マーケティング演習																											
M112-71	経済学特論																											
M111-13	情報経済論																											
M112-13	経営管理論															30	30	25	15									
合計値		90	20	40	50	180	20	100	100		110	30	40	10	10	80	30	45	45									
平均値		45	10	20	25	45	5	25	25		55	15	20	5	5	40	15	22.5	22.5									

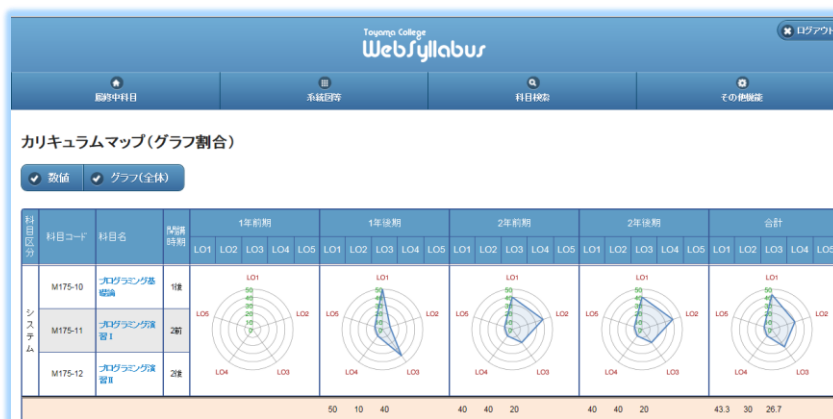
毎にまとめられて一覧表示される。各学期、科目群毎に累計された合計値や、1科目あたりの平均値も併せて自動集計される。

また、画面左上のグラフ（全体）ボタンを選択することで、数値で表しているカリキュラム・マップを科目群でまとめた学修成果（LO1～LO5）別レーダーチャートで表示することも可能。

学修成果別のリーダーチャートについては、教育課程の中に占める絶対的な数量で表示する「グラフ全体」と、各科目群、および教育課程全体での学修成果の配分を確認するための「グラフ割合」の2通りの表示が可能。



それぞれ右上図と右図。



(5) 科目検索画面

上段右から二番目のボタンから、右図の「科目検索」画面に入っている。

ここでは、キーワードを入力することで、そのキーワードを記載している科目一覧を検索することができる。



(6) 「その他機能」及び「学生情報ファイル・システム (SIF)」

上段右端にある「その他機能」には、「シラバス一括出力」機能、「学修成果評価システム」【注1】(以上、教員用)、「学生情報ファイル」、「各種アンケート結果」、「パスワード変更」機能が搭載されている。

「各種アンケート結果」は、「(期末) 授業アンケート」と「学修行動・生活調査」の全体集計結果が定型フォームで出力され、学生にもフィードバックされている。

「学生情報ファイル」【注2】には、教養・専門科目別、科目群別および全体の、①GP、

GPA、履修単位数が、本人と学科平均を対比して表ならびにレーダーチャートで、また、②LO（学修成果）別成績評価と LO 別到達度の自己評価（「(期末) 授業アンケート」）が、本人と学科平均を対比してレーダーチャートで示されている。

(7) その他

その他、各授業科目の Web シラバスの最下段には、右図にあるように、次の機能が搭載されている。



- ① 「シラバス Excel インポート/エクスポート」機能。
この機能により、Web シラバスの記載内容をいったん Excel に出力した後、修正をかけて入力することが可能となり、Web シラバスの記載内容の変更が容易となっている。



- ② 「毎回の授業アンケート分析」

当該科目の「(毎回) 授業アンケート」結果の全体集計を定型フォームで出力。

- ③ 「期末の授業アンケート分析」

当該科目の「(期末) 授業アンケート」結果を定型フォームで出力。

- ④ 「授業改善レポート入力」

当該科目の「授業改善レポート」作成機能。

- ⑤ 「成績入力」

期末試験後の一定期間、LO 別の成績入力を行う画面へ移動するボタンが表示される。成績入力期間が終了すると、成績入力ができないよう成績入力ボタンは上図のように非表示となる。

【注 1】「学修成果評価システム」【サンプル図】

「学修成果評価システム」では、科目コード（指定方法によって、学科（学位プログラム単位）や科目群、特定の科目が指定可能）、授業方法、開講時期、必修・選択、入学年度の条件を複数指定し、それらの各条件にマッチした授業科目における LO 別の成績評価と到達度に関する学生の自己評価（「授業アンケート」）、評価全体の中での各 LO の配分バランスを対比できるようになっている。また、複数の条件を指定すると、それぞれ単体でレーダーチャートが表示されると同時に、すべての条件を重ね合わせたレーダーチャートも表示される。

下図は、特定の1科目に対して、異なる入学年度を指定し、入学年度の違う学生でどのような差異があったかを確認した事例である。

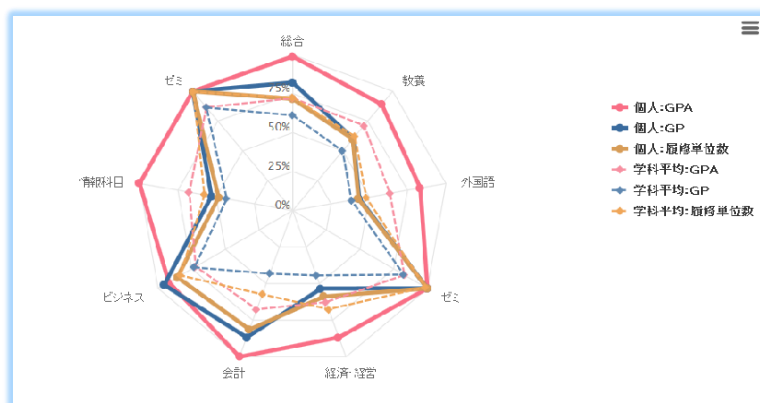


また、グラフの重ね合わせた際に、線が重なりすぎて見にくい部分については、拡大表示した右図で示すように一部の項目を非表示とすることもできる。

【注2】「学生情報ファイル・システム (SIF)」【サンプル図】

右図のグラフが、総合・科目群別に、学生本人と学科平均の GPA・GP・履修科目数を対比させたレーダーチャート。

このレーダーチャートは、下図に示す SIF のトップ画面である各期の履修科目のみ学修成果と、入学後から各期までの累計



の学修成果の一覧表から、閲覧したい学期、またはある学期までの累計のいずれかの数値を選択することで表示される。

Toyama College
WebSyllabus ✖ ログアウト

↑ 履修中科目
 ☰ 系統図等
 🔍 科目検索
 ⚙️ その他機能

学籍番号: 99M999 氏名: 立山 花子

成績(経営情報学科教育課程)

	1年前期			1年後期			2年前期			2年後期		
	単位	GP	GPA	単位	GP	GPA	単位	GP	GPA	単位	GP	GPA
累計	-	-	-	53	208	3.92	61	240	3.93	71	279	3.93
期のみ	24	94	3.92	29	114	3.93	8	32	4.00	10	39	3.90

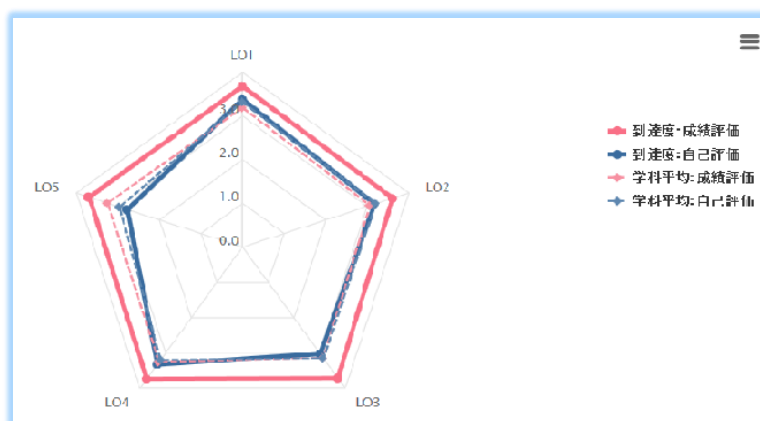
また、上図のいずれかの数値を選択すると、その学期、またはその学期までの累計の詳細な成績が表示される。

全体の成績である総合の他、科目群毎に履修単位数や取得単位数、GP、GPAが表示され、かつ学科内の平均値と最高値も併せて表示される(右図)。

	履修単位数		取得単位数		GradePoint		GPA		
総合	53	(52.7) 【62】	53	(51.0) 【62】	208	(140.7) 【232】	3.92	(2.60) 【3.96】	
教養科目	教養	8	(8.9) 【12】	8	(8.8) 【12】	30	(25.3) 【42】	3.75	(2.76) 【4.00】
	外国語	6	(2.7) 【6】	6	(2.6) 【6】	24	(6.9) 【24】	4.00	(2.38) 【4.00】
	ゼミ	2	(2.0) 【2】	2	(1.9) 【2】	8	(6.6) 【8】	4.00	(3.30) 【4.00】
専門科目	経済・経営	11	(9.7) 【11】	11	(9.5) 【11】	44	(24.1) 【44】	4.00	(2.41) 【4.00】
	会計	7	(6.7) 【7】	7	(6.5) 【7】	28	(15.5) 【28】	4.00	(2.28) 【4.00】
	ビジネス	8	(9.5) 【10】	8	(9.3) 【10】	30	(27.2) 【40】	3.75	(2.78) 【4.00】
	情報科目	11	(13.3) 【17】	11	(12.5) 【17】	44	(35.4) 【68】	4.00	(2.56) 【4.00】
	ゼミ	-	(-) 【-】	-	(-) 【-】	-	(-) 【-】	-	(-) 【-】

[注] ○内の数値は学年全体の平均値
 [注] 【】内の数値は学年全体の最高値

さらに、総合や各科目群の名称を選択すると、LO1~LO5の学修成果について、該当科目のみの学生本人と学科平均のLO別成績評価と到達度自己評価(「授業アンケート」)を対比させたレーダーチャートが表示される(右図)。



3. Web シラバスの掲載項目

Web シラバスに掲載される項目は、次の計 24 項目である。

- | |
|------------------------|
| ① 科目に関する基本項目 (10 項目) |
| ② 関連科目に関する項目 (3 項目) |
| ③ 評価方法に関する項目 (3 項目) |
| ④ 授業概要に関する項目 (3 項目) |
| ⑤ 各回の授業内容に関する項目 (5 項目) |

詳細は下表及び下図の通り。

科目に関する基本項目	関連科目に関する項目
科目名称	前提科目 (前提知識)
科目コード	関連科目
科目区分 [注1]	後継科目
開講時期	評価方法に関する項目
必修・選択区分	学修成果別の学生が獲得すべき具体的な成果
授業の方法 [注2]	学修成果別、評価方法別の配点
単位数	学修成果別の評価基準 (ルーブリック)
担当教員名	各回の授業内容に関する項目
資格等取得との関連	授業内容詳細
テキスト・参考書等	事前学習に関する事項
授業概要に関する項目	事前学習に必要とされる標準的な時間
授業の概要	事後学習に関する事項
学習目標	事後学習に必要とされる標準的な時間
キーワード	

[注1] 専門/教養の別, 科目群

[注2] 講義, 演習, 実習等

(1) 掲載項目(1)

Web シラバスの冒頭には、まず授業科目名の次に「科目に関する基本項目」、次いで、「関連科目に関する項目」、「授業概要に関する項目」が記載される。

Webシラバスにおける掲載項目 (1)



科目に関する基本項目
関連科目に関する項目
授業概要に関する項目



(2) 掲載項目(2)

次いで、「評価方法に関する項目」が掲載されている。

まず、①「学生が獲得すべき具体的な成果」として、当該授業で学生に獲得して欲しい「学修成果」をLO別に具体的に記載している。

授業科目の特性によって、LO1~LO5 までの全ての「学修成果」について記載されている訳ではない。

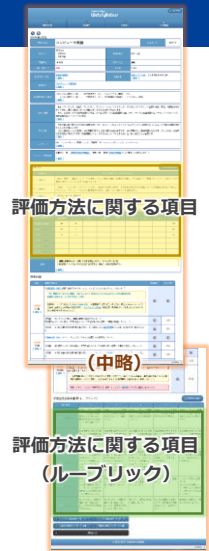
次いで、②「LO別の評価方法・配点」を記載している。ここでは、筆記試験（定期試験・小テスト）、提出課題（レポート・作品等）、成果発表、その他（A~C）別に、LO別に配点を記載する。その他（A~C）は、備考欄に、例えば「(毎回) 授業アンケート」結果を利用する旨を記載するなどして、様々な成績評価の方法に対応するために設けられている。

Web シラバスの最下段には、③「学修成果別評価基準（ルーブリック）」を記載し、到達水準・成績評価基準を具体的に明記している。

Webシラバスにおける掲載項目 (2)

評価方法	評価項目	評価基準
LO1	【評価方法】 定期試験・小テスト	【評価基準】 合格
LO2	【評価方法】 システム的（プログラミング的）課題の提出	【評価基準】 合格
LO3	【評価方法】 授業参加・発表力	【評価基準】 合格
LO4	【評価方法】 課題心・態度・態度	【評価基準】 合格
LO5	【評価方法】 授業参加・発表力	【評価基準】 合格

学修成果	到達水準	成績評価
LO1	到達水準の達成	合格
LO2	到達水準の達成	合格
LO3	到達水準の達成	合格
LO4	到達水準の達成	合格
LO5	到達水準の達成	合格



評価方法に関する項目

(中略)

評価方法に関する項目 (ルーブリック)

(3) 掲載項目(3)

「授業計画」には、「各回の授業内容に関する項目」を掲載している。

①各回の授業内容。②事前学習内容。③事前学習に必要なとされる標準的な時間。④事後学習内容。⑤事後学習に必要なとされる標準的な時間。

なお、各回の授業・事前学習・事後学習の欄には、PDF ファイル等の様々な作成教材の添付やインターネットへのリンク設定が可能である。

また、各回の授業・事前学習・事後学習の欄の右端にあるのが「課題提出ボタン」で、Web シラバス・システムへのデータアップロードが可能であり、予習・復習課題の提出のみならず、授業中にそれらを用いることで双方向授業にも活用されている。

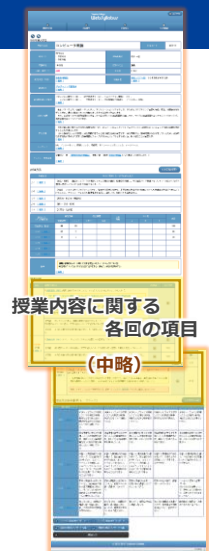
さらに、画面には表示されていないが、各回の授業欄の左端には、授業日になると、後述する「(毎回) 授業アンケート」(リフレクション・シート) 入力ボタンが表示されるようになっている。

Webシラバスにおける掲載項目 (3)

日次	授業内容	時間	備考
09/01	【授業】 本日の授業内容を資料等で振り返り、かつ確認した。課題提出を行う。18:00までに提出すること。	90分	
09/02	【授業】 本日の授業内容を資料等で振り返り、かつ確認した。課題提出を行う。18:00までに提出すること。	90分	
09/03	【授業】 本日の授業内容を資料等で振り返り、かつ確認した。課題提出を行う。18:00までに提出すること。	90分	

(中略)

日次	授業内容	時間	備考
09/04	【授業】 本日の授業内容を資料等で振り返り、かつ確認した。課題提出を行う。18:00までに提出すること。	90分	
09/05	【授業】 本日の授業内容を資料等で振り返り、かつ確認した。課題提出を行う。18:00までに提出すること。	90分	



授業内容に関する各回の項目

(中略)

IV. AP 事業の成果（中間報告）

1. 「授業改善」のための仕組みとその成果

(1) 「授業改善」のための PDCA サイクルの仕組みと定着

① 「(毎回) 授業アンケート」(リフレクション・シート) の実施

Web シラバスで行っている「(毎回) 授業アンケート」(リフレクション・シート) では、①理解度、②興味・関心度、③授業への参加度、④授業外学習時間、⑤授業内容のポイントのまとめ、⑥授業内容に関する「問い」の生成 (Question Making)、⑦自由記述を行っている。

これによって、学生の理解度、興味・関心度、学習意欲等をリアルタイムで把握することができ、次回の授業の設計に役立てることができる。また、(6) の疑問・問いにフィードバックすることにより、学生一人一人の問題関心・興味に対応した双方向の授業が可能となる。

「(毎回) 授業アンケート」(リフレクション・シート) の内容	
設問	選択肢
(1) 今日の授業の内容はどの程度理解できましたか。	A 非常に良く理解できた(理解度9割以上) B ほぼ理解できた C あまり理解できなかった D ほとんど理解できなかった(理解度2割以下)
(2) 今日の授業の内容に興味・関心が持てましたか。	A 非常に興味を持てた(積極的に自ら学びたいと思った) B やや興味を持てた C あまり興味を持てなかった D 全く興味を持てなかった
(3) 今日の授業に積極的に取り組みましたか。	A 積極的に取り組んだ B ほぼ積極的に取り組んだ C あまり積極的に取り組まなかった D まったく積極的に取り組まなかった
(4) 今日の授業に関する授業外学習時間を入力してください。	【「分」単位で記入】
(5) 今日の授業で、あなたが学んだことの中で一番重要なことは何ですか。	【記述】
(6) 最後に、どのような疑問が一番頭に残っていますか。	【記述】
(7) その他(感想・意見・要望など)、自由に記述してください。	【記述】

② 「(期末) 授業アンケート」の実施

「(期末) 授業アンケート」は、授業改善のための強力な手段となっている。同アンケートは Web シラバス・システム上で実施されるため、アンケートの集計結果は直ちに定型フォームで出力され、教員ならびに学生に開示される。

③ 「授業改善レポート」の作成

平成 27 年度より、教員はこの「(期末) 授業アンケート」結果に基づいて、同じく Web シラバス・システム上にある定型フォームの「授業改善レポート」を作成し提出することとした。「授業改善レポート」の内容は、①取り組んだ授業改善の概況、②課題、③改善計画の 3 項目である。

平成 28 年度からは後期の FD 研修会で、この「授業改善レポート」に基づいて、各学科から 1 名の教員が「授業改善事例」を報告し、その内容を年度末に『授業改善事例集』として纏め、教員間で改善内容・方法等の共有に努めている。

【注】科目の「授業アンケート」結果と「授業改善レポート」【サンプル図】

2017年度 1年後期 授業アンケート結果

授業科目名			科目コード	M171-21
科目区分	専門科目 > 情報科目 > 情報理論	担当教員名		
開講時期	1年後期	授業の方法	講義	
必修・選択	必修	単位数	2単位	

評価方法/LO	筆記試験		提出課題		成果発表	その他			合計
	定期試験	小テスト	レポート	作品		A	B	C	
総合評価(割合)	80	20							100
LO1	65	15							80
LO2	15	5							20
LO3									
LO4									
LO5									

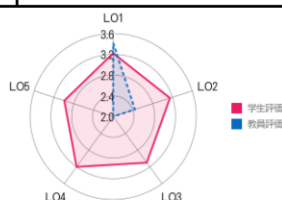
集計結果

回答者数	117人	履修者数	122人	回答率	95.9%
------	------	------	------	-----	-------

I. 授業で獲得できた「学修成果」に関する自己評価

問1 この授業では、皆さんは、どの程度「学修成果」を獲得したと自分で評価しますか。

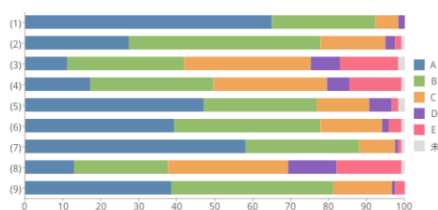
- (1) 授業で説明された知識を理解し、身に付けることができた。
- (2) 授業で目指された、実践や表現、分析等のための技能（スキル）を身に付けることができた。
- (3) 授業で学修した知識・技能を活用して、当該分野の課題を解決あるいは表現・実践できるようになった。
- (4) 当該分野に対する関心が高まり、自ら主体的に学ぶ意欲、あるいは課題に取り組む意欲が増した。
- (5) 他者や社会、自然・環境との関わりの中に生きる人間として必要な社会性・人間性が身に付いた。



II. 授業形態・方法

問2 この授業では、「学修成果」を高めるために、どのような工夫がなされていましたか。

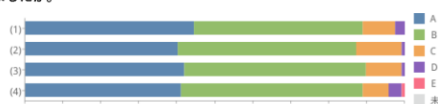
- (1) 教材（配布資料、板書、スライド等）が工夫されていた。
- (2) 授業中に、学生の意見や考えを求められた。
- (3) グループワークやディスカッションなど、学生の参加・協働学習の機会があった。
- (4) 体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク等）の機会があった。
- (5) 期末試験の他に、小テストやレポートなどの課題が出された。
- (6) 課題などの提出物が、適切なコメントが付されて返却された。
- (7) 毎回の授業アンケート（「質問・意見」など）に関する解説・回答などフィードバックがあった。
- (8) 個別指導や補習が行われた。
- (9) その他、「学修成果」を高める工夫がなされた。



III. 学習意欲を高める授業内容・方法の工夫

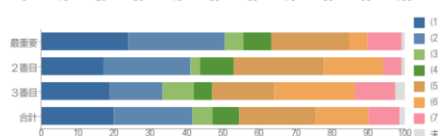
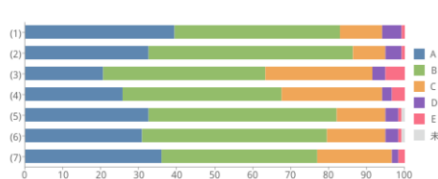
問3 この授業の目的や「学修成果」、成績評価の方法・基準、内容についての程度理解できましたか。

- (1) 「授業の目的」が明確で、理解できた。
- (2) 「学修成果」（授業を通じて獲得できる力）について説明があり、理解できた。
- (3) 「成績評価の方法」と「ルーブリック（評価基準）」の説明があり、理解できた。
- (4) 「授業の内容」は、分かりやすく理解できた。



問4 この授業の効果・成果について、どのように評価しますか。

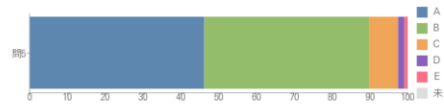
- (1) 授業の内容・方法は、自分の興味・関心を喚起するものだった。
- (2) 授業の内容・方法は、将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立った。
- (3) 授業の内容・方法は、人に分かりやすい文章を書く力を獲得する上で役立った。
- (4) 授業の内容・方法は、人に分かりやすく話す・説明する力を獲得する上で役立った。
- (5) 授業の内容・方法は、ものごとを分析的・論理的に考える力を獲得する上で役立った。
- (6) 授業の内容・方法は、課題を見つけ、解決方法を考える力を獲得する上で役立った。
- (7) 授業の内容・方法は、社会に出ていく上で必要な社会性・人間性を高める上で役立った。
- (8) この授業を評価するにあたって、上記の項目の中で最も重要と思うものはどれですか。
- (9) この授業を評価するにあたって、上記の項目の中で2番目に重要と思うものはどれですか。
- (10) この授業を評価するにあたって、上記の項目の中で3番目に重要と思うものはどれですか。



IV. 総合評価

問5 あなたにとって、この授業は、総合的に良かったと思いますか。

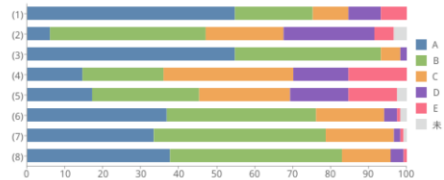
総合評価 3.32



V. 学修行動（学習意欲に関する自己評価）

問6 あなた自身は、この授業にどのように取り組みましたか。

- (1) この授業の欠席回数は何回ですか。
- (2) 授業1回あたりの、授業外学習（予習・復習・宿題・試験対策等の）時間はどれくらいですか。
(A: 3時間以上, B: 1.5時間以上3時間未満の3項目, ..., E: 30分未満, 0分の2項目をまとめている)
- (3) 授業で出された課題や宿題はきちんと行った。
- (4) 授業中に、質問や発言をした。
- (5) 授業時間以外に、担当教員に質問したり相談をした。
- (6) 予習・復習・宿題・試験対策等、友だちと一緒に学習した。
- (7) 授業で分からなかったこと、興味を持ったことは、自主的に調べた。
- (8) 良い成績をとるために努力した。



授業改善レポート

概況

- (1) 昨年度比、学修成果の自己評価が昨年度比、すべての項目で0.2から0.4程度上昇。
今年度の学生は全体的にポジティブな評価をする傾向があるが、前年度の課題、自己肯定感を高めるという方向性は満たせた。
- (2) 授業外の学修時間の(A)、(B)の回答者が50%弱まで増加（昨年度は20%弱）。
一方、(E) 30分未満も昨年度の20%程度から10%弱まで減少。
学生の学修量が劇的に増加したとは考えにくいですが、アンケートの趣旨がきちんと伝わってきている。

課題

- (1) 期末試験段階（再試験評価前）で、S評価の学生が41%、A評価 20%、B評価 15%、C評価 10%である一方、F評価が14%と上位層と下位層の差が大きい。
正規分布にしたがうとすると、本来はもう少し難易度を上げ授業を行うべきであるが、その場合、下位の学生が授業を理解することがかなり難しくなる。

改善計画

- (1) 下位5~10人の学生については、他の科目の成績も低調であり、科目毎の取り組みよりも、授業を聞いて理解ができるという基本的な資質の再教育、ノートテイクのポイントなど基礎的な資質の教育を検討する。
個別の対応としては、毎回の小テスト（練習問題）に、他の学生よりもコメントを多く書き、学生の気づきを多少でも喚起する。

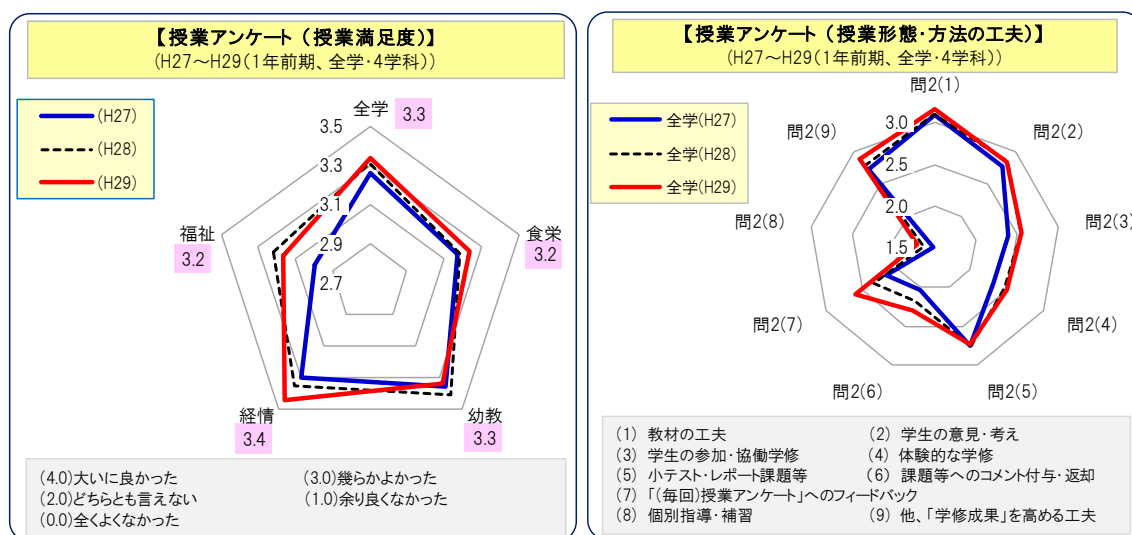
(2) 「授業改善」の進展とその効果・成果

右の表に見られるように、平成 27 年度以降、「授業改善」の進展が顕著である。

その効果・成果は、「(期末) 授業アンケート」における、「授業満足度」の上昇に見られる。

授業形態・方法の工夫としては、様々な工夫がなされている。特に、改善が顕著な例としては、「(毎回) 授業アンケート」(リフレクション・シート) へのフィードバックが多く授業でなされるようになった点。次いで、グループワーク等の学生の「参加・協働学修」を促す授業や体験学習を取り入れる授業の増加が顕著である。

主な指標に見る、「授業改善」の進展			
	(平成)	26年度	28年度
① ルーブリックにより、成績評価基準の可視化を行っている科目の割合(専任)	%	未測定	100.0
② アクティブラーニング授業科目の割合(専任)	%	44.0	58.5
③ 授業外学修時間を調査している科目の割合	%	44.2	100.0
④ 「(期末)授業アンケート」実施科目の割合	%	41.0	100.0
⑤ 「授業改善レポート」作成教員の割合(専任)	%	0.0	94.7
⑥ 「授業改善レポート」作成科目の割合	%	0.0	62.8



2. 「学修行動」改善のための仕組みとその成果

(1) 「主体的な学び」のための「振り返りと気づき」を促す仕組み作り

① 「(毎回) 授業アンケート」(リフレクション・シート)の実施

「学修成果」の向上には「主体的、対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)が欠かせず、そのためには学生自身の「振り返りと気づき」(Reflection (内化))が必要である。

「振り返りと気づき」(Reflection (内化))を促すには、「書く・話す・発表する・「問い」を生成する」等、知識・理解や思考、技術等を表現(外化)する作業や、グループワークや協働学修等において互いに表現し合い、自らを客観化・相対化する作業が効果的である。

Web シラバスでは、前掲の「(毎回) 授業アンケート」(リフレクション・シート)で、①理解度、②興味・関心度、③授業への参加度、④授業外学習時間、⑤授業内容のポイントのまとめ、⑥授業内容に関する「問い」の生成(Question Making)を行い、「振り返りと気づき」を促す一助としている。

特に、⑥で生成された「問い」に関しては、次の授業で学生にフィードバックすることで、個々人の多様な理解の程度・仕方・興味・関心に応じた、1対1の個別対応が可能となり、一人一人の「振り返りと気づき」を促す上で効果的である。

②「学生情報ファイル・システム (SIF)」による「振り返りと気づき」の喚起

「学修成果」に関する各種情報は、SIF (学生情報ファイル・システム) を通じて学生にフィードバックされ、学生の「振り返りと気づき」を促す一助としている。すなわち、「学修成果 (LO1~LO5)」別成績評価と自己評価はレーダーチャート化され、学科平均・科目群平均との比較もできるようになっている。各種学生アンケートの集計結果も SIF にフィードバックされ、自らの客観化・相対化に資するようになっている。

③アクティブ・ラーニング環境の整備

併せて、文部科学省の「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」の補助金を得るなどして、学生の自学自習・協働学習のためのラーニング・コモンズやグループワーク専用ルーム、プレゼンテーション・スタジオ等アクティブ・ラーニング環境の整備も進めている。

ラーニング・コモンズには、2台のプロジェクター/スクリーンと2台の50インチ液晶モニター、可動式のテーブルと椅子、A3対応レーザープリンター等を装備。

グループワーク専用ルームには、3台の無線プロジェクター/スクリーンと10台の32インチ液晶モニター、可動式のテーブルと椅子を装備。

プレゼンテーション・スタジオには、47インチ液晶モニター12台を連結した幅4,156mm高さ1,752mmの大型マルチビジョン・システムを導入して、ポータブル・ステージや音響設備も整えるなど、各種のプレゼンテーション・発表会等に活用されている。

平成28年度には、廊下やオープン・スペース、小規模教室を利用して、壁面やホワイトボード等に近接距離から投影する短焦点プロジェクターや55インチの大型モニターを導入し、小規模なグループワークが手軽に行える、「分散型小規模協働学習環境」の整備も行った。

【ラーニング・コモンズ】



【グループワーク専用ルーム】



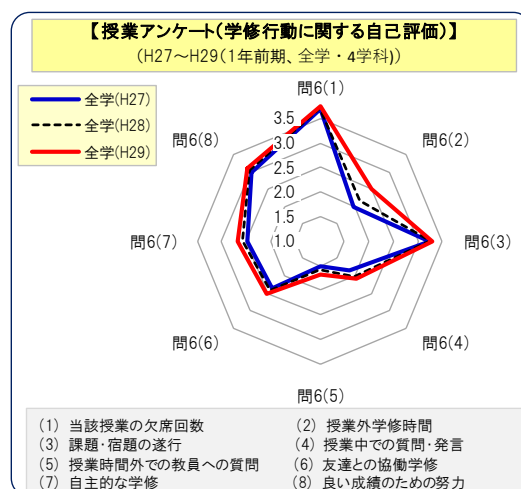
【プレゼンテーション・スタジオ】



(2) 「学修行動」の変容と「学修成果」の向上

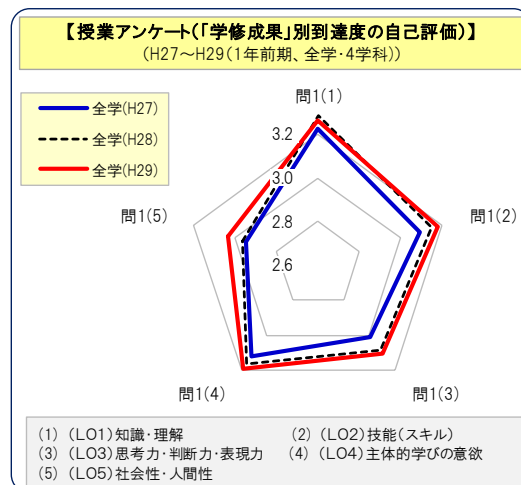
① 「学修行動」の変容

例えば、平成 27 年度から 29 年度の 1 年前期の授業科目に関する授業アンケート結果を比較すると、授業外学修時間には顕著な改善が見られる。また、授業中での質問・発言や、友だちとの協働学修、自主的な学修といった「主体的な学び」の姿勢が着実に改善している。



② 「学修成果」の向上

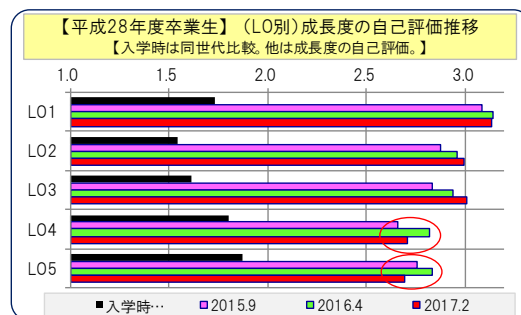
同様に、平成 27 年度から 29 年度の 1 年前期の授業科目に関する授業アンケート結果から、「学修成果」の「5つの基準 (LO1~LO5)」別到達度の自己評価を見ると、全ての「学修成果」において着実な向上が見られる。



③ 「学修成果」に関する成長実感

1 年後期初、2 年次初の「学修行動・生活調査」では、先に掲げた全学的な「学修成果」のベンチマークである「17の資質・能力」について成長度を自己評価している。

右図は、平成 28 年度卒業生の入学時から卒業時までの「学修行動・生活調査」で「21の資質・能力」(平成 29 年度に「17の資質・能力」に修正) について成長度の自己評価を「学修成果」の「5つの基準」別に見たものである。なお、入学時は、到達水準の同年代との比較を訊いている。概ね、成長実感が高まっていることが分かる。



3. 教育課程の体系化と「カリキュラム・マップ」による点検・見直し

平成 24 年度に、文部科学省の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の補助金を得て、授業・学修支援システムである「Web シラバス・システム」を構築した。このシステムが AP 事業における「学修成果の可視化」のプラットフォームとなっている。

シラバスを Web 上に載せるにあたっては、学科別・科目群別に授業科目の関連性と系統性を考慮したナンバリングを行うことが必須であった。また、関連性・系統性が明示されたので、「科目関連系統図」を Web シラバスに掲載し、学生の学修の一助としている。

平成 27 年度には、「Web シラバス・システム」内で、各学科の「カリキュラム・マップ」を自動的に作成できるようにした。これは、Web シラバスに記載されている、各授業科目の「学修成果 (LO1～LO5)」別配点を集計したものである。

この「カリキュラム・マップ」と「学修成果 (LO1～LO5)」別成績評価ならびに学生による到達度・成長度の自己評価を比較することによって、各学科のカリキュラム編成が DP (ディプロマ・ポリシー) に沿ったものであるか否かをチェックできるようになるとともに、CP (カリキュラム・ポリシー) の観点から各授業科目の「学修成果」、「学修成果」別配点、ひいては授業内容等の点検を行うことが可能となった。

こうして各学科では、毎年度、「学修成果の可視化」によって得られたエビデンス等に基づいて、カリキュラム編成の点検・見直しを行っている。

4. 第三者評価の PDCA への反映

(1) 「富山短期大学外部評価委員会」による第三者評価

平成 27 年 3 月、学識経験者やステークホルダーから成る「富山短期大学 外部評価委員会」を設置し、年 2 回開催している。

富山短期大学 外部評価委員会 議題一覧	
【第 1 回】	平成 27 年 3 月 16 日 (月) 13 : 30 ~ 15 : 30 (富山電気ビルディング 5 階 中ホール) (議題) ① 「大学教育再生加速プログラム (AP)」事業について ② 「第三者アンケート」調査項目について
【第 2 回】	平成 27 年 9 月 18 日 (金) 10 : 00 ~ 12 : 00 (富山短期大学 A 館 2 階 大会議室) (議題) ① 富山短期大学「教育再生加速プログラム (AP)」事業の検証・評価 ① 平成 26 年度実績報告及び平成 27 年度申請計画 ② (平成 27 年度前期) アンケート結果の概要と今後の課題・対応 ③ 「就職先アンケート」・「卒業生アンケート」の実施要領・調査票 ② 「富山短期大学アクションプラン」と地域貢献・地域基盤人材の育成方策
【第 3 回】	平成 28 年 3 月 9 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 30 (富山短期大学 A 館 2 階 大会議室) (議題) ① 「(富山短期大学) 第三者アンケート」結果について ② 「(富山短期大学) 第三者アンケート」結果の活用について ～「インターンシップ・ルーブリック (簡易評価表)」(たたき台)～
【第 4 回】	平成 28 年 8 月 25 日 (木) 10 : 00 ~ 12 : 00 (富山短期大学 A 館 2 階 大会議室) (議題) ① 「アクションプラン・レビュー 2015」について ② (報告事項) 「AP 事業 1 年延長計画」について ③ 「富山短期大学「3つのポリシー」の改正案」について ④ 「富山短期大学 2015 年度入学者の追跡調査」について
【第 5 回】	平成 29 年 3 月 13 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 00 (富山短期大学 A 館 2 階 大会議室) (議題) ① (報告事項) 「AP 事業活動の概要」について ② (報告事項) 「富山短期大学 平成 28 年度 授業改善事例集」について ③ 「富山短期大学「三つの方針」の改正」について ④ 「「学修成果」の分析」について ～「(経営情報学科) 平成 28 年度卒業生の「学修成果」を参考として」～
【第 6 回】	平成 29 年 9 月 22 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00 (富山短期大学 A 館 2 階 大会議室) (議題) ① 「「授業改善」効果の検証」について ② 「アクションプラン・レビュー 2016」及び「富山短期大学の今後」について

外部評価委員会は、学外者の立場から検証及び評価を行い、AP 事業に限らず広く本学の教育研究活動の質的向上及び管理運営等の改善に資することを目的としている。

外部評価委員会では、毎回、AP 事業に関する議題を取り上げ、対外的説明責任を果たすとともに、外部評価委員の評価・意見・アドバイス等を PDCA サイクルに反映させ、AP 事業の改善につなげている。

(2) 「第三者アンケート」(平成 27 年 11 月実施) のインプリケーション

平成 27 年 11 月、本学の卒業生を対象とした「卒業生アンケート」、ならびに本学卒業生の就職先を対象とした「就職先アンケート」を実施した。小規模の「第三者アンケート」は毎年実施しているが、大規模な調査は数年置きに行うこととし、平成 29 年 12 月にも第 2 回目を実施した。

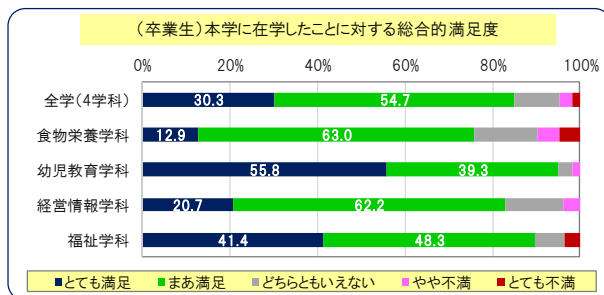
「就職先・卒業生アンケート」の概要	
実施年月	平成27年11月
送付卒業生	過去3年間の卒業生 1,070人 回答数(回答率) 247人(23.1%)
送付就職先	過去7年間の卒業生の就職先 852先 回答数(回答率) 420先(49.3%)

「第三者アンケート」の目的は次の 3 点である。

- ① 社会で求められている・期待されている「学修成果」(資質・能力/リテラシーとコンピテンシー)の明確化。すなわち、本学卒業生の採用時ならびに仕事上で求められる資質・能力を明らかにし、DP ならびに CP の改善に反映させる。
- ② 社会から求められている、社会から評価される授業内容・工夫の明確化。
- ③ 本学卒業生の「学修成果」ひいては本学の「教育成果」に関する就職先と卒業生の評価。

平成 27 年度の「第三者アンケート」結果の主なポイントは次の様である。

- ① 卒業生は、本学に在学したことについて概ね満足している。



- ② (職種によって異なるが総じて) 就職先が本学卒業生を採用するに当たって重視する資質・能力は、専門分野の基礎的知識・技能 (LO1) や、広い意味での情報リテラシー (LO2) 等ではなく、まず協調性・協働性 (LO5)、次いで粘り強さ、チャレンジ精神、計画的行動力、自学自習力 (以上、LO4)、課題解決力 (LO3) 等であった。

これらの採用時に就職先が重視する資質・能力については、就職先は現在の卒業生をそれなりに高く評価している。

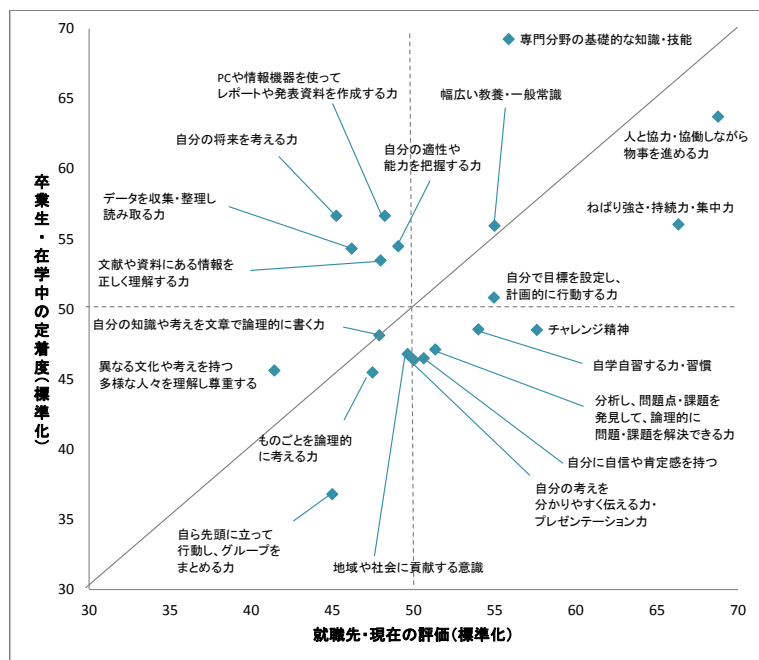
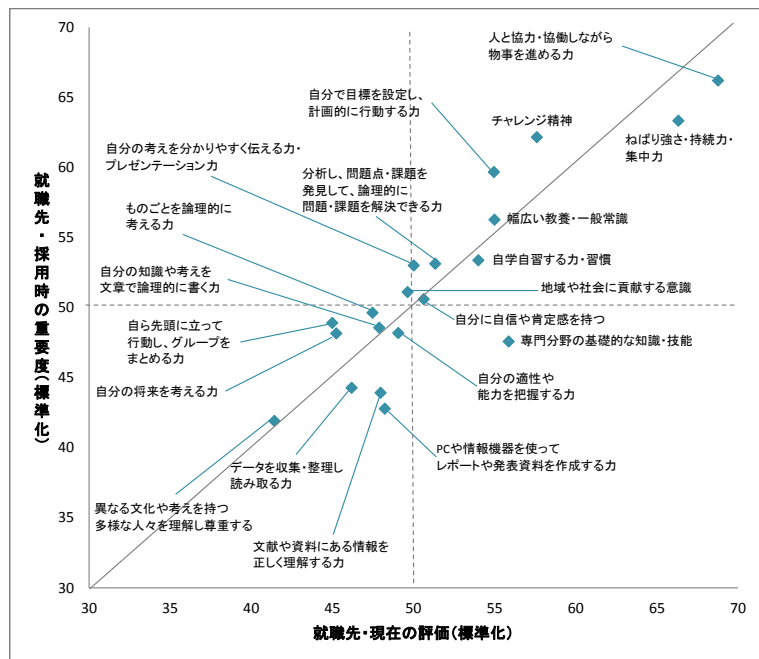
- ③ しかしながら、これらの資質・能力について、卒業生が在学中にどの程度身に付けたかを訊くと、専門分野の基礎的知識・技能 (LO1) や、PC や情報機器の操作力やデータの収集・整理・理解力といった広い意味での情報リテラシー (LO2) に関しては高く自己評価しているものの、上記の (LO4)、(LO3) については低い評価となっている。

このように就職先が (LO5) や (LO4) を重視していることに鑑みて、平成 28 年度に「三つの方針」を改訂するに当たっては、DP における「学修成果」の内容を見直し、特に

それまで「21に資質・能力」としていた全学的なベンチマークを「17の資質・能力」に改めた。

このように、外部評価委員会での議論や「第三者アンケート」の結果を、教育の「質向上」と「質保証」のためのPDCAサイクルに反映している。

なお、平成29年12月に実施した「第三者アンケート」の調査結果概要は【参考資料8】を参照。



V. 今後の課題

平成 28 年度をもって、「Web シラバス・システム」をプラットフォームとする、「学修成果の可視化」による教育の「質向上」・「質保証」のためのシステムの開発・構築がほぼ一段落した。平成 29 年度以降は、これらのシステムから得られた各種データを活用して、教育の「質向上」と「質保証」のための PDCA サイクルの実質化と改善活動の本格化、「対外的説明責任」のためのエビデンスの整備を図っていくことが課題である。

具体的には以下の 5 点。

①「学修成果」の評価・アセスメント方法の精緻化

対外的「説明責任」をきちんと果たし、本学の教育に対する地域・社会からの信頼を一層高めるには、「可視化」する「学修成果」指標の信頼性を高めること、すなわち「学修成果」の精緻な評価手段・方法の開発・工夫が必要となる。

特に、「思考力・判断力・表現力」(LO3)、「主体的に学ぶ力」(LO4)、「協働力」(LO5)をどのように評価・アセスメントするのか。「ルーブリック」の精緻化・活用や「アセスメント・テスト」の開発も含めて、その評価手段・方法の開発が根本的に求められている。

②「アセスメント・テスト」の開発・活用

これまでの処、「学修成果」の可視化は、教員による成績評価と学生による主観的な自己評価によっている。「学修成果」指標の信頼性を高めるには、「アセスメント・テスト」等の導入によって、「学修成果」の客観的な可視化が求められる。

そこで現在、(一社)学修評価・教育開発協議会において、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を測定するための方法・テストの開発を進めている。

③「学修支援 IR」の推進による「主体的な学び」の促進

「学修成果」の向上を図る上で重要な課題は、学生の「主体的な学び」を促すことである。

「主体的な学び」・「高い学習意欲」が良好な「学修成果」と高い相関にあることは、各種の学生アンケート結果から検証されている。

そこで「主体的な学び」や「高い学習意欲」を喚起する上で効果的な授業内容・方法や学修支援・個別指導の在り方はどのようなものか、各種学生アンケートから得られるパネルデータ等に基づいた「学修支援 IR」を推進することが喫緊の課題である。

④「授業改善 IR」の推進による「学修成果」の向上

「学修成果」を高める授業形態・方法、特にアクティブ・ラーニング型授業の手法・工夫はどのようなものか、各種学生アンケートから得られるパネルデータ等に基づいた「授業改善 IR」を推進していくことも喫緊の課題となっている。

⑤ その他 IR の推進

各種データをパネルデータとして活用し、効果的な入学者選抜方法の在り方、就職支援の在り方等についての検討を始めることも今後の課題である。

参考資料

- 【参考資料 1】 AP（テーマⅡ）事業における「数値目標」と達成状況
- 【参考資料 2】 「富山短期大学「三つの方針」（平成 29・30 年度改正）
- 【参考資料 3】 AP 事業の実施状況と計画（年度別）
- 【参考資料 4】 外部評価委員会の AP 事業に対する主なご意見・評価
- 【参考資料 5】 AP 事業の対外的波及のための取組
- 【参考資料 6】 「平成 29 年度 授業アンケート」
 - 1. 1 年生 前期科目
 - 2. 1 年生 後期科目
 - 3. 2 年生 前期科目
 - 4. 2 年生 後期科目
- 【参考資料 7】 「平成 29 年度 学修行動・生活調査（2 年前期）」
- 【参考資料 8】 「平成 29 年度 第三者アンケート調査結果の概要」
 - 就職先アンケート（要旨）
 - 卒業生アンケート（要旨）
- 【参考資料 9】 「富山短期大学 2015 年度入学者の追跡調査」
(第 4 回外部評価委員会提出資料（改訂版）)
- 【参考資料 10】 『富山短期大学 授業改善事例集』（目次）

【参考資料1】AP（テーマⅡ）事業における「数値目標」と達成状況

テーマにおける必須指標		26年度	27年度	28年度		29年度	30年度	31年度
		実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標
1	退学率 [%（退学者（除籍者を含む）/在籍者数）]	0.5	3.0	2.0	1.7	2.0	2.0	2.0
2	プレースメントテストの実施率 [%（テスト実施者/入学者数）]	26.7	30.0	54.5	62.5	54.5	100.0	100.0
3	授業満足度アンケートを実施している学生の割合 [%（実施学生数/在籍者数）]	44.0	90.2	95.0	85.8	95.0	95.0	95.0
4	授業満足度アンケートにおける授業満足率 [%]	81.1	84.6	80.0	82.4	80.0	80.0	80.0
5	学修行動調査の実施率 [%（実施学生数/在籍者数）]	44.0	90.2	100.0	85.8	100.0	100.0	100.0
6	学修到達度調査の実施率 [%（実施学生数/在籍者数）]	44.0	90.2	100.0	85.8	100.0	100.0	100.0
7	学生の授業外学修時間 [時間数（1週間当たり時間）]	約8.0	10.7	20.0	11.0	20.0	20.0	20.0
8	学生の主な就職先への調査 [実施の有無]	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
各大学等の任意の指標								
1	学修成果別の成績評価の実施割合 [%（実施科目/開講科目）]	0.0	28.9	25.6	39.2	25.6	80.0	80.0
2	学生の授業外学修時間を調査している科目の割合 [%（同上）]	44.0	100.0	50.0	100.0	50.0	80.0	100.0
3	「学生情報ファイル・システム」等を用いた学生への個別指導実施の割合 [%（対象学生/学生合計）]	未測定	未測定	4.5	4.8	4.5	13.6	13.6
4	各科目の評価平均値が基準値以内の割合 [%]	未測定	未測定	60.0	69.8	60.0	80.0	80.0
5	授業時に授業アンケートやミニッツ・ペーパー等を用いて学生からの反応を資料として確認している回数、全授業回数の3分の2以上の授業科目数の割合 [%、専任のみ]	36.6	37.6	60.0	52.2	60.0	80.0	80.0
6	学期末の授業アンケートを実施する科目数の割合 [%]	41.0	100.0	60.0	100.0	60.0	80.0	100.0
7	アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合 [%、専任のみ]	44.0	47.0	55.0	58.5	55.0	66.8	66.8
8	学生1人当り年間アクティブ・ラーニング科目受講数 [専任科目数]	12.7	13.9	18.0	18.1	18.0	20.0	20.0
9	アクティブ・ラーニングを導入した授業形態が「講義」科目の授業科目数の割合 [%、専任のみ]	30.2	36.5	25.0	53.5	25.0	40.0	40.0
10	卒業生へのアンケート調査 [有無]	未実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
11	専任教員1人あたりのFD研修参加回数 [回]	1.5	3.1	2.0	8.5	2.0	2.5	5.0
12	非常勤講師1人あたりのFD研修参加回数 [回]	0.0	0.2	0.5	0.4	0.5	1.0	1.0
13	ルーブリックの導入による成績評価基準の可視化を行っている専任教員担当科目の割合 [%]	未測定	未測定	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
14	「授業改善レポート」を作成している専任教員の割合 [%]	0.0	未測定	95.0	94.7	100.0	100.0	100.0
15	「授業改善レポート」を作成している授業科目の割合 [%]	0.0	未測定	63.0	62.8	70.0	75.0	80.0

(1) 「必須指標」の進捗状況

- ① 平成28年度の退学者数は12名であった。退学率は1.7%で、前年度より改善した。
- ② 幼児教育・経営情報学科の203名を対象にプレースメントテストを実施。実施率は62.5%となった。
- ③ 「学修行動・生活調査」で、授業満足度、学修到達度を調査しているため、③・⑤・⑥とも85.8%。
- ④ 授業に対する満足率は、平成27年度の80.5%から、平成28年度は82.4%に若干上昇した。
- ⑦ Webシラバスに予習・復習課題と必要時間を記入することを教員に周知し、予習・復習課題を課す授業科目が増えたことにより、平成28年度の授業外学修時間は11.0時間と、僅かながら増加した。
- ⑧ 例年、就職支援センター職員と各学科教員が卒業生の就職先を訪問し、聞き取り調査を行っている。平成27年度は、大規模な「就職先アンケート」を実施している。

(2) 「任意指標」の進捗状況

- ① 様々な方法で多面的に「学修成果」を把握して、「学修成果」別に成績を評価する授業科目が着実に増えている。そうした科目の割合は、平成 27 年度の 28.8%から 28 年度は 39.2%に上昇した。
- ② 学生の授業外学修時間は、学期末の授業アンケートで調査している。授業アンケートは、Web シラバス・システム上で行っているため、その実施率は、非常勤講師の担当科目も含めて 100%である。
- ③ 個別指導を実施した学生数は 33 名で、その割合は 4.8%であった。
- ④ 成績評価の平準化に関して、全科目の「GPA 平均±標準偏差」を基準として、その範囲に収まる科目数の割合を調べたところ 69.8%であった。
- ⑤ 「(毎回) 授業アンケート」ではミニッツ・ペーパー機能を備えており、この機能を利用して双方向の授業に役立っている科目数の割合は、平成 27 年度の 37.7%から 28 年度は 52.2%に上昇した。
- ⑥ ②と同じ。
- ⑦ アクティブ・ラーニングを導入する授業科目は着実に増えており、その割合は、平成 27 年度の 44.7%から 28 年度は 58.5%に上昇した。
- ⑧ それに伴って、学生一人当たり年間アクティブ・ラーニング科目受講数も 18.1 科目に増えている。
- ⑨ 講義科目でアクティブ・ラーニングを導入する例も増えており、開講講義科目全体に占める割合は、平成 27 年度の 33.1%から 28 年度は 53.5%に上昇した。
- ⑩ 平成 28 年度は、平成 27 年度卒業生のみを対象に卒業生アンケートを実施。
- ⑪ 平成 28 年度より、FD 研修会を教授会の後に開催するようにした結果、平成 28 年度の実施回数は 11 回となり、専任教員一人当たりの参加回数は 8.5 回となった。
- ⑫ 非常勤講師一人あたりの FD 研修会参加回数は、0.4 回にとどまっている。
- ⑬ 授業科目の Web シラバスでは、「学修成果」別の配点と評価方法を明記している。このため、すべての専任教員担当授業科目において、成績評価の基準を示す「ルーブリック」を掲載している。
- ⑭ 平成 27 年度より、専任教員は、定型フォームで可視化された「(期末) 授業アンケート」結果に基づいて、担当授業科目の「授業改善レポート」を作成している。平成 28 年度は、38 名中 36 名の専任教員が「授業改善レポート」を作成した。
- ⑮ この「授業改善レポート」は、担当する授業科目すべてについて作成することになっているが、平成 28 年度は全科目の 62.8%について作成された。

【参考資料 2】「富山短期大学「三つの方針」」（平成 29・30 年度改正）

富山短期大学 学則第 1 条 第 2 項の規定に基づき、本学の卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を次のとおり定める。

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

富山短期大学は建学の精神・教育理念に基づいて、「高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった地域社会の発展に貢献する人材」の育成、すなわち全人的な人間育成をめざし、次の「五つの力」を身につけることを全学的な教育目標としています。

- ① 実践の土台となる「専門的知識・技能」
- ② 実践を支える「思考力・判断力・表現力」
- ③ 生涯学び続け成長するための「主体的に学ぶ力」
- ④ 他者を尊重し多様な人々と共に共通の目標の実現に貢献できる「協働力」
- ⑤ 健全で豊かな「人間性」

これらを踏まえて、各学科がそれぞれの教育目的に応じて定める卒業認定・学位授与の方針に示す学修成果を修得し、本学の卒業要件を満たした人に短期大学士の学位を授与します。専攻科においては、専攻科修了認定方針に示す学修成果を修得し、所定の修了要件を満たした人の修了を認定します。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

富山短期大学がめざす人材を育成するために、本学の教育理念に沿って、各学科・専攻科がそれぞれの教育目的・目標に基づく学修成果の達成に必要な教育課程を体系的・系統的に編成し実施します。

教育課程の体系をわかりやすく示すために、科目間の連携や系統性を示すナンバリングを行い、併せて科目系統図を示します。さらに、各授業科目の学修成果と、学位プログラム全体・各学期の学修成果との関連をわかりやすく示すために、カリキュラム・マップを作成し提示します。

教育内容、教育方法・学修方法、評価については以下のように定めます。

I. 教育内容

2年間を通じて、各学科の教育課程の体系性に基づき、系統立てて必修科目、選択科目を適切に配置し教育を実施します。

II. 教育方法・学修方法

卒業認定・学位授与の方針に掲げる身につけるべき「五つの力」（「専門的知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学ぶ力」、「協働力」、「人間性」）育成のために、各学年・各学期に講義、演習、実習・実験・実技を適切に配列するとともに、すべての教科目においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の展開に努めます。

学生の「振り返り（リフレクション）」を促し、「主体的学び」へのモチベーションを高めるために、各種試験や課題・レポート、アンケート結果等を学期中にフィードバックする等の形成的評価に努めます。

Ⅲ. 評価

本学では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる学修成果の修得状況を、「学生個人」、「学科」、「大学」の3つのレベルで把握し、多面的・総合的に評価して、授業改善、学生の個別学習指導、ひいては教学の改善に役立てるとともに、対外的に教育の質保証を担保し、説明責任を果たすための可視化に努めます。

各授業科目の成績評価については、シラバスに示された学修成果別評価基準（ルーブリック）に沿って、学修成果の「五つの基準」（LO1：知識・理解、LO2：技能、LO3：思考力・判断力・表現力、LO4：関心・意欲・態度、LO5：人間性・社会性）別に、多様な手段と方法により、多面的・総合的かつ厳正に行うことを基本とします。

「学生個人」のレベルでは、各授業科目における学修成果基準別成績評価を累計して、学修成果基準別ならびに学修成果全体の実現・達成状況を確認するとともに、学期ごと及び累積のGPAを算出し、総合成績評価を行います。加えて、毎学期末の授業アンケートによる当該授業科目に関する学修成果基準別到達度、1年次前期末・後期末と卒業時に実施する学修行動・生活調査による学修成果基準別資質・能力の成長度を集計し、学生個人の学修成果の修得状況を多面的・総合的に評価します。

「学科」レベルの学修成果は、上記の「学生個人」レベルの学修成果の修得状況を累計して、多面的・総合的に評価します。

「大学」レベルの学修成果は、上記の「学科」レベルの学修成果の修得状況を累計して、多面的・総合的に評価します。

3. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

富山短期大学は、昭和38年、富山女子短期大学として創立以来、「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材の育成」を教育理念としてきました。

地域社会への貢献を社会的使命とする本学では、時代の要請に応えるべく、各分野でのスペシャリストの養成をめざしています。

この教育理念・教育目標に基づき、本学では、卒業認定・学位授与の方針に定める人材を、教育課程編成・実施の方針に則って育成するために、次のような人の入学を希望します。

- 高等学校での教育課程を幅広く修得している人
- 大学教育を受けるにふさわしい思考力・判断力・表現力を有している人
- 知性、教養を身につけ、個性豊かな人間をめざし、主体性をもって自己を高める努力をする人
- 積極的に他者との関わりをもち、地域社会の発展に貢献する意欲を持つ人

本学ではこのような入学者を適正に選抜するために、多様な入試方法を実施し、本学が求める資質・能力を多面的・総合的に評価します。

食物栄養学科の教育理念・目標と3つのポリシー

大学の教育理念 (学則 第1条)	学科の教育研究上の目的 (学則 第2条の2(1))
------------------	---------------------------

大学の教育理念 (学則 第1条)
 本学は、教育基本法及び学校教育法の精神(制)のこより深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実生活に必要な能力の向上を図るとともに、高い知性と広い教養と健全な個性をもった、地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。

学科の教育研究上の目的 (学則 第2条の2(1))
 食物栄養学科においては、食と健康に関する専門的知識や技術、豊かな感性や社会に奉仕する心を養いつつ、栄養士・栄養教諭並びに関連分野の人材の養成を目的として、卒業指導、給食管理や食物栄養に関する教育及び研究を行う。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アミジジョン・ポリシー
<p>【食物栄養学科が育成する人材像】</p> <p>食物栄養学科では、以下の能力・姿勢を修得し、本学の卒業要件を満たした人に短期大学士(食物栄養学科)の学位を授与します。</p> <p>【育成する人材に必要な力】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 食の専門知識・健康に関する専門知識 ② 食の専門職に必要な食と健康に関する専門技術・技法 ③ 食に関する課題の解決策を考案し判断できる能力・表現力 ④ 栄養と健康に関する生運にわたり学ぶ姿勢 ⑤ 社会的な能力や豊かな感性 	<p>【教育課程編成方針】</p> <p>食物栄養学科の教育課程は、専門知識や技術を基本から段階的に学べるように配慮しつつ、以下の方針に基づいて編成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 食の能力や豊かな人間性の涵養 (2) 食の専門職に必要な専門知識修得のための科目群 (3) 現場に必要なスキルに配慮した専門技術・実践力修得 (4) 食に関する課題の解決策を考案・判断できる能力修得 (5) 「卒業研究」等による生運にわたり学ぶ姿勢の育成 (6) 卒業論文(訳)2種)及びフーズベンヤリス実務修得資格に対応した科目群を開設し、併せて卒論課題の拡大や深化を図ります。 <p>【教育課程実施方針(学修過程)】</p> <p>1年次には、栄養士としての必要基礎知識を中心に修得します。 2年次には、応用的な知識や技術、校外実習などにより実践的な技術及び思考力・判断力を修得します。また、卒業研究などを中心とした学ぶ姿勢を養うことに重点を置きます。 各教科目の成績評価は、シラバスにあらわし示された評価方法により、学修成果別評価基準(ルーブリック)に沿って、厳正に行うことを基本とします。 学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。</p> <p>【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】</p> <p>【教育内容】 専門科目(社会生活と健康・食品と衛生・栄養と健康・人体と機能と構造・食品と衛生・栄養と健康)の指導・給食の運営により、専門知識を高い水準で網羅的に修得することを図る。 【教育方法・学修方法】 講義形式が主体である。授業においてはアクティブラーニングを極力採り入れ、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力を高める授業を行う。 【学修成果の評価方法】 筆記試験等の客観的手段を中心に行う。 レポート、実技試験、プレゼンテーションによる評価を中心に行う。</p> 	<p>【全体方針】</p> <p>食物栄養学科では、高齢社会や生活習慣病といった現代の社会問題に対応するために、豊かな感性を養い、自ら学ぶ意欲、そして健康を科学的に管理する能力をもった栄養士の養成を目標としています。そのため、食・物と健康、栄養指導、給食の運営等、食品や栄養に関する豊富なカリキュラムを提供しています。 この教育目的・教育方針に基づき、本学科では、次のような人の入学を希望します。</p> <p>【求める人物像】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 食・物や食事等生活に関連する分野について、学ぶ意欲を持つ人 ② 生活習慣病等健康と栄養について、関心を持つ人 ③ 栄養士として社会に貢献したいという意志を持つ人 ④ 高等学校で修得しておいてほしい内容 ・高等学校の教育課程を幅広く修得している。 ・英語(現代文)、数学I、数学II、英語(英語表現I、コミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ・化学基礎や生物基礎を履修し、演習計算などの基本的な計算ができる。 ・各種資格や検定(食物調理技術検定、漢字、英語やPC検定などの取得や、学校内外での諸活動(ボランティア活動を含む)に積極的に取り組んでいる。 <p>【求める資質・能力】</p> <p>基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性</p> <p>【卒業選抜における評価方法】</p> <p>1. 卒業選抜の各段階(科目・活動)毎の各項目・面接や小論文又は筆記試験等の内容を、本学所定の評価基準に基づき、各入学者別の考査方法に応じて、多面的・総合的に評価する。 なお、推薦入試及び自己推薦入試では、上記以外に推薦書又は自己推薦書(本学指定様式)、志望理由書等の各項目(本学指定様式)も評価の対象に含める。</p>
<p>(L01) 知識・理解</p> <p>【能力基準別到達目標(学修成果)】</p> <p>専門科目群(社会生活と健康・食品と衛生・栄養と健康・人体と機能と構造)の指導・給食の運営において、専門知識を高い水準で網羅的に修得している。</p>	<p>【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】</p> <p>【教育内容】 専門科目(社会生活と健康・食品と衛生・栄養と健康・人体と機能と構造・食品と衛生・栄養と健康)の指導・給食の運営により、専門知識を高い水準で網羅的に修得することを図る。 【教育方法・学修方法】 講義形式が主体である。授業においてはアクティブラーニングを極力採り入れ、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力を高める授業を行う。 【学修成果の評価方法】 筆記試験等の客観的手段を中心に行う。 レポート、実技試験、プレゼンテーションによる評価を中心に行う。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性</p> <p>【卒業選抜における評価方法】</p> <p>1. 卒業選抜の各段階(科目・活動)毎の各項目・面接や小論文又は筆記試験等の内容を、本学所定の評価基準に基づき、各入学者別の考査方法に応じて、多面的・総合的に評価する。 なお、推薦入試及び自己推薦入試では、上記以外に推薦書又は自己推薦書(本学指定様式)、志望理由書等の各項目(本学指定様式)も評価の対象に含める。</p>
<p>(L02) 技能</p> <p>食の専門区分やその他の関連分野に關し、専門知識だけでなく、専門技術・技法についても、幅広く高いレベルで修得している。</p>	<p>【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】</p> <p>【教育内容】 専門科目(社会生活と健康・食品と衛生・栄養と健康・人体と機能と構造)の指導・給食の運営により、専門知識を高い水準で網羅的に修得することを図る。 【教育方法・学修方法】 講義形式が主体である。授業においてはアクティブラーニングを極力採り入れ、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力を高める授業を行う。 【学修成果の評価方法】 筆記試験等の客観的手段を中心に行う。 レポート、実技試験、プレゼンテーションによる評価を中心に行う。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性</p> <p>【卒業選抜における評価方法】</p> <p>1. 卒業選抜の各段階(科目・活動)毎の各項目・面接や小論文又は筆記試験等の内容を、本学所定の評価基準に基づき、各入学者別の考査方法に応じて、多面的・総合的に評価する。 なお、推薦入試及び自己推薦入試では、上記以外に推薦書又は自己推薦書(本学指定様式)、志望理由書等の各項目(本学指定様式)も評価の対象に含める。</p>
<p>(L03) 思考力・判断力・表現力</p> <p>様々な業務上の課題等に対して、改善方法等対策を考案・判断し、解決できる。</p>	<p>【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】</p> <p>【教育内容】 専門科目(社会生活と健康・食品と衛生・栄養と健康・人体と機能と構造)の指導・給食の運営により、専門知識を高い水準で網羅的に修得することを図る。 【教育方法・学修方法】 講義形式が主体である。授業においてはアクティブラーニングを極力採り入れ、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力を高める授業を行う。 【学修成果の評価方法】 筆記試験等の客観的手段を中心に行う。 レポート、実技試験、プレゼンテーションによる評価を中心に行う。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性</p> <p>【卒業選抜における評価方法】</p> <p>1. 卒業選抜の各段階(科目・活動)毎の各項目・面接や小論文又は筆記試験等の内容を、本学所定の評価基準に基づき、各入学者別の考査方法に応じて、多面的・総合的に評価する。 なお、推薦入試及び自己推薦入試では、上記以外に推薦書又は自己推薦書(本学指定様式)、志望理由書等の各項目(本学指定様式)も評価の対象に含める。</p>
<p>(L04) 関心・意欲・態度</p> <p>食の専門職に求められる高い専門性・問題解決能力を主体的に学ぶ姿勢を保持し、自発的な行動ができる。</p>	<p>【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】</p> <p>【教育内容】 専門科目(社会生活と健康・食品と衛生・栄養と健康・人体と機能と構造)の指導・給食の運営により、専門知識を高い水準で網羅的に修得することを図る。 【教育方法・学修方法】 講義形式が主体である。授業においてはアクティブラーニングを極力採り入れ、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力を高める授業を行う。 【学修成果の評価方法】 筆記試験等の客観的手段を中心に行う。 レポート、実技試験、プレゼンテーションによる評価を中心に行う。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性</p> <p>【卒業選抜における評価方法】</p> <p>1. 卒業選抜の各段階(科目・活動)毎の各項目・面接や小論文又は筆記試験等の内容を、本学所定の評価基準に基づき、各入学者別の考査方法に応じて、多面的・総合的に評価する。 なお、推薦入試及び自己推薦入試では、上記以外に推薦書又は自己推薦書(本学指定様式)、志望理由書等の各項目(本学指定様式)も評価の対象に含める。</p>
<p>(L05) 人間性・社会性</p> <p>多様な人々と協働して働くために必要な業務能力や社会性を有し、豊かな感性・人間性を備えている。</p>	<p>【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】</p> <p>【教育内容】 専門科目(社会生活と健康・食品と衛生・栄養と健康・人体と機能と構造)の指導・給食の運営により、専門知識を高い水準で網羅的に修得することを図る。 【教育方法・学修方法】 講義形式が主体である。授業においてはアクティブラーニングを極力採り入れ、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力を高める授業を行う。 【学修成果の評価方法】 筆記試験等の客観的手段を中心に行う。 レポート、実技試験、プレゼンテーションによる評価を中心に行う。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性</p> <p>【卒業選抜における評価方法】</p> <p>1. 卒業選抜の各段階(科目・活動)毎の各項目・面接や小論文又は筆記試験等の内容を、本学所定の評価基準に基づき、各入学者別の考査方法に応じて、多面的・総合的に評価する。 なお、推薦入試及び自己推薦入試では、上記以外に推薦書又は自己推薦書(本学指定様式)、志望理由書等の各項目(本学指定様式)も評価の対象に含める。</p>

幼児教育学科の教育理念・目標と3つのポリシー

大学の教育理念 (学則 第1条)		学部の教育研究上の目的 (学則 第2条の2(2))	
幼児教育学科が育成する人材像		カリキュラム・ポリシー	
【幼児教育学科が育成する人材像】 幼児教育学科では、本学科が目指す人材像への到達に向けて、以下の学修成果を挙げ、本学の卒業要件を満たした者に、短期大学士(保育学)の学位を授与します。 【目指す人材像】 ① 保育・幼児教育及び子育て支援についての専門的な知識と技能を有する人 ② 子どもの発達や子育てに関する深い関心をもち、論理的に考察するとともに適切に判断し、実践する力を有する人 ③ 信頼関係を基本とする人間関係を構築し、子どもの福祉を守る社会的使命をもちとする人 ④ 子育てに対する深い愛情と豊かな感受性・共感性を備え持つ人 ⑤ 自らを省察し、他者と協働して保育者としての資質の向上を志向する人。	【教育課程編成方針】 幼児教育学科が目指す人材を育成するため、次の三つの柱を基本に教育課程を編成し、実施します。 (1) 幅広い教養と豊かな人間性を兼ね備えた総合教育 はく人間性について学び、専門教育に備えるとともに、現代社会に必要なコミュニケーション技術を身につけて、健康で豊かな人間性を育みます。 (2) 高度な専門性・実践力を有する保育者養成のための専門教育 ① 保育の専門性を理解し、実践します。 ② 保育の内容及び方法を理解し、保育に必要な専門技術を身につけます。 ③ 保育の意義と役割について、保育内容の意義の理解と知識の活用を促します。 ④ 保育の現場を想定し、保育の課題を探究し、主体的に解決する力を育みます。 ⑤ 総合演習をとおして、保育の深い理解と実践力を育みます。 (3) 豊かな感性と子どもや家庭についての理解を深め、 ① 子どもの発達や子育てへの深い愛情を育みます。 ② 子どもの発達や子育てへの深い愛情を育みます。 ③ 子どもの発達や子育てへの深い愛情を育みます。 ④ 子どもの発達や子育てへの深い愛情を育みます。 ⑤ 子どもの発達や子育てへの深い愛情を育みます。 【学修成果の到達目標】 各教科目の修得評価は、シラバスで定められた評価方法により、学修成果別評価基準(ルーブリック)に沿って、厳正に行うことを基本とします。学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。	【全体方針】 アドミッション・ポリシー 幼児教育学科では、子どもの発達援助や保護者の子育て支援に必要な知識と技術を修得するとともに、その基礎となる優れな感性と子どもへの深い愛情と豊かな人間性を備えた保育専門職の養成を企及しています。 この教育目的・教育方針に基づき、本学科では、次のような人の入学を希望します。 【求める人物像】 ① 子どもの心を理解する感性を備え、子どもへの愛情を豊かにしようとする人 ② 子どもの発達援助や保護者の子育て支援に、深い愛情を持つ人 ③ 子どもや保護者を取り巻く社会環境のあり方や変化に、高い関心を持つ人 【講義科目で修得している内容】 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 国語(現代文)、英語(英語実用Ⅰ・Ⅱ)、コミュニケーション能力の基礎を身につけている。 「体育」「芸術」「情報」などの表現技能や「家庭」などの生活に必要な基礎的な技能の向上を目的として、各講義科目において、 ① 子どもの発達や子育てへの深い愛情を育みます。 ② 子どもの発達や子育てへの深い愛情を育みます。 ③ 子どもの発達や子育てへの深い愛情を育みます。 ④ 子どもの発達や子育てへの深い愛情を育みます。 ⑤ 子どもの発達や子育てへの深い愛情を育みます。 【学修成果の到達目標】 各教科目の修得評価は、シラバスで定められた評価方法により、学修成果別評価基準(ルーブリック)に沿って、厳正に行うことを基本とします。学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。	
【知識・理解】 保育の本質や目的を把握し、子どもや家庭、保育の内容や方法についての専門的知識を身につけている。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。
【技能】 子どもの発達支援に必要な、保育専門のための技術、教材活用などのための技術、理解形成のための技術、および家庭支援に必要な技術を身につけている。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。
【思考力・判断力・表現力】 学修した知識・技術を総合して、保育・子育て支援の実践的な問題や課題の解決を図ることができる。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。
【人間性・社会性】 社会の一員としての自覚を持ち、他者を尊重し、協力・協働を促すことができる。 ② 深い愛情と豊かな感受性・共感性をもつて子どもに対して対応することができる。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。	【学修成果の到達目標】 【教育内容】 主として「保育の本質、目的」「保育の対象理解」「保育の内容・方法」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 【教育方法・学修方法】 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブラーニングを導入する。 【学修成果の評価方法】 筆記試験、小テスト、レポート。

経営情報学部の教育理念・目標と3つのポリシー

大学の教育理念(学則 第1条)		学部の教育研究上の目的(学則 第2条の2(3))	
<p>【経営情報学が育成する人材像】</p> <p>経営情報学では、健康で豊かな人間性を育むことに加え、社会に必要とされる人材を育成することを目指します。卒業生は、教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、高度な専門的知識と実践力を兼ね備え、社会に貢献する人材を育成することを目指します。</p> <p>【育成する人材に必要能力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康で豊かな人間性と豊かな人間関係力・協働能力 社会常識、マナーを身につけ、責任ある行動力 自ら主体的に学び、考え、実践する能力と、学び続ける姿勢 経済・経営・簿記・会計、情報、ビジネス実務等の実践的知識・技能と実践力 		<p>経営情報学部においては、自ら学び、考え、実践する能力と健康で豊かな人間性を育むことに加え、社会に必要とされる人材を育成することを目指します。卒業生は、教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、高度な専門的知識と実践力を兼ね備え、社会に貢献する人材を育成することを目指します。</p> <p>【教育課程編成方針】</p> <p>経営情報学部が目指す人材を育成するために、次の3分野の教育を体系的に編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い基礎と健康で豊かな人間性を育む教育 実践的知識・技能の獲得のための専門教育 経済・経営・簿記・会計・マーケティング・専門基礎教育、③IT/デジタル・専門基礎教育 <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>各教科目の成績評価は、シラバスに示された評価方法により、学修成果別評価基準(ルーブリック)に沿って、厳正に行うことを基本とします。</p>	
<p>【経営情報学が育成する人材像】</p> <p>経営情報学部では、健康で豊かな人間性を育むことに加え、社会に必要とされる人材を育成することを目指します。卒業生は、教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、高度な専門的知識と実践力を兼ね備え、社会に貢献する人材を育成することを目指します。</p> <p>【育成する人材に必要能力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康で豊かな人間性と豊かな人間関係力・協働能力 社会常識、マナーを身につけ、責任ある行動力 自ら主体的に学び、考え、実践する能力と、学び続ける姿勢 経済・経営・簿記・会計、情報、ビジネス実務等の実践的知識・技能と実践力 		<p>【教育課程編成方針】</p> <p>経営情報学部が目指す人材を育成するために、次の3分野の教育を体系的に編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い基礎と健康で豊かな人間性を育む教育 実践的知識・技能の獲得のための専門教育 経済・経営・簿記・会計・マーケティング・専門基礎教育、③IT/デジタル・専門基礎教育 <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>各教科目の成績評価は、シラバスに示された評価方法により、学修成果別評価基準(ルーブリック)に沿って、厳正に行うことを基本とします。</p>	
(L01) 知識・理解	<p>【能力基準別到達目標(学修成果)】</p> <p>社会人としての常識・マナーを身につけ、ビジネスの現場で必要となる実践的知識を身につけている。</p>	<p>【教育課程編成方針(教育内容、方法と学修成果の評価方法)】</p> <p>【教育内容】</p> <p>教育課程全体を通じて、職業人としてのビジネスの現場で必要となる「経済・経営」、「IT」、「ビジネス実務」分野における実践的な専門基礎知識・理解の獲得を図る。</p> <p>【教育方法・学修方法】</p> <p>講義形式が主体である授業においても、反転授業やグループワーク・利用型のアクティブラーニングを積極的に取り入れ、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力をも高める授業を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>筆記試験等の客観テストで評価する。</p>	<p>【求める教育・能力】</p> <p>【求める実践的知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>
(L02) 技能	<p>【能力基準別到達目標(学修成果)】</p> <p>ビジネスの現場で必要とされる専門的知識・技能や、自らの思考・判断のプロセスを明確に伝えるための技能・表現技法等を身につけている。</p>	<p>【教育課程編成方針(教育内容、方法と学修成果の評価方法)】</p> <p>【教育内容】</p> <p>教育課程全体を通じて、情報リテラシーとコミュニケーション・スキルの育成を目指す。</p> <p>特に、教養・専門演習では、レポート作成スキルやプレゼンテーション・スキル等の実践技法を育成する。</p> <p>また、ビジネスの現場で必要となる日商簿記検定資格・日商PC検定資格や図書館司書等の資格取得を目指す。</p> <p>【教育方法・学修方法】</p> <p>主に演習形式の授業で実施し、反転授業等のアクティブラーニングやピア・アセスメント等による「振り返り」による気づきを促す。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>筆記試験等の客観テスト及びレポートやプレゼンテーション・スキルで評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。</p>	<p>【求める教育・能力】</p> <p>【求める実践的知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>
(L03) 思考力・判断力・表現力	<p>【能力基準別到達目標(学修成果)】</p> <p>専門分野における実践的知識・技能や研究方法を用いて、社会や組織の問題を自ら発見・論理的に分析・考察し、課題解決のためのアイデアを構想し表現することができる。</p>	<p>【教育課程編成方針(教育内容、方法と学修成果の評価方法)】</p> <p>【教育内容】</p> <p>教育課程全体を通じて、獲得した知識・技能を応用して分析・思考・判断する力を養い、特に、卒論の作成に当たっては、クリティカル・シンキング力を育成する。</p> <p>【教育方法・学修方法】</p> <p>ディスカッション、グループワーク、ピア・アセスメント等を通じて、他者の考えを聴き、自らの思考・判断を振り返る。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>記述式・小論文テスト、プレゼンテーション・論文のルーブリックで評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。</p>	<p>【求める教育・能力】</p> <p>【求める実践的知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>
(L04) 関心・意欲・態度	<p>【能力基準別到達目標(学修成果)】</p> <p>社会・組織における諸課題の解決に向けて、自らの感情や行動を押し込みながら主体的に学び続けることを通じて、社会人・職業人としての責任・能力の向上に努めることができる。</p>	<p>【教育課程編成方針(教育内容、方法と学修成果の評価方法)】</p> <p>【教育内容】</p> <p>教育課程全体を通じて、社会・組織の発展に貢献し、自らの感情や行動を押し込みながら主体的に学び続けることを通じて、社会人・職業人としての責任・能力の向上に努めることができる。</p> <p>【教育方法・学修方法】</p> <p>課題解決型学習の導入を図るとともに、共に考え合い、学び合う環境作りと、毎回の授業アンケート結果のフィードバックにより、主体的学びへのモチベーションを高める。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>授業の学習時間、学習・復習の美観、受講態度等を評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。その他、インターンシップでは受入先の評価も加味する。</p>	<p>【求める教育・能力】</p> <p>【求める実践的知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>
(L05) 人間性・社会性	<p>【能力基準別到達目標(学修成果)】</p> <p>社会・組織の一員として、組織に協賛し、多様な価値観を尊重し、人の気持ちを思いやり、仲間と協力・協働して目標の実現に貢献し、社会人・職業人としての責任を果たすことができる。</p>	<p>【教育課程編成方針(教育内容、方法と学修成果の評価方法)】</p> <p>【教育内容】</p> <p>教育課程全体を通じて、社会・組織の一員として、組織に協賛し、多様な価値観を尊重し、人の気持ちを思いやり、仲間と協力・協働して目標の実現に貢献し、社会人・職業人としての責任を果たすことができる。</p> <p>【教育方法・学修方法】</p> <p>グループワーク、ディスカッション、インターンシップ等の経験を積み重ねることによってコミュニケーション能力や協調性・協働力を高める。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>ルーブリックで評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。その他、インターンシップでは受入先の評価も加味する。</p>	<p>【求める教育・能力】</p> <p>【求める実践的知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性や社会性】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>

福祉学科の教育理念・目標と3つのポリシー

大学の教育理念(学則 第1条)		福祉学科の教育研究上の目的(学則 第2条の2(1))	
<p>【養成する人材に必要な能力】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に理解を深め、さまざまな人とコミュニケーションを取ることが出来る力</p> <p>② 福祉に関するさまざまな分野で、修得した専門的知識・技術を活用し、自己研鑽を続けたいことが出来る力</p> <p>③ 高い知性・広い教養を持ち、地域社会の発展に貢献できる力</p>		<p>福祉学科においては、高齢者や障害者の福祉とその人らしい自立生活を支えるために必要な専門的知識や技術、倫理を併せて介護福祉士並びに関連分野の人材の養成を目的として、社会福祉、生活福祉、介護福祉等福祉・介護に関する教養及び研究を行う。</p>	
<p>【福祉学科が養成する人材像】</p> <p>福祉学科では、本学科が養成する人材像の到達に向けて以下の学修成果を養い、本学の卒業要件を満たした者二期大学士(介護福祉学)の学位を授与します。</p>		<p>【全体方針】</p> <p>福祉学科では、個人の尊厳とその人らしい自立生活を支えるために必要な専門的知識・技術、倫理を併せて介護福祉士、および社会福祉・福祉ビジネス分野で広く活躍できる人材の養成をめざしています。そのために、健康・生活・福祉・介護から医療・相談援助・情報系、幅広い分野にわたるカリキュラムを提唱しています。</p> <p>この教育目的・教育方針に基づき、本学科では、次のような人の入学を希望します。</p> <p>【求める人物像】</p> <p>① 人の尊厳や社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>	
<p>【能力基準別到達目標(学修成果)】</p> <p>人間の多様な価値観、社会のしくみ、文化など、幅広い教養を身につけている。また、福祉の基本理念、介護福祉、相談援助、福祉ビジネスなどに関する基礎的な知識を身につけている。</p>		<p>【求める資質・能力】</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力、表現力等の能力及び主体性や社会性</p> <p>【人学選抜における評価方法】</p> <p>入学者選抜における評価項目、面接や小論文又は筆記試験等の内容を、本学所定の各試験項目、活動実績に基づき、各人試験別の選考方法に於いて、多面的・総合的に評価する。</p> <p>なお、推薦入試及び自己推薦入試では、上記以外に推薦書又は自己推薦書(本学所定様式)、志望理由書の各項目(本学所定様式)も評価の対象に含める。</p>	
(L01) 知識・理解	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に理解を深め、さまざまな人とコミュニケーションを取ることが出来る力</p> <p>② 福祉に関するさまざまな分野で、修得した専門的知識・技術を活用し、自己研鑽を続けたいことが出来る力</p> <p>③ 高い知性・広い教養を持ち、地域社会の発展に貢献できる力</p>	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>
(L02) 技能	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に理解を深め、さまざまな人とコミュニケーションを取ることが出来る力</p> <p>② 福祉に関するさまざまな分野で、修得した専門的知識・技術を活用し、自己研鑽を続けたいことが出来る力</p> <p>③ 高い知性・広い教養を持ち、地域社会の発展に貢献できる力</p>	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>
(L03) 思考力・判断力・表現力	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に理解を深め、さまざまな人とコミュニケーションを取ることが出来る力</p> <p>② 福祉に関するさまざまな分野で、修得した専門的知識・技術を活用し、自己研鑽を続けたいことが出来る力</p> <p>③ 高い知性・広い教養を持ち、地域社会の発展に貢献できる力</p>	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>
(L04) 関心・意欲・態度	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に理解を深め、さまざまな人とコミュニケーションを取ることが出来る力</p> <p>② 福祉に関するさまざまな分野で、修得した専門的知識・技術を活用し、自己研鑽を続けたいことが出来る力</p> <p>③ 高い知性・広い教養を持ち、地域社会の発展に貢献できる力</p>	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>
(L05) 社会性・人間性	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に理解を深め、さまざまな人とコミュニケーションを取ることが出来る力</p> <p>② 福祉に関するさまざまな分野で、修得した専門的知識・技術を活用し、自己研鑽を続けたいことが出来る力</p> <p>③ 高い知性・広い教養を持ち、地域社会の発展に貢献できる力</p>	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>	<p>【学修成果の評価】</p> <p>① 人間の幸せ、社会のあり方に深い興味を示し、その人らしい生き方や価値観を尊重できる人</p> <p>② 全ての人の命と暮らしを支える福祉・介護・ビジネス分野の仕事に強い関心を持つ人に</p> <p>③ 誠実かつ明朗快活で、心豊かに成長することを旨とする人</p>

専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー		学部の教育研究上の目的(学則 第39条第2項)	
大学の教育理念(学則 第1条)		専攻科食物栄養専攻においては、健康に食生活に関する高度な専門知識や豊かな人間性を併せ持つ管理栄養士をめざす人材の養成を目的として、栄養指導・栄養管理・栄養教育等に関する教育及び研究を行う。	
【専攻科食物栄養専攻が育成する人材像】 専攻科食物栄養専攻では、短期大学卒業の栄養士を対象に、管理栄養士育成と学工(栄養学)取得を目指し、以下の能力を修得し、本学卒に定める修了要件を満たした者に、専攻科修了を認定します。		【全体方針】 専攻科食物栄養専攻では、健康における栄養問題を解決する能力、地域社会の健康維持・増進に貢献できる実践的な能力、疾病予防・治療のための栄養指導ができる能力を備えた管理栄養士の養成を目指しています。そのため、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など、多くの専門科目を有する豊富なカリキュラムを提供しています。この教育目的、教育方針に基づき、専攻科では、次のような人の入学を希望します。	
【育成する人材に必要な能力】 ① 栄養と健康に関する高度な専門知識・理解力 ② 栄養管理の現場に即した技術・実践力 ③ 栄養状態の分析力と栄養管理計画の立案能力 ④ 問題を創造的に解決する能力 ⑤ 高い職業倫理と全人的な総合力		【求める人物像】 ・栄養指導をはじめ食に関連する分野について、深く学ぶ意欲を持つ人 ・栄養に関する疾患の予防・治療について、関心を持つ人 ・管理栄養士を目指して学ぼうとする強い意志を持つ人 【入学前に修得してほしい内容】 ・短期大学修了程度の基礎学力を修得している。 ・栄養科目の他に、栄養系の基礎及び応用専門科目を履修し、栄養士としての基本的な技術・技術を修得している。 ・栄養士免許を取得している(取得見込も含む)。	
【能力基準別到達目標(学修成果)】 個人や集団に適切に栄養管理や栄養指導を行うための高度な専門知識と理解力を修得している。		【能力別基準】 【求める養育・能力】 ・基本的な技能・技法・思考力、判断力、表現力、他の職種スタッフと協調・協力して業務の遂行に努める意欲・姿勢 【入学者選抜における評価方法】 ・出身学校での成績証明書の各項目と成績 ・志望理由書の各項目 ・口頭試問試験及び面接 の内容を、本学所定の評価基準に基づき、多面的・総合的に評価する。	
(L01) 知識・理解	【教育内容】 主として知識、理解を養う科目には、専門科目A群【講義科目】の「栄養に関する総合的な科目」3科目、「人体の仕組みに関する科目」5科目、「食物」に関する科目13科目、「臨床栄養に関する科目」2科目、「公衆栄養に関する科目」3科目、「保健衛生に関する科目」3科目、「栄養指導に関する科目」4科目および関連科目8科目の計30科目がある。 【教育方法・学修方法】 ・講義形式が主体である。ただし、どの科目においても、アクティブラーニングを導入し、学生が主体的に学ぶように工夫をし、学生自身が考え、理解する力を養う。 【学修成果の評価方法】 主として筆記試験による客観テスト。	【求める養育・能力】 ・基本的な技能・技法・思考力、判断力、表現力、他の職種スタッフと協調・協力して業務の遂行に努める意欲・姿勢 【入学者選抜における評価方法】 ・出身学校での成績証明書の各項目と成績 ・志望理由書の各項目 ・口頭試問試験及び面接 の内容を、本学所定の評価基準に基づき、多面的・総合的に評価する。	
(L02) 技能	【教育内容】 主として技能・技法を養う科目には、専門科目B群【演習・実験・実習科目】の「栄養に関する演習・実験・実習科目」8科目がある。 【教育方法・学修方法】 演習・実習・実験をとおして、専門的技術・技術の習得を目指す。 【学修成果の評価方法】 技術試験および筆記試験による客観テスト。	【求める養育・能力】 ・基本的な技能・技法・思考力、判断力、表現力、他の職種スタッフと協調・協力して業務の遂行に努める意欲・姿勢 【入学者選抜における評価方法】 ・出身学校での成績証明書の各項目と成績 ・志望理由書の各項目 ・口頭試問試験及び面接 の内容を、本学所定の評価基準に基づき、多面的・総合的に評価する。	
(L03) 思考力・判断力・表現力	【教育内容】 思考力、判断力、表現力を養う科目には、専門科目A群【講義科目】、専門科目B群【演習・実験・実習科目】及び関連科目のすべての科目が対象であり、どの科目においても、学生自らが思考、判断、表現が必要となる。 【教育方法・学修方法】 講義、演習、実験、実習の多様な形態で、アクティブラーニングを導入し、学生が主体的に学べるようにする。 【学修成果の評価方法】 技術試験および筆記試験による客観テスト。	【求める養育・能力】 ・基本的な技能・技法・思考力、判断力、表現力、他の職種スタッフと協調・協力して業務の遂行に努める意欲・姿勢 【入学者選抜における評価方法】 ・出身学校での成績証明書の各項目と成績 ・志望理由書の各項目 ・口頭試問試験及び面接 の内容を、本学所定の評価基準に基づき、多面的・総合的に評価する。	
(L04) 関心・意欲・態度	【教育内容】 関心・意欲・態度を養う科目には、専門科目B群【演習・実験・実習科目】の「栄養に関する演習・実験・実習科目」8科目および関連科目の「特別研究」がある。その他にも、学生レベルの高い科目「臨床医学」や「食品学特論」「臨床心理学特論」などが該当する。 【教育方法・学修方法】 体験学習を主体とする演習・実験・実習により、学生が主体的に学べるようにする。また、講義でも様々な教育手法を導入して学生の関心・意欲・態度を養う努力をする。 【学修成果の評価方法】 技術試験および筆記試験による客観テスト又はレポートによる評価。	【求める養育・能力】 ・基本的な技能・技法・思考力、判断力、表現力、他の職種スタッフと協調・協力して業務の遂行に努める意欲・姿勢 【入学者選抜における評価方法】 ・出身学校での成績証明書の各項目と成績 ・志望理由書の各項目 ・口頭試問試験及び面接 の内容を、本学所定の評価基準に基づき、多面的・総合的に評価する。	
(L05) 人間性・社会性	【教育内容】 全人的な総合力を育成するために必要な人間性・社会性を養う科目には、関連科目7科目および専門科目B群【演習・実験・実習科目】の「栄養に関する演習・実験・実習科目」8科目がある。 【教育方法・学修方法】 体験学習を主体とする演習・実験・実習により、学生が主体的に学べるようにする。 【学修成果の評価方法】 技術試験および筆記試験による客観テスト又はレポートによる評価。	【求める養育・能力】 ・基本的な技能・技法・思考力、判断力、表現力、他の職種スタッフと協調・協力して業務の遂行に努める意欲・姿勢 【入学者選抜における評価方法】 ・出身学校での成績証明書の各項目と成績 ・志望理由書の各項目 ・口頭試問試験及び面接 の内容を、本学所定の評価基準に基づき、多面的・総合的に評価する。	

【参考資料 3】 AP 事業の実施状況と計画（年度別）

【平成 26 年度】

- ① Web シラバス・システム上で実施する、学生の「学期末授業アンケート」等の項目の見直し・再設計を、9月に開始し、平成 27 年 1 月に、「新入生アンケート（1）・（2）」、「授業アンケート」、「学修行動・生活調査」の調査票の設計を完了した。
- ② Web シラバス・システムに従来 1 つしかなかった「課題提出機能」を 3 つ付加して、予習・復習あるいは授業中の課題を Web シラバス・システム上で提出できるよう、平成 26 年中に機能を拡張した。
- ③ 本学の AP 事業の紹介と教育改革の取組を広く広報するためのパンフレット『富山短期大学 教育改革プロジェクト～未来へつなぐ。地域へつなぐ。～』を 12 月に完成した。
- ④ Web シラバス・システムで行っている「毎回の授業アンケート」に、「ミニッツ・ペーパー機能」やアンケート結果の「自動集計機能」を付加する機能拡張を、平成 26 年中に完了した。
- ⑤ 平成 27 年度に開発する「学修成果評価システム（LOAS）」の数量的把握に必要な「学修成果別成績入力システム」の開発を年度内に完了した。
- ⑥ 平成 27 年 1 月に、「新入生アンケート（1）・（2）」、「授業アンケート」、「学修行動・生活調査」の調査票の設計を完了したのに伴い、これらのアンケート調査を Web シラバス・システム上で行うためのシステム開発を、3 月に完了した。
- ⑦ Web シラバス・システムの利用状況を把握するための、Web シラバス・システムへのアクセス・ログ機能の開発を年度内に完了した。
- ⑧ 平成 27 年 3 月 16 日（月）、学識経験者、就職先関連団体の長、行政機関の関係者等のステークホルダー 12 名からなる「富山短期大学外部評価委員会 第 1 回会合」を開催した。

【平成 27 年度】

- ① 「学修行動・生活調査」（2 年生対象）、及び同調査内容と対応させた内容で、高校時代の学修行動・生活行動を調査するため「新入生アンケート」を実施した。
- ② 科目ごとに学生の「学修成果」別到達度（成績）を入力し、学生別・科目別・科目群別・学科全体・本学全体の「学修成果」別到達度（成績）を集計・分析・可視化できる「学修成果評価システム（LOAS）」を前期末までに開発し、運用を開始した。
- ③ 社会に出て仕事をする上で求められる具体的な力（リテラシーとコンピテンシー（＝「学修成果」））、ならびに本学の教育に対する評価・要望を問う「卒業生アンケート」と「就職先アンケート」を 11 月に実施し、平成 28 年 1 月末に報告書が完成した。
- ④ 従前から行っている「授業アンケート」の内容を拡充し、Web シラバス・システムで前期末・後期末に実施した。
- ⑤ 「学修成果評価システム（LOAS）」や各種「学生アンケート」・「第三者アンケート」調査等で収集されたデータの集計・分析結果に関する第三者評価を得るための「外部評価委員会」を 9 月 18 日、3 月 9 日に開催した。
- ⑥ Web シラバス・システムで取得されたデータ、その他アンケート結果等のデジタル・データを教職員間で共有し有効活用するための協働支援システム（グループウェア・システム）を構築した。
- ⑦ 「学修成果評価システム（LOAS）」や各種「学生アンケート」、「第三者アンケート」

調査等の集計・分析結果を基に、FD/SDを9月と2月に開催した。

- ⑧ Web シラバスに掲載されている「学修成果」別配点表を集計して、カリキュラム・マップを作成する機能を追加した。
- ⑨ 「学修成果」と学習行動・生活行動の関連等を問う「学修行動・生活調査」を、4月と2月に2年生を対象に、9月に1年生を対象に実施した。
- ⑩ 各種「学生アンケート」結果の分析を進めてIRを推進するために、追加事業として、統計解析ソフト（IBM SPSS）を導入した。

【平成28年度】

- ① 「学修行動・生活調査」（2年生対象）、及び同調査内容と対応させた内容で、高校時代の学修行動・生活行動を調査するための「新入生アンケート」を実施した。
- ② Web シラバス・システム等各種システム内にある学生情報を統合し、学生にフィードバックするための「学生情報ファイル（SIF）システム」を開発・構築した。
- ③ 本事業の内容及びこれまでの成果を詳細に広報するためのWebページを作成した。
- ④ Web シラバス・システム内で、前期末・後期末に「授業アンケート」を実施した。
- ⑤ 各種アンケート調査等で収集されたデータの集計・分析結果に関する第三者評価を得るための「外部評価委員会」を開催。第5回委員会では、本事業の中間評価を受けた。
- ⑥ Web シラバス・システムや「学生情報ファイル（SIF）システム」等の情報を統合し、授業改善等のための情報を全教職員間で共有するための、授業改善情報等共有ファイル・システムを構築した。
- ⑦ 「（AP）テーマⅡ 学修成果の可視化」分野で選定された他校の事例を参考とするため、シンポジウム等への参加を含め、他校視察を実施した。
 - ・ （H28.11）関西国際大学、淑徳大学、北陸学院大学、くらしき作陽大学主催、「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」シンポジウム
 - ・ （H28.11）山形大学主催、「APキックオフ・シンポジウム」
 - ・ （H29.2）北九州市立大学主催「AP「学修成果の可視化」あり方検討会議」（テーマⅡ選定8校出席）
- ⑧ Web シラバス・システム等の効果的な利用方法、および教育改革・授業改善の内容・方法等に関する共通理解を深めるためのFD/SD研修会を計9回開催した。
- ⑨ 1年生を対象に、「学修成果」と学修行動・生活行動の関連等を問う「学修行動・生活調査」を実施した。
- ⑩ 「卒業生アンケート」・「就職先アンケート」等結果の自動読み取り装置を導入し、自動集計・可視化システムを開発・構築した。
- ⑪ 平成27年度卒業生を対象に「卒業生アンケート」を実施した。
- ⑫ 常勤の教職員はもとより新規採用教員や非常勤講師の、本事業およびこれまでに開発してきた各種システムに対する理解を確実なものとするために、『システムの利用の手引き』を4回に分けてFD研修会で配布。また、『平成28年度 授業改善事例集』を作成してWeb上で配布した。
- ⑬ 卒業前の2年生を対象に、2年間の「学修成果」と学修行動・生活行動の関連等を問う「学修行動・生活調査」を実施した。
- ⑭ 平成29年3月に、北九州市立大学を幹事校とする、APテーマⅡ選定8校の事業内容を紹介する専用ホームページを開設した。
- ⑮ 平成29年3月に、北九州市立大学を幹事校とする、APテーマⅡ選定8校の事業内容を紹介するパンフレット『テーマⅡ学修成果の可視化～入学から卒業まで質保証の伴った大学教育を実現するために～』を作成し、広く配布した。

【平成 29 年度】

- ① 「学修行動・生活調査」(2年生対象)、及び同調査内容と対応させた内容で、高校時代の学修行動・生活行動を調査するため「新入生アンケート」を実施した。
- ② Web シラバス・システムの e-learning 機能を利用し、スマートフォンを利用した「クリッカー」機能を追加することでアクティブ・ラーニング環境を一層整備した。
- ③ Web シラバス・システム内で、前期末・後期末に「授業アンケート」を実施した。
- ④ 「AP テーマⅡ学修成果の可視化」分野で選定された他校の事例を参考とするため、八戸工業大学主催のシンポジウムへ参加(2017年11月10日)。
- ⑤ AP テーマⅡ選定8校「学修成果の可視化」あり方検討連絡会議」に出席(2017年12月12日、2018年2月15日)。
- ⑥ 本学の「学修成果」の評価を目的とした「第6回・第7回外部評価委員会」を開催。「第7回外部評価委員会」では中間評価を受けた(2017年9月、2018年3月)。
- ⑦ 『システム利用の手引き』と『授業改善事例集』を使用して、Web シラバス・システムの効果的な利用方法、ならびに、可視化された各種の「学修成果」関連データを活用した教育・授業改善の方法等を検討するためのFD/SD研修会を開催。
- ⑧ 2017年9月、1年生を対象に、「学修行動・生活調査」を実施。
- ⑨ 2018年2月、卒業前の2年生を対象に「学修行動・生活調査」を実施。
- ⑩ 2018年2月16日、「AP テーマⅡ・テーマⅤ合同シンポジウム」開催。
- ⑪ 2018年2月20日、「AP テーマⅠ～Ⅴ合同シンポジウム」開催。
- ⑫ 2018年2月末、「卒業生アンケート」・「就職先アンケート」報告書完成。
- ⑬ 2018年3月、『AP 事業中間報告書』を作成。
- ⑭ 2018年3月、『平成29年度 授業改善事例集』を作成。
- ⑮ 2018年3月、AP テーマⅡ選定8校共同で『実績報告書』を作成。
- ⑯ 2018年3月、独立行政法人日本学術振興会 大学教育再生加速プログラム委員会の中間評価で「A」評価を受ける。

【平成 30 年度】(計画)

- ① 4月 「新入生アンケート」・「学修行動・生活調査」を実施する。
- ② 7月、1月 「授業アンケート」を実施する。
- ③ 8月 改善の参考とするため、先進的な取組を行う他校の視察を行う。
- ④ 8月 「AP テーマⅡ「学修成果の可視化」あり方検討連絡会議」開催
- ⑤ 9月、3月 本学の「学修成果」の評価を目的とした「第8回・第9回外部評価委員会」を開催する。
- ⑥ 9月、3月 『システム利用の手引き』と『授業改善事例集』を使用して、Web シラバス・システムの効果的な利用方法、ならびに、可視化された各種の「学修成果」関連データを活用した教育・授業改善の方法等を検討するためのFD/SD研修会を開催する。
- ⑦ 9月 「学修行動・生活調査」を実施する。
- ⑧ 11月 「卒業生アンケート」を実施する。
- ⑨ 12月～2月 「システム利用の手引き」、『平成30年度授業改善事例集』を作成する。
- ⑩ 2月 「学修行動・生活調査」を実施する。
- ⑪ 2月 「AP テーマⅡ「学修成果の可視化」あり方検討連絡会議 報告書」を作成する。
- ⑫ 2月 「AP (テーマⅡ) 事業 共同シンポジウム」を開催する。

【平成 31 年度】(計画)

- ① 4月 「新入生アンケート」・「学修行動・生活調査」を実施する。
- ② 7月、1月 「授業アンケート」を実施する。
- ③ 8月 「AP テーマⅡ「学修成果の可視化」あり方検討連絡会議」開催
- ④ 9月、3月 本学の「学修成果」の評価を目的とした「第10回・第11回外部評価委員会」を開催する。「第11回外部評価委員会」では、本事業の最終評価を受ける。
- ⑤ 9月、3月 「システム利用の手引き」と『授業改善事例集』を使用して、Web シラバス・システムの効果的な利用方法、ならびに、可視化された各種の「学修成果」関連データを活用した教育・授業改善の方法等を検討するためのFD/SD研修会を開催する。
- ⑥ 9月 「学修行動・生活調査」を実施する。
- ⑦ 11月 「卒業生アンケート」を実施する。
- ⑧ 11月～2月 『システム利用の手引き(改訂版)』、『授業改善事例集(改訂版)』を作成する。
- ⑨ 2月 「学修行動・生活調査」を実施する。
- ⑩ 2月 『AP事業最終報告書』を作成する。
- ⑪ 2月 「AP テーマⅡ「学修成果の可視化」あり方検討連絡会議 最終報告書」を作成する。

【参考資料 4】外部評価委員会の AP 事業に対する主なご意見・評価

<p>【第1回】（平成27年3月16日）</p> <p>(1) 「大学教育再生加速プログラム(AP)」の検証・評価について ～「富山短期大学 AP事業の概要と教育改革の方向(素案)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 短期大学の学位プログラム全体の成果が上がっているのかどうか、学科レベルのプログラムの目標が達成されているのかどうか、学生個人の到達目標が達成されているのかどうか、の3種類を大きく分ける必要がある。 ● 科目の評価のみのルーブリックになっている。大学全体のルーブリックとの繋がりが読み取れないため、マクロ活用かミクロ活用か、どちらから始めるのかを明確にする必要がある。 ● ルーブリックは、評価の観点の基準を可視化するための、パフォーマンス評価の指標である。パフォーマンス評価は、複数の観点から総合的にとらえる必要がある。 ● この取組で、学外からも学校の様子が判るのであれば、良い取組である。 ● 「学生の主体的な学び」に共感した。 <p>(2) 「第三者アンケート」の調査項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アンケート結果を、何に反映させるのか不明である。 ● 「可視化」は、誰にとっての可視化か不明である ● 富山短期大学のラーニング・アウトカムと就職先が卒業生に求める力との関連が不明。ラーニング・アウトカムと採用者側のニーズにミスマッチがあった場合に、どうするのか。 ● アンケート調査については、有効な取組である。
<p>【第2回】（平成27年9月18日）</p> <p>(1) 「大学教育再生加速プログラム(AP)」の検証・評価について ～「(平成27年度前期)アンケート結果の概要と今後の課題・対応」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「自己効力感」は最も重要な要素と考えている。本学では、LO5ではなくLO4に分類。 ● 試験（ペーパーテスト）で測れるのは、知識のみである。「やれる」というパフォーマンスを評価するには、学生の行動を観察しなければならない。 「知識」と「出来ること」とは違う。（知っているも、出来ないことが問題。） 本来は、学生自身のパフォーマンスについて、評価の観点と基準表（ルーブリック）に基づいて教員が評価を示して、教員の見方が正しければ、学生が自身を改善していこうとするものである。そうした小さな成功体験の積み重ねが、「自己肯定感」につながっていく。 ● このAP事業では、個別学習支援がポイントであること。「自己効力感」を高めるには、学生の多様性に配慮した、各教員による個別指導がポイントになる。 ● 学生の学修時間が伸びていない。また、受講態度に関連して学生からの質問・相談等も伸びていない。これは、アクティブラーニングの成果が出ていないことが問題である。 アクティブラーニングのやり方を、教員が組織的に学習する必要がある。 ● アンケートについては、「悪かった意見」が重要である。 ● 現在、企業の研修は、ほとんど「グループ研修」である。（講義形式少ない） ● LO5の「社会性・人間性」を培っていくことが最も重要である。 ● 生涯学習し続ける姿勢・態度を植え付ける教育が重要である。 ● パフォーマンスを伸ばすには、もっと校外で実習等を行うべきである。 ● 学生に伸びたところを伝える必要もある。
<p>【第3回】（平成28年3月9日）</p> <p>(1) 「(富山短期大学)第三者アンケート」結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立つ授業」とあるのは、知識そのものではなく、職場に入って必要な知識や技能を自ら獲得する力、新たに学び得る力こそが、職場で必要であるからだろう。 そうした力は、教科書を暗記させるだけでは身に付かない。知識を応用する力、自分で考える力を育成するには、少人数ゼミやグループワークが重要になってくると思う。 ● 大学で身に付けさせる力は、「自分で学ぶ力」、「自分で成長していく力」に他ならない。そのためアクティブ・ラーニング。教室だけでなく、教室外の地域の現場でアクティブ・ラーニングを深めようというのがCOC+の狙いでもある。 ● 以前は3年で一人前と言われたが今では5年で一人前。とにかくメンタル面、教育面での新たな対応が必要となっている。 企業側は、「自ら考える社員」ということを強調しており、今回の就職先アンケートの結果も同様の結果とみている。 ● 職場として重視しているのは、専門的な知識よりも協調性や人間関係力、向上心といった社会人としての能力。現場でもそういった能力を育成するよう重点を置いて努力している。 ● （データの見方として）回収率の高さと満足度の高さが比例しているのではないか。すなわち、現状に満足している人、ゆとりのある人が多く回答しているのではないか。

<ul style="list-style-type: none"> ● 転職理由の一番に、「職場における人間関係の悪さ」が挙げられている。これは、どの職場に移っても起こりうる問題。これへの対応が重要。例えば、コミュニケーション能力の育成。スキルとして、ある程度コミュニケーション能力を高めることができるのではないか。そこに力を入れれば、この理由による離職を減らすことができるのでは。 ● 必要な能力・資質に関して卒業生と就職先で見方が異なる一因に、言葉の定義の問題があるかもしれない。例えば、「教養」「専門性」と言っても、人によって定義が異なる。
<p>(2) 「第三者アンケート」結果の活用について ～「インターンシップ・ルーブリック(簡易評価票)」(たたき台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 非常によくできたインターンシップの評価表であると思う。具体的で分かりやすい。 ● ルーブリックの目的は、まず学生たちがインターンシップでどういった力を身に付けたらよいのか、どういった力が必要なのかを理解・気づかせるためのものである。学生たちが理解しやすい内容であることが必要。 次に、評価する受け入れ先側も、何を評価したらよいのか、学生に何を意義付けさせたらよいのかについて共通の理解を持ってもらうことも必要だろう。 ● 人間関係により、またストレス・マネジメントが上手くできなくて離職する、あるいは自分のことをうまく伝えられなくて離職する者が多いことを考えると、人間力を養う上においても、社会人教育の一環として、資格系の実習でも利用したらよいと思う。 ● 企業内教育が大事なのだが、利用者に対して事業者が何をなすべきかについての教育が十分にできていないのが現実。 例えば、評価表の中に「経営理念の理解」とあるが、経営理念に関する理解、経営理念の具体化が十分にできていないのが現状。それを早い段階で、学校や学生達にも大切であることを気付いてもらうきっかけにして欲しいと思う。 ● 最近の実習生を見てみると、自己評価がきちんとできるようにすべきかと思う。アクティブ・ラーニングをしっかりとやり、自己肯定感を高めた上で現場に出ていくべき。 ● この評価表の内容について、学生自身が、実社会や就職先のどのような場面をイメージして自己評価したらよいのかを、しっかり理解できていることが重要。 その評価表の項目や指標を、現実の場面につなげてあげる作業を、カリキュラム等の中で行ってあげれば、自己評価が活きてくると思う。
<p>【第4回】 (平成28年8月25日)</p> <p>(1) 「富山短期大学「3つのポリシー」の改正案」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 短大全体のDPでは「4つの力」が挙げられているが、その「見出し」と「具体的な説明」が必ずしも対応していない。加えて「学力の3要素」との対応関係も不明。従って、「学力の3要素」と対応させた「学修成果の5つの基準 (LO1～LO5)」の対応関係も不明。 ● 学科の「学修成果 (LO1～LO5)」の具体的な内容を作成する際に、複数の要素・能力を入れたのでは、ルーブリックを作成することは不可能。もっとシンプルなものにする必要。 学生が修得する力(学修成果)は、学生が記憶できるくらいの内容でないと無理。
<p>(2) 「富山短期大学2015年度入学者の追跡調査」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまでの処、パネルデータの蓄積はうまくいっていると思う。 ● 入試との関係については、今後、このローソク足グラフの下のひげに当たる層を、入試選抜でどう識別するかという方法を開発しなければならないだろう。 ● 学修成果別の自己評価に関しては、例えば、大きな実習の前後で、学生の学業成績や自己評価が変わってくるだろう。 その時、どういった教育内容が効果的だったのか。また、伸びる学生とそうでない学生の違いはどこにあるのか、といったことが重要な分析課題となってくる。 特に、コンピテンシーと言われる汎用能力と学業成績がパラレルでないことは明らか。 それでは、社会が求めるコンピテンシーに優れた学生は、どのような資質を持ち、どのような経験をしたのか？逆に言えば、どのような教育方法・経験が、そうしたコンピテンシーを育てる上で効果的・有効であったのかを実証する分析が必要となってくるだろう。 ● 「産学接続」という観点から長年研究を続けてきて、新入社員教育の中で一番大事なのが、「自ら考える社員の育成」というところに落ち着いた。「産学接続」という観点からも、産業界の意見を聞き、情報を短大教育にフィードバックしてほしい。 LO4・LO5の部分が一番重要なので、是非、力を入れて頂きたい。 ● LO4・LO5の部分を土台とすることが重要。この土台が大きければ大きいほど、社会に出て、しっかりと活躍できる人間になれると思う。 ● AP事業に関しては、回を重ねるごとに進化していると感じている。 世の中が求めているニーズとDPは大いに関係している訳で、どういう指標でもって、どのように評価し可視化していくかが、大変重要かつ大切な課題であると思う。

【第5回】（平成29年3月13日）

(1) 「学修成果」の分析について

- (AP) 「学修成果の可視化」事業の成果を、数値（数量的指標）で強調することが重要。
「学修成果の可視化」によって、「学修成果」が向上したことを、（数量的指標で）強調することが重要。
- 「学修成果の可視化」が、どのように「質の向上」・「質保証」に繋がっていくのかを、分かりやすく強調する必要。
- 職場に入ってからでも勉強していかないと、社会的に通用しなくなる。大学教育の場でも、実践力だけでなく、生涯学習への意識付けと、学修の習慣づけをやってもらいたい。
- 教えられる内容と、社会に出た後とのつながりを考えると、何のための授業なのか、授業の狙いとか社会とのつながりを理解した上で学修が効果的なのではないか。
- 「めげずに仕事を続けていく力」が重要。
- (LO1) ～ (LO4) までは大学で育成できるだろうが、(LO5) の「他者を尊重し、多様な人々と共に共通の目標の実現に貢献できる協働力」は、大学だけでは難しい。色々なカリキュラムを考える必要がある。
特に、皆とディスカッションしながら意見をまとめ上げるというのが弱い。「他者を尊重する」部分が弱い。この辺も、カリキュラムの工夫が必要。
- 「高校生に対する可視化」という視点が弱い。
DP・CP・APを、高校生にとっても分かりやすい表現にしたらい。特に、DPの「育成する人材像」・「卒業後の人材像」を、高校生にも分かるように、「一言で、ズバット」表現できると良い。今の表現では、高校生が想像できない。
- 「学び続ける力」・「主体的に学ぶ力」・「協働力」は、お題目を唱えているだけでは駄目。授業の中で、実践の中で身に付けさせないと駄目。そのための授業改善が重要。
- 本当に (LO1) ～ (LO5) まで出来るようになったのかどうかを可視化できる手立ては？

【第6回】（平成29年9月22日）

(1) 「授業改善」効果の検証について

- 「授業アンケート」データの共有の仕方・活かし方が、今後のFDの重要な課題。
某大学のある学科では、1年間の終了時に、教員がグループでお互いの評価を見せ合いながら、改善の方向・工夫を話し合っている。
- 学生が、1年間・半年間の授業への取組を反省する機会として「授業アンケート」を活用している。例えば、成績を返却して学生と面談する際に「授業アンケート」を活用して、学生の取組を振り返らせ、次の勉学に活かす工夫。【学生へのフィードバックの工夫】
- ①講義型・演習型授業の違い、②講義型授業でもALを導入している授業とそうでない授業の違い、③実習前と実習後の学生の違い、等を可視化できたら面白い。
- 「対話的な学び」の重要性。そのための一つの手段としての「授業アンケート」、及び個別の対話によるフィードバックの重要性。
- 「授業アンケート」は、短大側の教育目的・目標から見た評価！学生の目標・目的から見た評価はどうか？
学生の目標・目的は、「自分が望む会社・仕事に就くこと」のはず。そのためには、大学で得られた知識も重要だが、ヒューマンスキルが最も大切なはず。
その目標・目的からみて、短大の授業・教育をどのように評価するのか？満足度は？
学生の目標・目的から見た満足度を左右するのは、授業なのか、それともアルバイト、サークル活動、友人関係等々なのか、それらが見える分析がほしい。
- 「入った人間をどれだけ伸ばしたか」を可視化することが重要。
学生のアンケート結果（主観的評価）以外の客観的なエビデンスがほしい。
- 学修成果・教育目標が、現場のニーズに合っているかのチェックが重要。
学生の期待・自己評価と学修成果のずれ！
4学科共通のアンケートで、「学科の特色として身に付けてほしい力」の評価ができないのではないか。
- 授業アンケート結果や「学修成果」の学生へのフィードバックを通じて、学習意欲を高める取組が重要。

【参考資料 5】 AP 事業の対外的波及のための取組

他大学等へのAP事業波及のための取組 (平成29年度末現在)
1. 各種研修会・シンポジウム等での本学の取組の紹介
<ul style="list-style-type: none"> • 平成27年9月4日【アルカディア市ヶ谷（私学会館）】 <ul style="list-style-type: none"> ※ 私立大学情報教育協会「平成27年度 短期大学教育改革ICT戦略会議」 ★ 「地域と共生する短期大学としての教育改革アクションプラン」
<ul style="list-style-type: none"> • 平成27年10月29日【ホテルオークラ新潟】 <ul style="list-style-type: none"> ※ 日本私立短期大学協会「私立短大教務担当者研修会」 ★ 「『学修成果評価システム』の構築によるPDCAサイクルのシステム化」
<ul style="list-style-type: none"> • 平成27年11月20日【名古屋ガーデンパレス・ホテル】 <ul style="list-style-type: none"> ※ 私学振興・共済事業団「平成27年度 私学リーダーズ・セミナー（短期大学版）」 ★ 「教育改革の取組～「Webシラバス・システム」を核としたAP事業計画を中心に」
<ul style="list-style-type: none"> • 平成28年11月7日【アルカディア市ヶ谷（私学会館）】 <ul style="list-style-type: none"> ※ 私学研修福祉会「第39回私立大学の教育・研究充実に関する研究会（短期大学の部）」 ★ 「「学修成果」の可視化による「質保証」の取組み」
<ul style="list-style-type: none"> • 平成29年3月21日【松本大学】 <ul style="list-style-type: none"> ※ 松本大学松商短期大学部主催「公開FD・SD講演会」 ★ 「Web シラバス・システムによる『学修成果』の可視化」
<ul style="list-style-type: none"> • 平成30年2月16日【品川 THE GRAND HALL（品川グランドセントラルタワー）】 <ul style="list-style-type: none"> ※ AP テーマⅡ・テーマⅤ採択校共同主催「高等教育に求められる質保証を考える」 ★ 「『学修成果の可視化』で目指すもの～取組概要と成果」【ポスター・セッション参加】
<ul style="list-style-type: none"> • 平成30年2月20日【京都光華女子大学短期大学部 徳風館 6階小講堂】 <ul style="list-style-type: none"> ※ AP テーマⅠ～Ⅴ採択 6校共同主催「AP全テーマ合同報告会」 ★ 「『学修成果の可視化』で目指すもの～取組概要と成果」
2. 本学への訪問大学・短大に対する本学の取組の紹介【略】
3. (AP関連) 各種委員会委員【略】

【参考資料 6】「平成 29 年度 授業アンケート」

1. 1 年生 前期科目

2017 年度入学 1 年前期 授業アンケート結果

集計結果

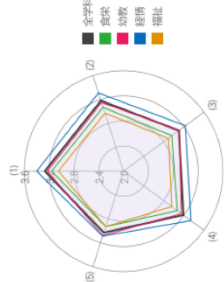
合計	回答者数	4674人	戻修者数	5382人	回答率	86.8%
食物栄養学科	973人	1120人	86.9%			
幼児教育学科	1135人	1313人	86.4%			
経営情報学科	1944人	2119人	91.7%			
福祉学科	535人	676人	79.1%			
食物栄養専攻	87人	154人	56.5%			

1. 授業で獲得できた「学修成果」に関する自己評価

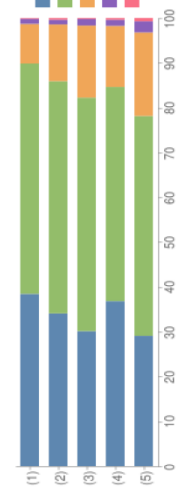
- 問1 この授業では、皆さんは、どの程度「学修成果」を獲得したと自分で評価しますか。
- (1) 授業で説明された知識を理解し、身に付けることができた。
 - (2) 授業で目指された、実践や表現、分析等のための技能（スキル）を身に付けることができた。
 - (3) 授業で学修した知識・技能を活用して、当該分野の問題を解決あるいは表現・実践できるようになった。
 - (4) 当該分野に対する関心が高まり、自ら主体的に学ぶ意欲、あるいは課題に取り組み意欲が増した。
 - (5) 他者や社会、自然・環境との関わりの中で生きる人間として必要な社会性・人間性が身に付いた。

4 学科平均値比較 (専攻科を除く)

A: 4 点 B: 3 点 ... E: 0 点として平均値を求めている。以下、軸に注釈がなければ同様。



全学平均 (専攻科を除く)



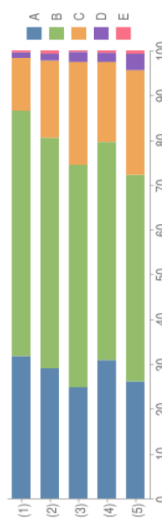
【選択肢】

- A. 大いに身に付いた
- B. いくらか身に付いた
- C. どちらともいえない
- D. あまり身に付かなかった
- E. まったく身に付かなかった

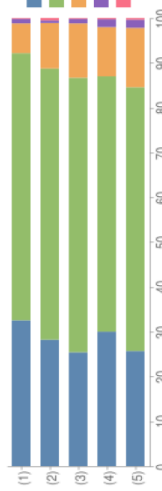
- (1) 知識・理解
- (2) 技能
- (3) 思考・判断・洞察力
- (4) 関心・意欲・態度
- (5) 人間性・社会性

学科別調査結果

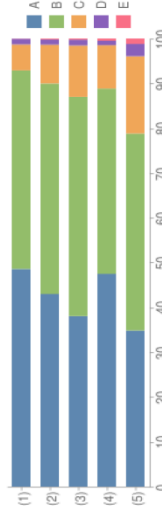
食物栄養学科



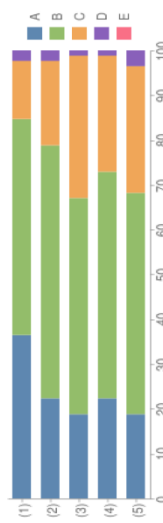
幼児教育学科



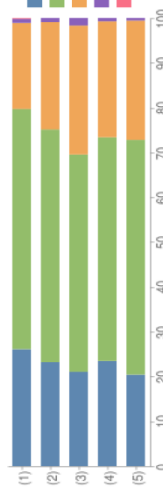
経営情報学科



専攻科 食物栄養専攻



福祉学科



II. 授業形態・方法

問2 この授業では、「学修成果」を高めるために、どのような工夫がなされていますか。

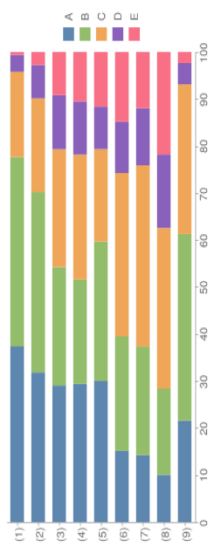
- (1) 教材（配布資料、板書、スライド等）が工夫されていた。
- (2) 授業中に、学生の意見や考えを求められた。
- (3) グループワークやディスカッションなど、学生の参加・協働学習の機会があった。
- (4) 体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク等）の機会があった。
- (5) 期末試験の他に、小テストやレポートなどの課題が出された。
- (6) 課題などの提出物が、適切なコメントが付与されて返却された。
- (7) 毎回の授業アンケート（「質問・意見」など）に関する解説・回答などフィードバックがあった。
- (8) 個別指導や補習が行われた。
- (9) その他、「学修成果」を高める工夫がなされた。

【選択肢】

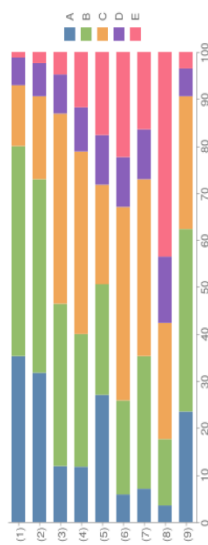
- A. 大いにあった
 B. いくらかあった
 C. どちらともいえない
 D. あまりなかった
 E. まったくなかった（該当なし）

学別調査結果

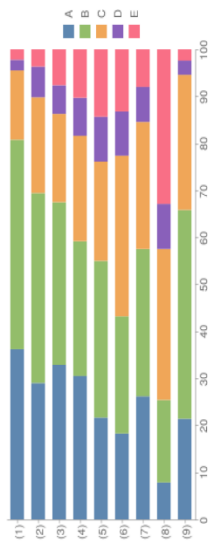
食物栄養学科



専攻科 食物栄養専攻



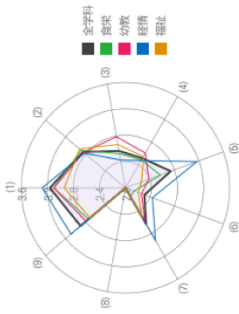
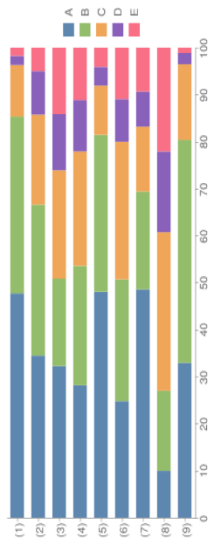
幼児教育学科



福祉学科



経営情報学科



- (1)教材の工夫
 (2)双方向・学生の意見
 (3)グループワーク 学生の参加・協働学習
 (4)体験学習
 (5)小テスト/レポート
 (6)コメント付き返却
 (7)毎回アンケートのフィードバック
 (8)個別指導・補習
 (9)その他の工夫

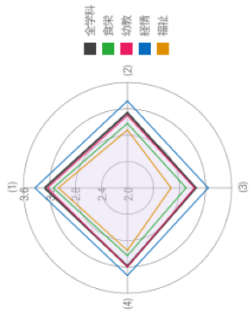
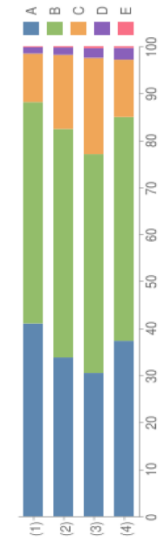
III. 学習意欲を高める授業内容・方法の工夫

問3 この授業の目的や「学修成果」、成績評価の方法・基準、内容についての経歴理解できましたか。

(1) 「授業の目的」が明確で、理解できた。
 (2) 「学修成果」（授業を通じて獲得できる力）について説明があり、理解できた。
 (3) 「成績評価の方法」と「ルーブリック（評価基準）」の説明があり、理解できた。
 (4) 「授業の内容」は、分かりやすく理解できた。

【選択肢】

- A. 大いに理解できた
 B. いくらか理解できた
 C. どちらともいえない
 D. あまり理解できなかった
 E. まったく理解できなかった



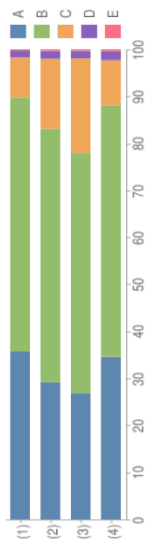
(1) 明確な授業目標
 (2) 「学修成果」の説明と理解
 (3) 「成績評価の方法」・「ルーブリック」の説明
 (4) 分かりやすい授業内容と理解

学科別回答結果

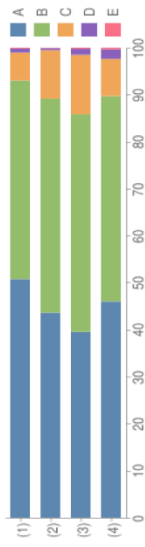
食物栄養学科



幼児教育学科



経営情報学科



専攻科 食物栄養専攻



福祉学科



III. 学習意欲を高める授業内容・方法の工夫

問4 この授業の効果・成果について、どのように評価しますか。

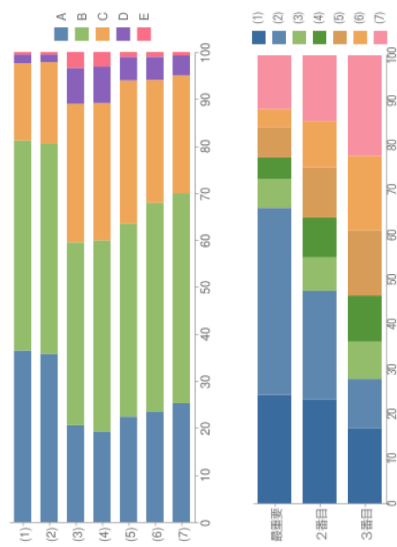
(1) 授業の内容・方法は、自分の興味・関心を喚起するものだった。
 (2) 授業の内容・方法は、将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立った。
 (3) 授業の内容・方法は、人に分かりやすい文章を書く力を獲得する上で役立った。
 (4) 授業の内容・方法は、人に分かりやすく話す・説明する力を獲得する上で役立った。
 (5) 授業の内容・方法は、ものを分析的・論理的に考える力を獲得する上で役立った。
 (6) 授業の内容・方法は、課題を見つめ、解決方法を考える力を獲得する上で役立った。
 (7) 授業の内容・方法は、社会に出ていく上で必要な社会性・人間性を高める上で役立った。
 (8) この授業を評価するにあたって、上記の項目の中で最も重要と思うものはどれですか。
 。また、2番目に、3番目に重要と思うものはどれですか。

【選択肢】

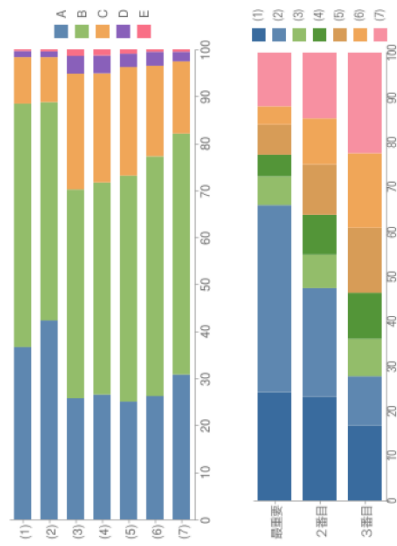
- A. 大変役立った
- B. いくらか役立った
- C. どちらともいえない
- D. あまり役立たなかった
- E. まったく役立たなかった

学科別回答結果

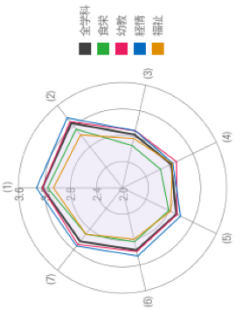
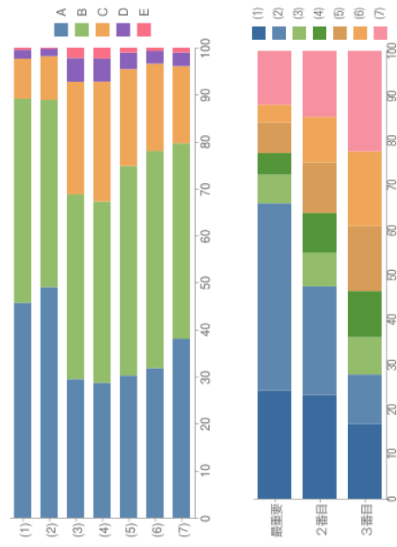
食物栄養学科



幼児教育学科

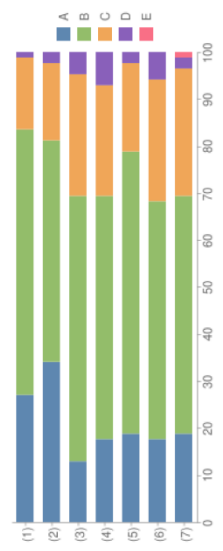


経営情報学科

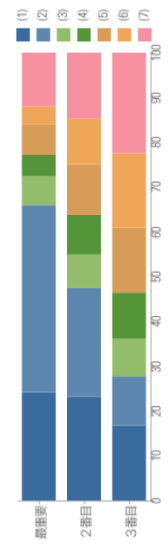
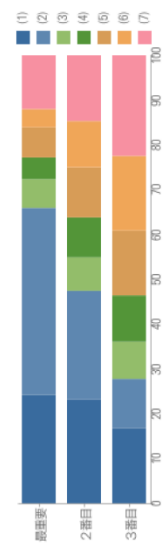
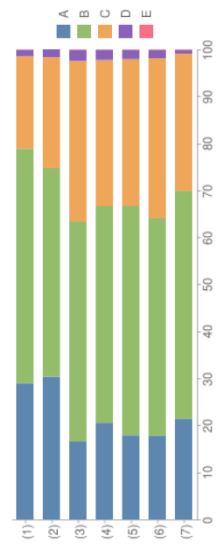


- (1) 興味・関心の喚起
- (2) 知識・技能・技術の取得
- (3) 文事力
- (4) プレゼン能力
- (5) 分析・論理的思考力
- (6) 課題発見・解決力
- (7) 社会性・人間性

専攻科 食物栄養専攻



福祉学科



IV. 総合評価

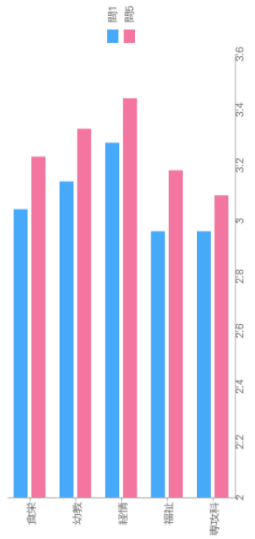
問5 あなたにとって、この授業は、総合的にみて良かったと思いますか。

【選択肢】

- A. 大変良かった
- B. 良かった
- C. どちらともいえない
- D. 良くなかった
- E. まったく良くなかった



総合評価授業満足度(問5)と「学修成果」の自己評価(問1)の平均



V. 学修行動 (学習態度に関する自己評価)

問6 あなた自身は、この授業にどのように取り組めましたか。

(1) この授業の欠席回数は何回ですか。
 【選択肢】 A: 0回, B: 1回, C: 2回, D: 3回, E: 4回以上

(2) 授業1回あたりの、授業外学習 (予習・復習・宿題・宿題・試験対策等) の時間はどれくらいですか。
 【選択肢】 A: 3時間以上, B: 1.5時間以上3時間未満, C: 1時間以上1.5時間未満, D: 30分以上1時間未満, E: 30分未満

(3) 授業で出された課題や宿題はきちんと行なった。

(4) 授業中に、質問や発言をした。

(5) 授業時間以外に、担当教員に質問したり相談をした。

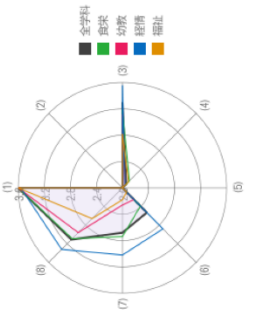
(6) 予習・復習・宿題・宿題・試験対策等、友だちと一緒に学習した。

(7) 授業で分からなかったこと、興味を持ったことは、自主的に調べた。

(8) 良い成績をとるために努力した。

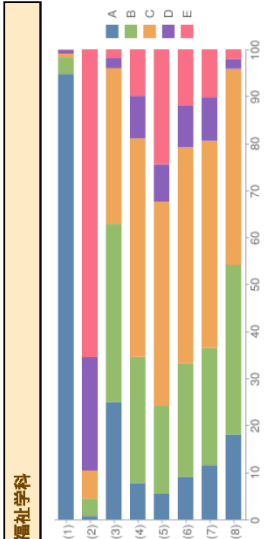
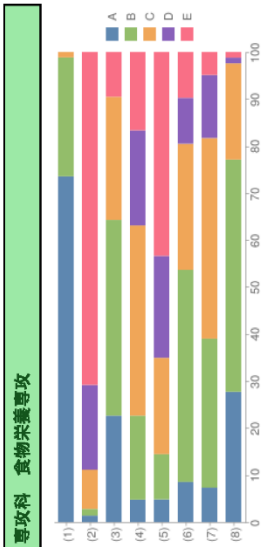
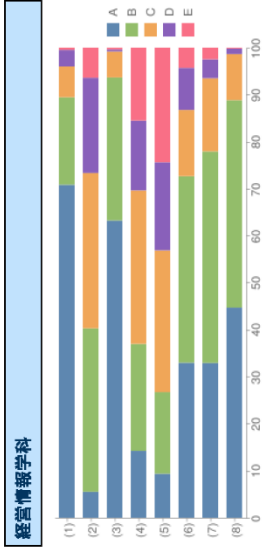
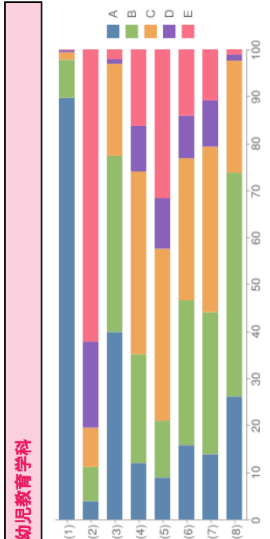
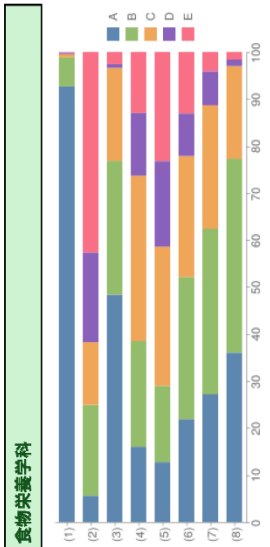
【選択肢】

- A. 積極的に行なった
- B. 行った
- C. どちらともいえない
- D. あまり行わなかった
- E. まったく行わなかった



- (1)欠席回数
- (2)授業外学習時間
- (3)宿題・課題の実施
- (4)質問・発言
- (5)教員への質問・相談
- (6)友達との協働学習
- (7)自主的学習
- (8)自己努力

学科別回答結果



2. 1年生 後期科目

2017年度入学1年後期 授業アンケート結果

集計結果

合計	回答者数	3811人	履修者数	5025人	回答率	75.9%
食物栄養学科	768人		1130人		67.9%	
幼児教育学科	911人		1230人		74.1%	
経営情報学科	1844人		2075人		88.9%	
福祉学科	230人		450人		51.1%	
食物栄養専攻	60人		140人		42.9%	

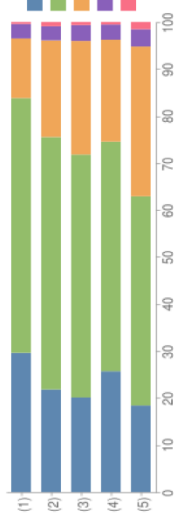
I. 授業で獲得できた「学修成果」に関する自己評価

問1 この授業では、皆さんは、どの程度「学修成果」を獲得したと自分で評価しますか。

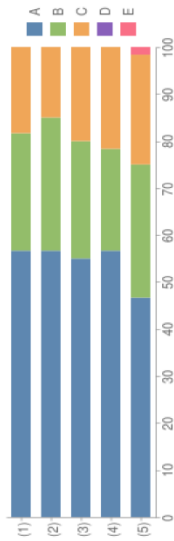
- (1) 授業で説明された知識を理解し、身に付けることができた。
- (2) 授業で目指された、実践や表現、分析等のための技能（スキル）を身に付けることができた。
- (3) 授業で学修した知識・技能を活用して、当該分野の課題を解決あるいは表現・実践できるようになった。
- (4) 当該分野に対する関心が高まり、自ら主体的に学ぶ意欲、あるいは課題に取り組み意欲が増した。
- (5) 作者や社会、自然・課題との関わりの中にも生きる人間として必要な社会性・人間性が身に付いた。

学科別回答結果

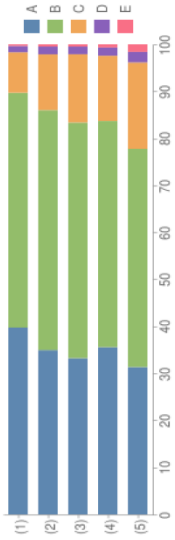
食物栄養学科



専攻科 食物栄養専攻



全学平均（専攻科を除く）

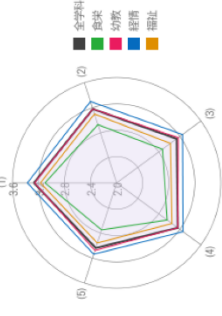


【選択肢】

- A. 大いに身に付いた
- B. いくらか身に付いた
- C. どちらともいえない
- D. あまり身に付かなかった
- E. まったく身に付かなかった

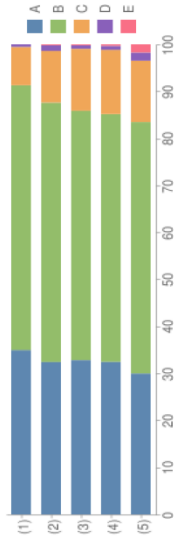
4学科平均値比較（専攻科を除く）

A：4点 B：3点 …… E：0点として平均値を求めている。以下、特に注釈がなければ同様。

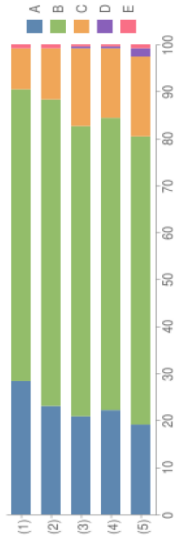


- (1)知識・理解
- (2)技能
- (3)思考・判断・表現力
- (4)関心・意欲・態度
- (5)人間性・社会性

幼児教育学科



福祉学科



II. 授業形態・方法

問2 この授業では、「学修成果」を高めるために、どのような工夫がなされていますか。

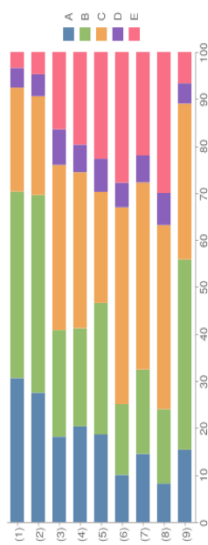
- (1) 教材（配布資料、板書、スライド等）が工夫されていた。
- (2) 授業中に、学生の意見や考えを求められた。
- (3) グループワークやディスカッションなど、学生の参加・協働学習の機会があった。
- (4) 体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク等）の機会があった。
- (5) 期末試験の他に、小テストやレポートなどの課題が出された。
- (6) 課題などの提出物が、適切なコメントが付与されて返却された。
- (7) 毎回の授業アンケート（「質問・意見」など）に関する解説・回答などフィードバックがあった。
- (8) 個別指導や補習が行われた。
- (9) その他、「学修成果」を高める工夫がなされた。

【選択肢】

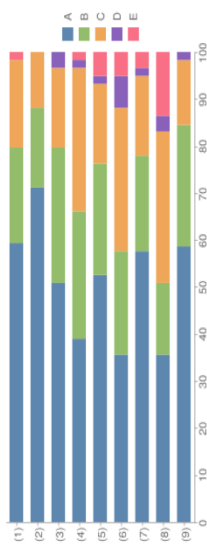
- A. 大いにあった
 B. いくらかあった
 C. どちらともいえない
 D. あまりなかった
 E. まったくなかった（該当なし）

学別別回答結果

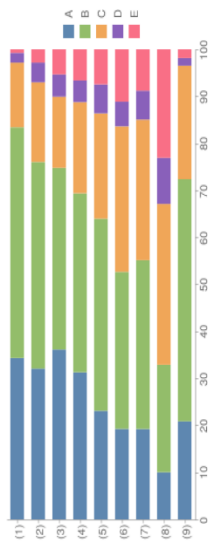
食料栄養学科



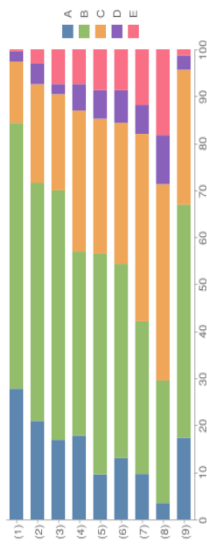
専攻科 食料栄養専攻



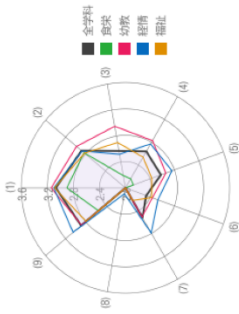
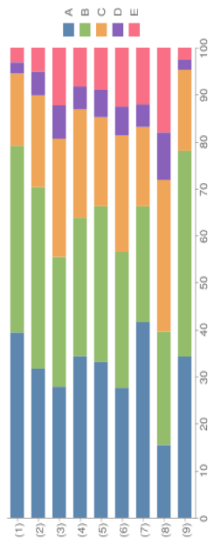
幼児教育学科



福祉学科



経営情報学科



- (1)教材の工夫 (2)双方向・学生の意見
 (3)グループワーク 学生の参加・協働学習 (4)体験学習
 (5)小テスト/レポート (6)コメント付き返却
 (7)毎回アンケートのフィードバック (8)個別指導・補習
 (9)その他の工夫

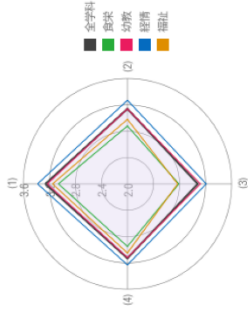
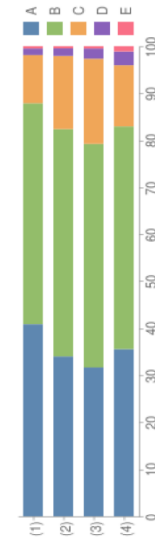
III. 学習意欲を高める授業内容・方法の工夫

問3 この授業の目的や「学修成果」、成績評価の方法・基準、内容についての経歴理解できましたか。

- (1) 「授業の目的」が明確で、理解できた。
- (2) 「学修成果」（授業を通じて獲得できる力）について説明があり、理解できた。
- (3) 「成績評価の方法」と「ルーブリック（評価基準）」の説明があり、理解できた。
- (4) 「授業の内容」は、分かりやすく理解できた。

【選択肢】

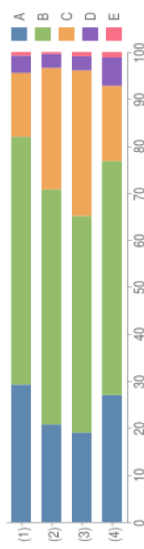
- A. 大いに理解できた
 B. いくらか理解できた
 C. どちらともいえない
 D. あまり理解できなかった
 E. まったく理解できなかった



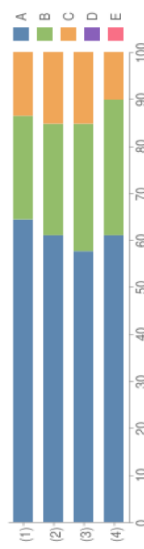
- (1) 明確な授業目標
 (2) 「学修成果」の説明と理解
 (3) 「成績評価の方法」・「ルーブリック」の説明
 (4) 分かりやすい授業内容と理解と理解

学科別回答結果

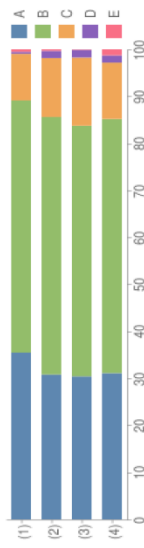
食物栄養学科



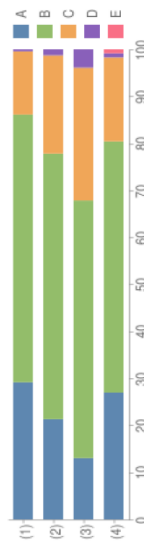
専攻科 食物栄養専攻



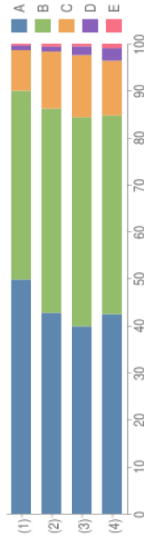
幼児教育学科



福祉学科



経営情報学科



III. 学習意欲を高める授業内容・方法の工夫

問4 この授業の効果・成果について、どのように評価しますか。

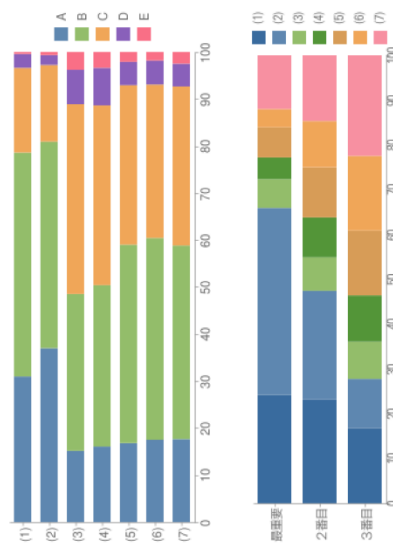
(1) 授業の内容・方法は、自分の興味・関心を喚起するものだった。
 (2) 授業の内容・方法は、将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立った。
 (3) 授業の内容・方法は、人に分かりやすい文章を書く力を獲得する上で役立った。
 (4) 授業の内容・方法は、人に分かりやすく話す・説明する力を獲得する上で役立った。
 (5) 授業の内容・方法は、ものごとを分析的・論理的に考える力を獲得する上で役立った。
 (6) 授業の内容・方法は、課題を見つけ、解決方法を考える力を獲得する上で役立った。
 (7) 授業の内容・方法は、社会に出ていく上で必要な社会性・人間性を高める上で役立った。
 (8) この授業を評価するにあたって、上記の項目の中で最も重要と思うものはどれですか。
 。また、2番目に、3番目に重要と思うものはどれですか。

【選択肢】

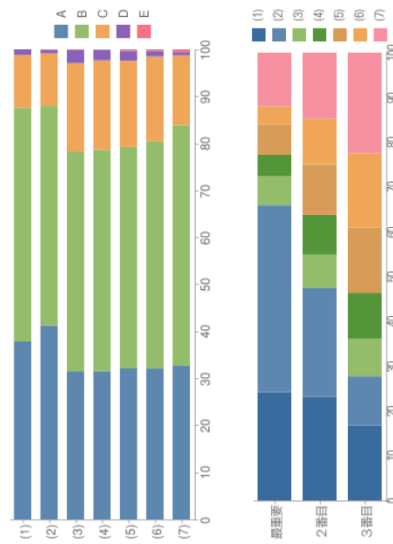
- A. 大変役立った
 B. いくらか役立った
 C. どちらともいえない
 D. あまり役立たなかった
 E. まったく役立たなかった

学科別回答結果

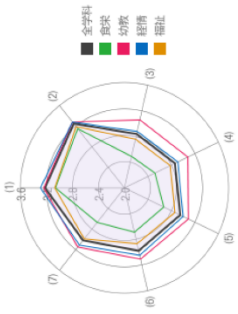
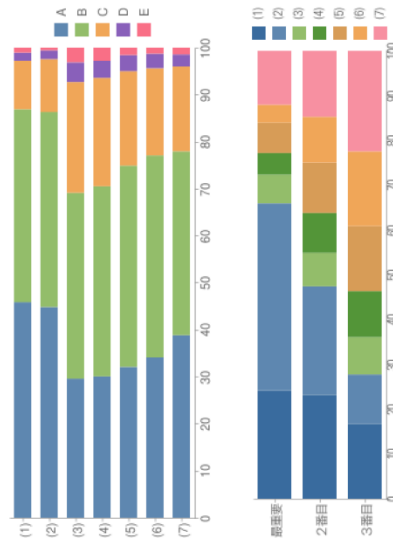
食物栄養学科



幼児教育学科

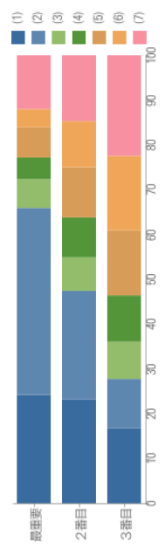
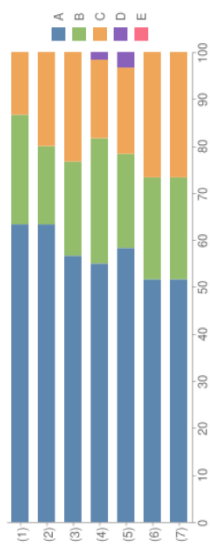


経営情報学科

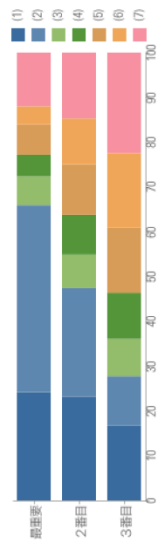
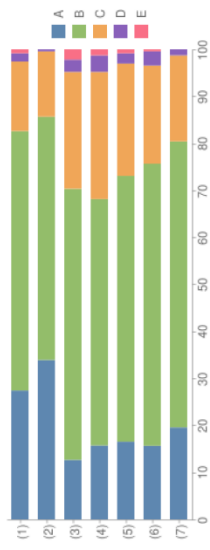


- (1) 興味・関心の喚起
 (2) 知識・技能・技術の取得
 (3) 文事力
 (4) プレゼン能力
 (5) 分析・論理的思考力
 (6) 課題発見・解決力
 (7) 社会性・人間性

専攻科 食物栄養専攻



福祉学科



IV. 総合評価

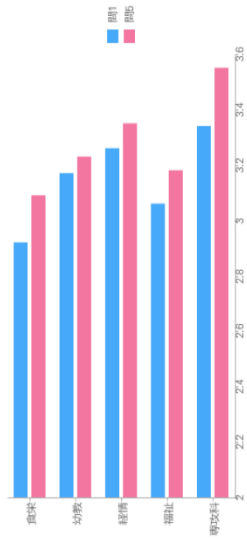
問5 あなたにとって、この授業は、総合的に良かったと思いますか。

【選択肢】

- A. 大変良かった
- B. 良かった
- C. どちらともいえない
- D. 良くなかった
- E. まったく良くなかった



総合評価授業満足度[問5]と「学修成果」の自己評価[問1]の平均



V. 学修行動（学習態度に関する自己評価）

問5 あなた自身は、この授業にどのように取り組めましたか。

(1) この授業の欠席回数は何回ですか。
 【選択肢】 A：0回 B：1回 C：2回 D：3回 E：4回以上

(2) 授業1回あたりの、授業外学習（予習・復習・宿題・宿題・試験対策等の）時間はどれくらいですか。
 【選択肢】 A：3時間以上 B：1.5時間以上3時間未満 C：1時間以上1.5時間未満
 D：30分以上1時間未満 E：30分未満

(3) 授業で出された課題や宿題はきちんと行なった。

(4) 授業中に、質問や発言をした。

(5) 授業時間以外に、担当教員に質問したり相談をした。

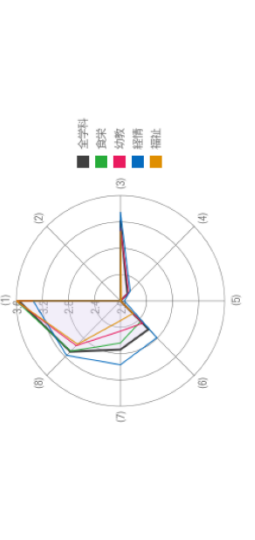
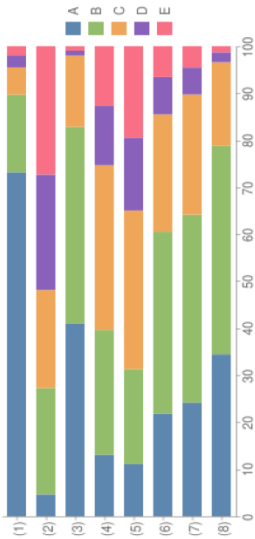
(6) 予習・復習・宿題・宿題・試験対策等、友だちと一緒に学習した。

(7) 授業で分からなかったこと、興味を持ったことは、自主的に調べた。

(8) 良い成績をとるために努力した。

【選択肢】

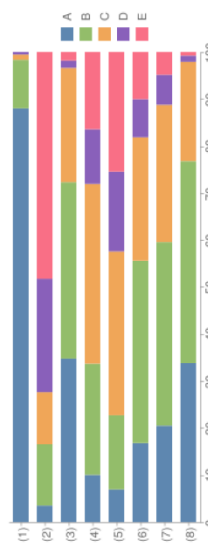
- A. 積極的に行なった
- B. 行った
- C. どちらともいえない
- D. あまり行わなかった
- E. まったく行わなかった



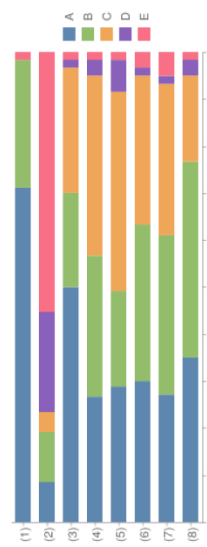
- (1)欠席回数
- (2)授業外学習時間
- (3)宿題・課題の実施
- (4)質問・発言
- (5)教員への質問・相談
- (6)友達との協働学習
- (7)自主的学習
- (8)自己努力

学科別回答結果

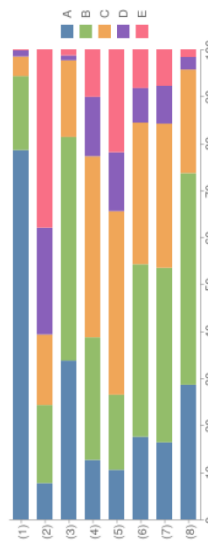
食物栄養学科



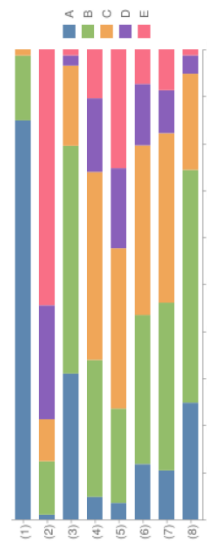
専攻科 食物栄養専攻



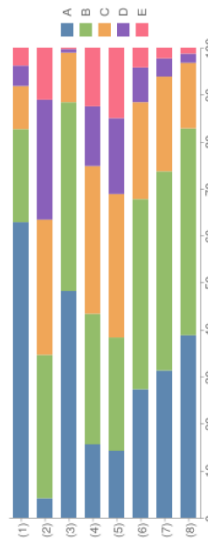
幼児教育学科



福祉学科



経営情報学科



3. 2年生 前期科目

2016年度入学2年前期 授業アンケート結果

集計結果

合計	回答者数	3344人	履修者数	4389人	回答率	76.2%
食物栄養学科	789人		1067人		73.9%	
幼児教育学科	1081人		1705人		64.0%	
経営情報学科	811人		894人		90.7%	
福祉学科	552人		603人		91.5%	
食物栄養専攻	101人		120人		84.2%	

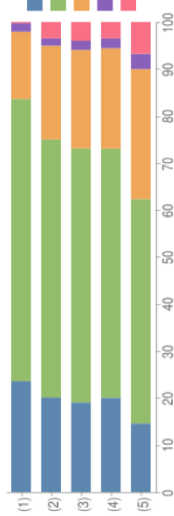
I. 授業で獲得できた「学修成果」に関する自己評価

問1 この授業では、皆さんは、どの程度「学修成果」を獲得したと自分で評価しますか。

- (1) 授業で説明された知識を理解し、身に付けることができた。
- (2) 授業で目指された、実践や表現、分析等のための技能（スキル）を身に付けることができた。
- (3) 授業で学修した知識・技能を活用して、当該分野の課題を解決あるいは表現・実践できているようになった。
- (4) 当該分野に対する関心が高まり、自ら主体的に学ぶ意欲、あるいは課題に取り組み意欲が増した。
- (5) 作者や社会、自然・課題との関わりの中にも生きる人間として必要な社会性・人間性が身に付いた。

学科別回答結果

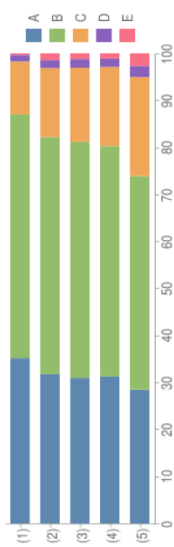
食物栄養学科



専攻科 食物栄養専攻



全学平均（専攻科を除く）

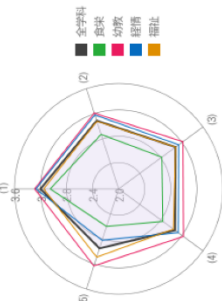


【選択肢】

- A. 大いに身に付いた
- B. いくらか身に付いた
- C. どちらともいえない
- D. あまり身に付かなかった
- E. まったく身に付かなかった

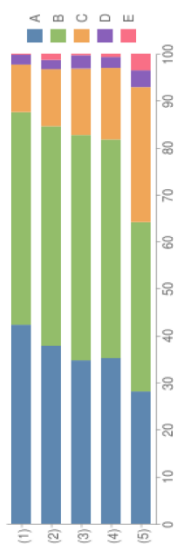
4学科平均値比較（専攻科を除く）

A：4点 B：3点 …… E：0点として平均値を求めている。以下、特に注釈がなければ同様。

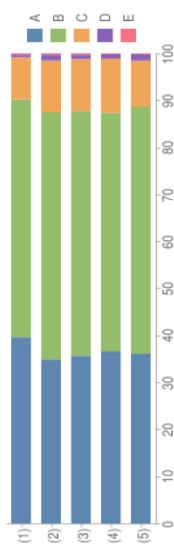


- (1)知識・理解
- (2)技能
- (3)思考・判断・表現力
- (4)関心・意欲・態度
- (5)人間性・社会性

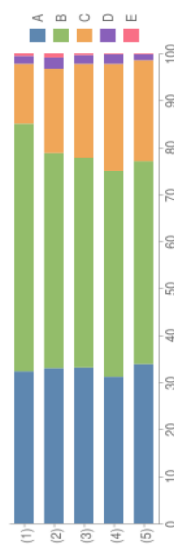
経営情報学科



幼児教育学科



福祉学科



II. 授業形態・方法

問2 この授業では、「学修成果」を高めるために、どのような工夫がなされてきましたか。

- (1) 教材（配布資料、板書、スライド等）が工夫されていた。
- (2) 授業中に、学生の意見や考えを求められた。
- (3) グループワークやディスカッションなど、学生の参加・協働学習の機会があった。
- (4) 体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク等）の機会があった。
- (5) 期末試験の他に、小テストやレポートなどの課題が出された。
- (6) 課題などの提出物が、適切なコメントが付与されて返却された。
- (7) 毎回の授業アンケート（「質問・意見」など）に関する解説・回答などフィードバックがあった。
- (8) 個別指導や補習が行われた。
- (9) その他、「学修成果」を高める工夫がなされた。

【選択肢】

- A. 大いにあった
 B. いくらかあった
 C. どちらともいえない
 D. あまりなかった
 E. まったくなかった（該当なし）

学別別回答結果

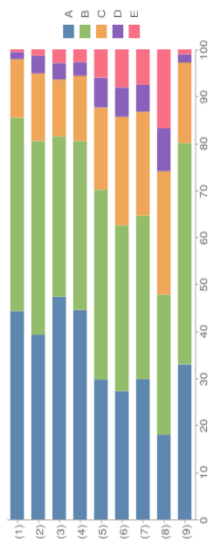
食物栄養学科



専攻科 食物栄養専攻



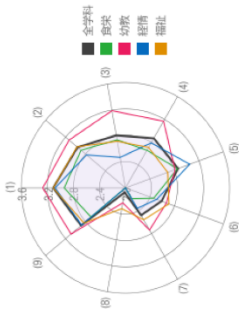
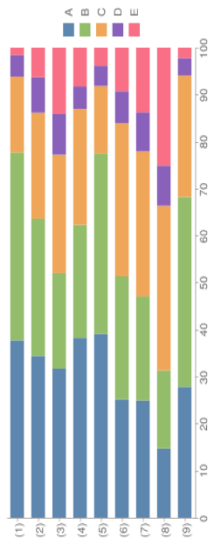
幼児教育学科



福祉学科



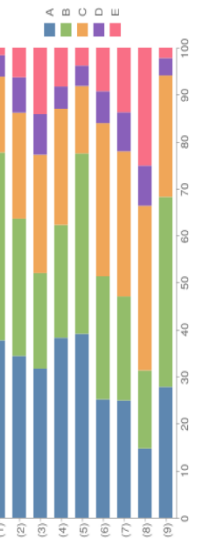
経営情報学科



- (1)教材の工夫 (2)双方向・学生の意見
 (3)グループワーク 学生の参加・協働学習 (4)体験学習
 (5)小テスト/レポート (6)コメント付き返却
 (7)毎回アンケートのフィードバック (8)個別指導・補習
 (9)その他の工夫

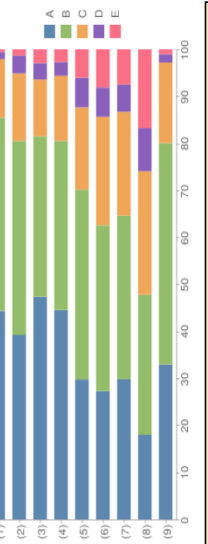
学別別回答結果

経営情報学科



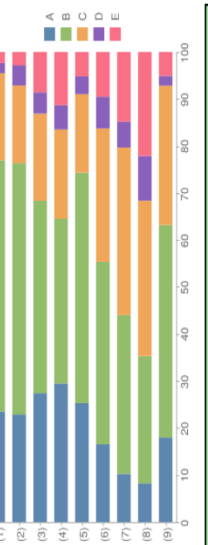
学別別回答結果

幼児教育学科



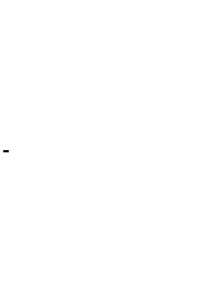
学別別回答結果

食物栄養学科



学別別回答結果

専攻科 食物栄養専攻



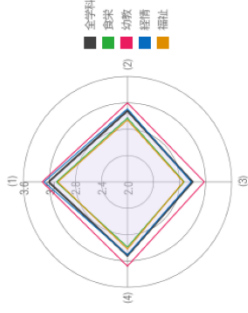
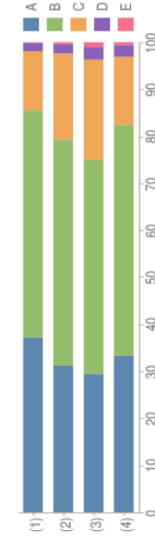
III. 学習意欲を高める授業内容・方法の工夫

問3 この授業の目的や「学修成果」、成績評価の方法・基準、内容についてのどの程度理解できましたか。

- (1) 「授業の目的」が明確で、理解できた。
- (2) 「学修成果」（授業を通じて獲得できる力）について説明があり、理解できた。
- (3) 「成績評価の方法」と「ルーブリック（評価基準）」の説明があり、理解できた。
- (4) 「授業の内容」は、分かりやすく理解できた。

【選択肢】

- A. 大いに理解できた
 B. いくらか理解できた
 C. どちらともいえない
 D. あまり理解できなかった
 E. まったく理解できなかった



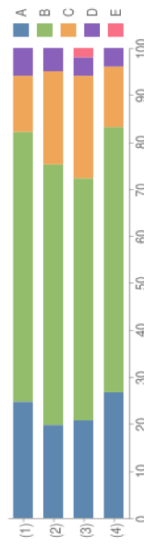
- (1) 明確な授業目標
 (2) 「学修成果」の説明と理解
 (3) 「成績評価の方法」・「ルーブリック」の説明
 (4) 分かりやすい授業内容と理解と理解

学科別回答結果

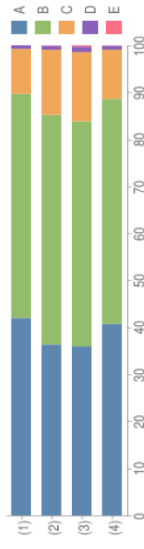
食物栄養学科



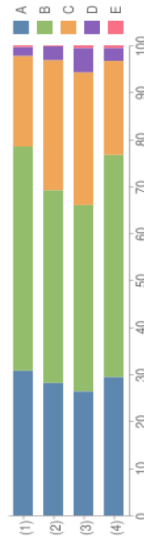
専攻科 食物栄養専攻



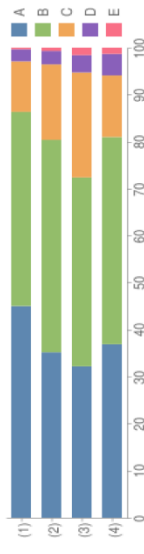
幼児教育学科



福祉学科



経営情報学科



III. 学習意欲を高める授業内容・方法の工夫

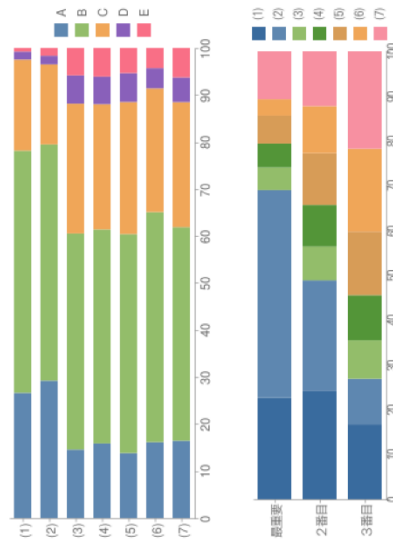
- 問4 この授業の効果・成果について、どのように評価しますか。
- (1) 授業の内容・方法は、自分の興味・関心を喚起するものだった。
 - (2) 授業の内容・方法は、将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立った。
 - (3) 授業の内容・方法は、人に分かりやすい文章を書く力を獲得する上で役立った。
 - (4) 授業の内容・方法は、人に分かりやすく話す・説明する力を獲得する上で役立った。
 - (5) 授業の内容・方法は、ものごとを分析的・論理的に考える力を獲得する上で役立った。
 - (6) 授業の内容・方法は、課題を見つめ、解決方法を考える力を獲得する上で役立った。
 - (7) 授業の内容・方法は、社会に出ていく上で必要な社会性・人間性を高める上で役立った。
 - (8) この授業を評価するにあたって、上記の項目の中で最も重要と思うものはどれですか。また、2番目に、3番目に重要と思うものはどれですか。

【選択肢】

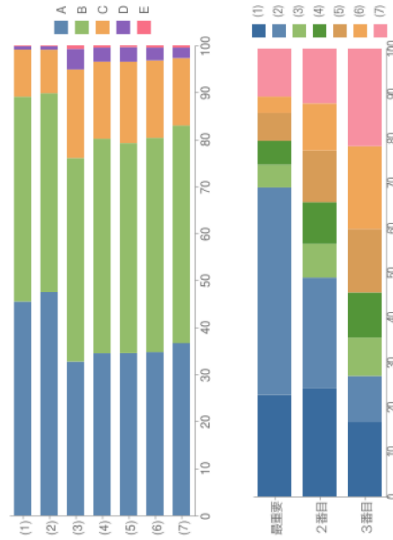
- A. 大変役立った
 B. いくらか役立った
 C. どちらともいえない
 D. あまり役立たなかった
 E. まったく役立たなかった

学科別回答結果

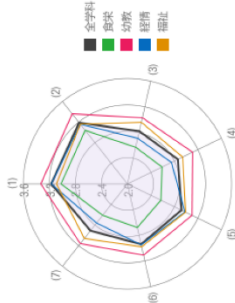
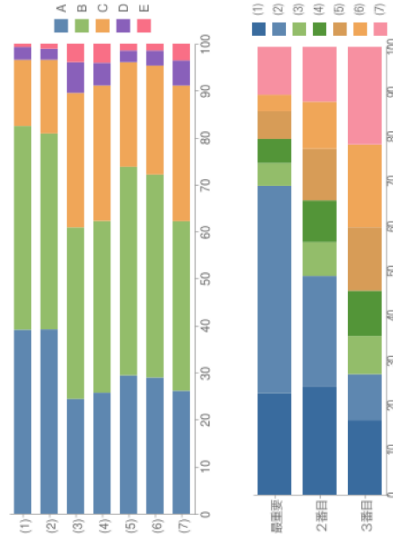
食物栄養学科



幼児教育学科

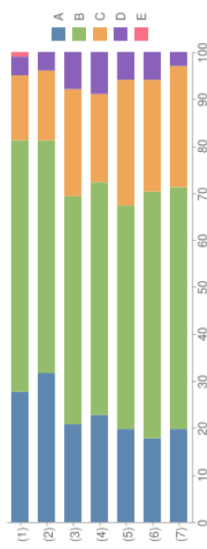


経営情報学科

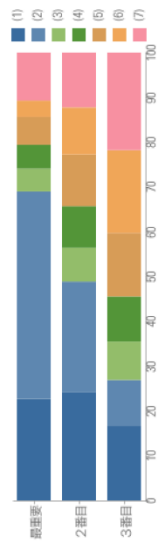
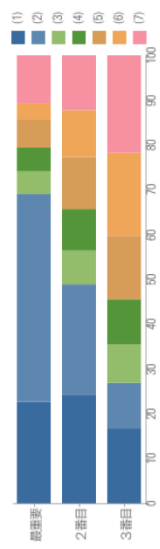
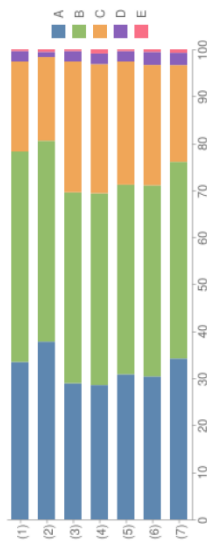


- (1) 興味・関心の喚起
 (2) 知識・技能・技術の取得
 (3) 文事力
 (4) プレゼン能力
 (5) 分析・論理的思考力
 (6) 課題発見・解決力
 (7) 社会性・人間性

専攻科 食物栄養専攻



福祉学科

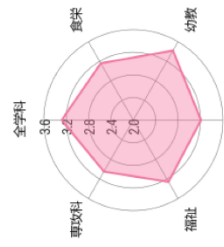


IV. 総合評価

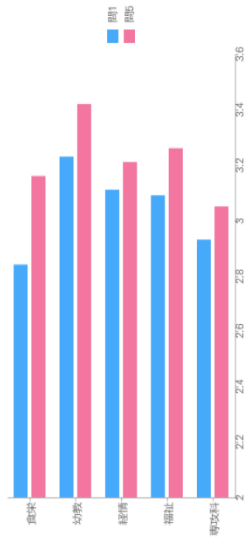
問5 あなたにとって、この授業は、総合的にみて良かったと思いますか。

【選択肢】

- A. 大変良かった
- B. 良かった
- C. どちらともいえない
- D. 良くなかった
- E. まったく良くなかった



総合評価授業満足度(問5)と「学修成果」の自己評価(問1)の平均



V. 学修行動（学習態度に関する自己評価）

問6 あなた自身は、この授業にどのように取り組めましたか。

(1) この授業の欠席回数は何回ですか。
 【選択肢】 A：0回、B：1回、C：2回、D：3回、E：4回以上

(2) 授業1回あたりの、授業外学習（予習・復習・宿題・宿題・試験対策等の）時間はどれくらいですか。
 【選択肢】 A：3時間以上、B：1.5時間以上3時間未満、C：1時間以上1.5時間未満、
 D：30分以上1時間未満、E：30分未満

(3) 授業で出された課題や宿題はきちんと行なった。

(4) 授業中に、質問や発言をした。

(5) 授業時間以外に、担当教員に質問したり相談をした。

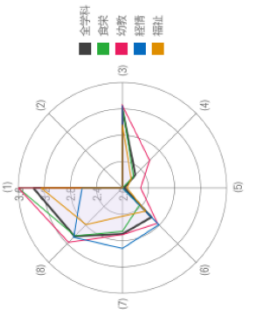
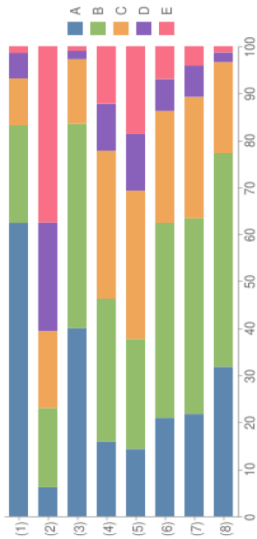
(6) 予習・復習・宿題・宿題・試験対策等、友だちと一緒に学習した。

(7) 授業で分からなかったこと、興味を持ったことは、自主的に調べた。

(8) 良い成績をとるために努力した。

【選択肢】

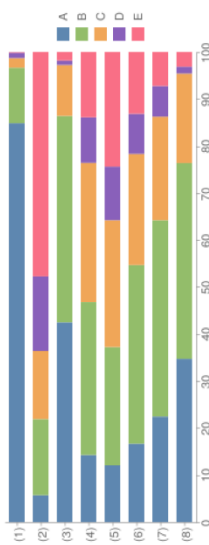
- A. 積極的に行なった
- B. 行った
- C. どちらともいえない
- D. あまり行わなかった
- E. まったく行わなかった



- (1)欠席回数
- (2)授業外学習時間
- (3)宿題・課題の実施
- (4)質問・発言
- (5)教員への質問・相談
- (6)友達との協働学習
- (7)自主的学習
- (8)自己努力

学科別回答結果

食物栄養学科



専攻科 食物栄養専攻



幼児教育学科



福祉学科



経営情報学科



4. 2年生 後期科目

2016年度入学2年後期 授業アンケート結果

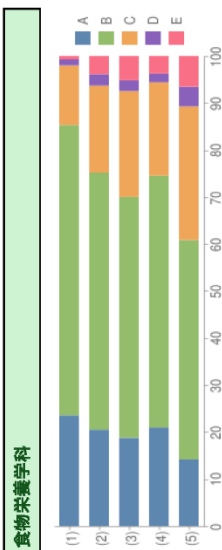
集計結果

合計	回答者数	2016人	履修者数	3428人	回答率	58.9%
食物栄養学科	730人		969人		75.3%	
幼児教育学科	480人		1449人		33.1%	
経営情報学科	404人		497人		81.3%	
福祉学科	322人		408人		78.9%	
食物栄養専攻	80人		105人		76.2%	

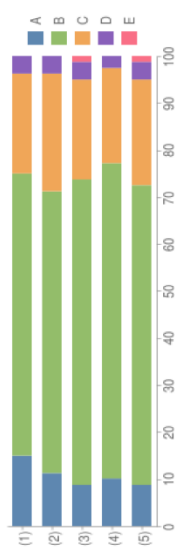
I. 授業で獲得できた「学修成果」に関する自己評価

- 問1 この授業では、皆さんは、どの程度「学修成果」を獲得したと自分で評価しますか。
- 授業で説明された知識を理解し、身に付けることができた。
 - 授業で目指された、実践や表現、分析等のための技能（スキル）を身に付けることができた。
 - 授業で学修した知識・技能を活用して、当該分野の課題を解決あるいは表現・実践できるようになった。
 - 当該分野に対する関心が高まり、自ら主体的に学ぶ意欲、あるいは課題に取り組む意欲が増した。
 - 作者や社会、自然・課題との関わりの中にも生きる人間として必要な社会性・人間性が身に付いた。

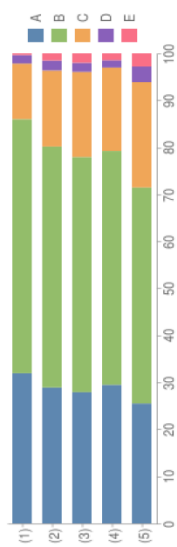
学科別回答結果



専攻科 食物栄養専攻



全学平均 (専攻科を除く)

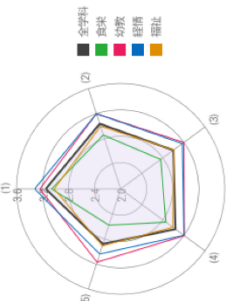


【選択肢】

- 大いに身に付いた
- いくらか身に付いた
- どちらともいえない
- あまり身に付かなかった
- まったく身に付かなかった

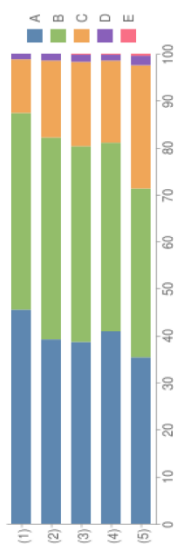
4学科平均値比較 (専攻科を除く)

A: 4点 B: 3点 ... E: 0点として平均値を求めている。以下、特に注釈がなければ同様。

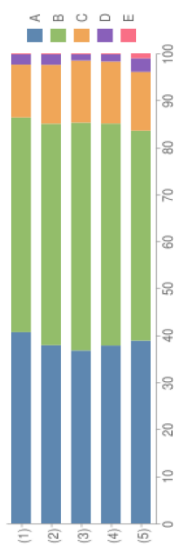


- 知識・理解
- 技能
- 思考・判断・表現力
- 関心・意欲・態度
- 人間性・社会性

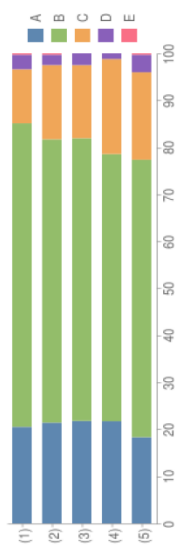
経営情報学科



幼児教育学科



福祉学科



II. 授業形態・方法

問2 この授業では、「学修成果」を高めるために、どのような工夫がなされていますか。

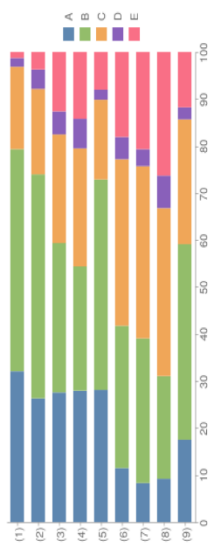
- (1) 教材（配布資料、板書、スライド等）が工夫されていた。
- (2) 授業中に、学生の意見や考えを求められた。
- (3) グループワークやディスカッションなど、学生の参加・協働学習の機会があった。
- (4) 体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク等）の機会があった。
- (5) 期末試験の他に、小テストやレポートなどの課題が出された。
- (6) 課題などの提出物が、適切なコメントが付与されて返却された。
- (7) 毎回の授業アンケート（「質問・意見」など）に関する解説・回答などフィードバックがあった。
- (8) 個別指導や補習が行われた。
- (9) その他、「学修成果」を高める工夫がなされた。

【選択肢】

- A. 大いにあった
 B. いくらかあった
 C. どちらともいえない
 D. あまりなかった
 E. まったくなかった（該当なし）

学別別回答結果

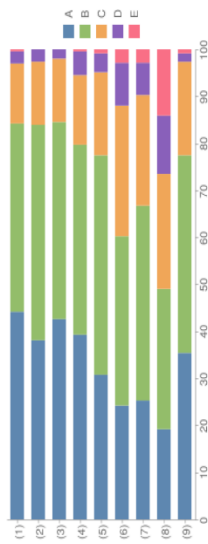
食物栄養学科



専攻科 食物栄養専攻



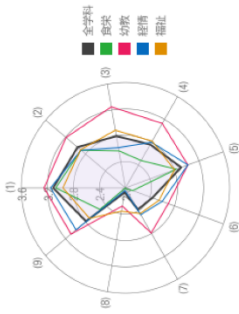
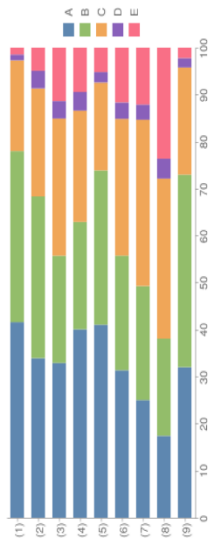
幼児教育学科



福祉学科



経営情報学科



- (1)教材の工夫 (2)双方向・学生の意見
 (3)グループワーク 学生の参加・協働学習 (4)体験学習
 (5)小テスト/レポート (6)コメント付き返却
 (7)毎回アンケートのフィードバック (8)個別指導・補習
 (9)その他の工夫

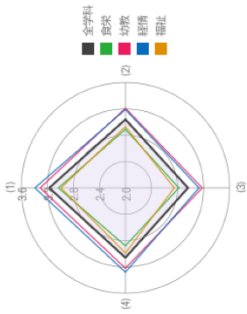
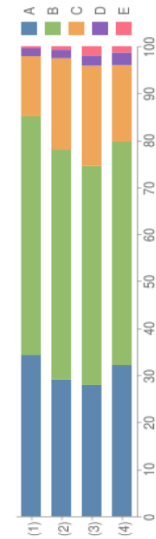
III. 学習意欲を高める授業内容・方法の工夫

問3 この授業の目的や「学修成果」、成績評価の方法・基準、内容についての経歴理解できましたか。

- (1) 「授業の目的」が明確で、理解できた。
- (2) 「学修成果」（授業を通じて獲得できる力）について説明があり、理解できた。
- (3) 「成績評価の方法」と「ルーブリック（評価基準）」の説明があり、理解できた。
- (4) 「授業の内容」は、分かりやすく理解できた。

【選択肢】

- A. 大いに理解できた
 B. いくらか理解できた
 C. どちらともいえない
 D. あまり理解できなかった
 E. まったく理解できなかった



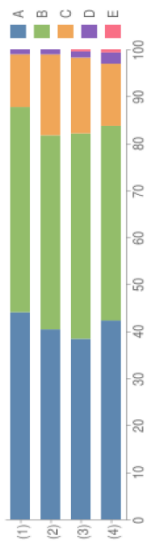
(1) 明確な授業目標
 (2) 「学修成果」の説明と理解
 (3) 「成績評価の方法」・「ルーブリック」の説明
 (4) 分かりやすい授業内容と理解

学科別回答結果

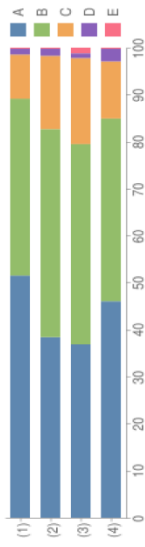
食物栄養学科



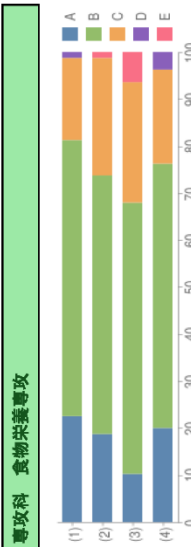
幼児教育学科



経営情報学科



専攻科 食物栄養専攻



福祉学科



III. 学習意欲を高める授業内容・方法の工夫

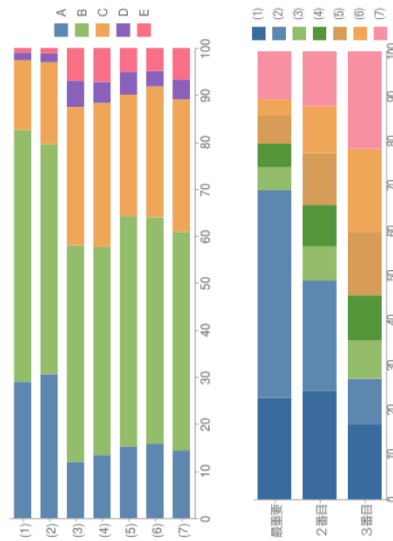
- 問4 この授業の効果・成果について、どのように評価しますか。
- (1) 授業の内容・方法は、自分の興味・関心を喚起するものだった。
 - (2) 授業の内容・方法は、将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立った。
 - (3) 授業の内容・方法は、人に分かりやすい文章を書く力を獲得する上で役立った。
 - (4) 授業の内容・方法は、人に分かりやすく話す・説明する力を獲得する上で役立った。
 - (5) 授業の内容・方法は、ものごとを分析的・論理的に考える力を獲得する上で役立った。
 - (6) 授業の内容・方法は、課題を見つめ、解決方法を考える力を獲得する上で役立った。
 - (7) 授業の内容・方法は、社会に出ていく上で必要な社会性・人間性を高める上で役立った。
 - (8) この授業を評価するにあたって、上記の項目の中で最も重要と思うものはどれですか。また、2番目に、3番目に重要と思うものはどれですか。

【選択肢】

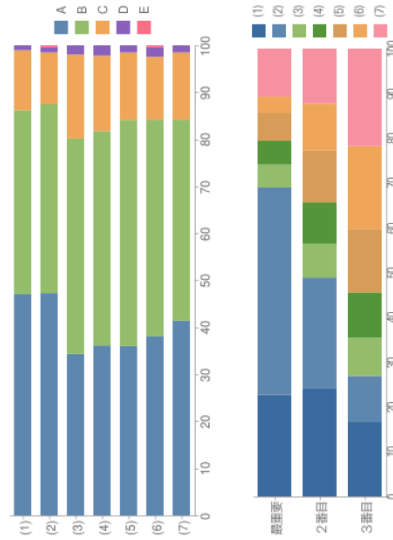
- A. 大変役立った
 B. いくらか役立った
 C. どちらともいえない
 D. あまり役立たなかった
 E. まったく役立たなかった

学科別回答結果

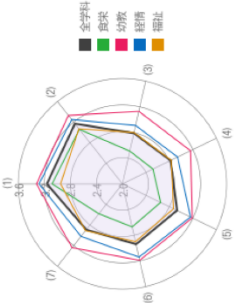
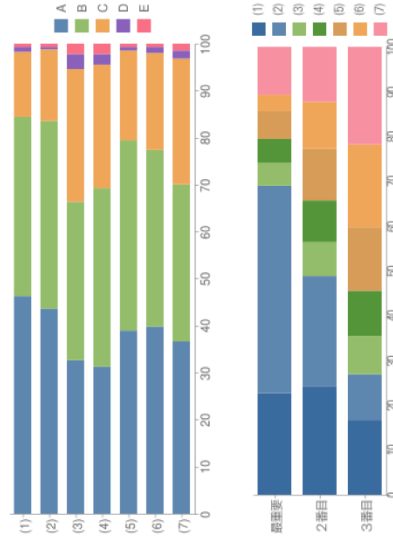
食物栄養学科



幼児教育学科

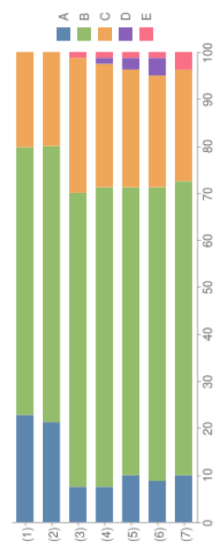


経営情報学科

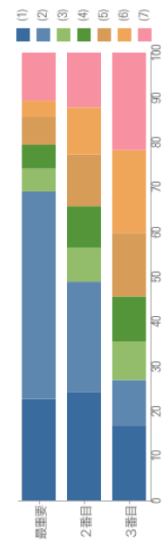
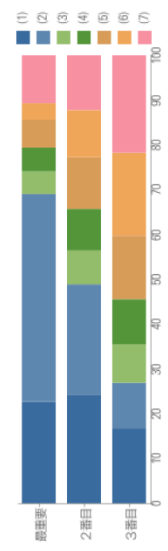
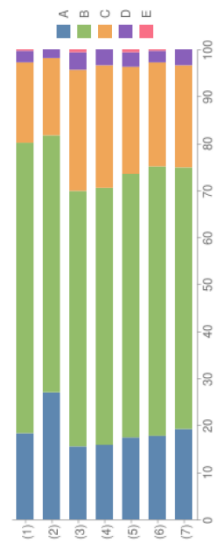


- (1) 興味・関心の喚起
 (2) 知識・技能・技術の取得
 (3) 文事力
 (4) プレゼン能力
 (5) 分析・論理的思考力
 (6) 課題発見・解決力
 (7) 社会性・人間性

専攻科 食物栄養専攻



福祉学科



IV. 総合評価

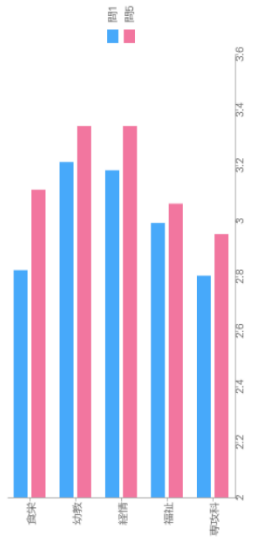
問5 あなたにとって、この授業は、総合的にみて良かったと思いますか。

【選択肢】

- A. 大変良かった
- B. 良かった
- C. どちらともいえない
- D. 良くなかった
- E. まったく良くなかった



総合評価は満足度(問5)と「学修成果」の自己評価(問1)の平均



V. 学修行動 (学習意欲に関する自己評価)

問5 あなた自身は、この授業にどのように取り組めましたか。

(1) この授業の欠席回数は何回ですか。
 【選択肢】 A: 0回, B: 1回, C: 2回, D: 3回, E: 4回以上

(2) 授業1回あたりの、授業外学習 (予習・復習・宿題・宿題・試験対策等の) 時間はどれくらいですか。
 【選択肢】 A: 3時間以上, B: 1.5時間以上3時間未満, C: 1時間以上1.5時間未満, D: 30分以上1時間未満, E: 30分未満

(3) 授業で出された課題や宿題はきちんと行なった。

(4) 授業中に、質問や発言をした。

(5) 授業時間以外に、担当教員に質問したり相談をした。

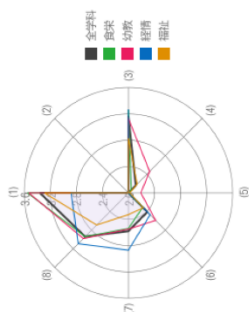
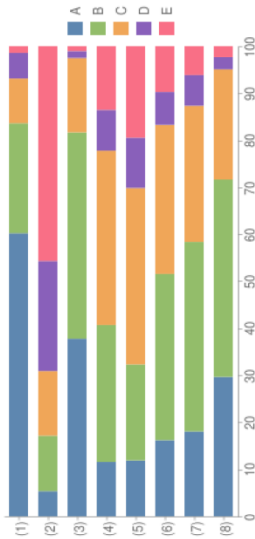
(6) 予習・復習・宿題・宿題・試験対策等、友だちと一緒に学習した。

(7) 授業で分からなかったこと、興味を持ったことは、自主的に調べた。

(8) 良い成績をとるために努力した。

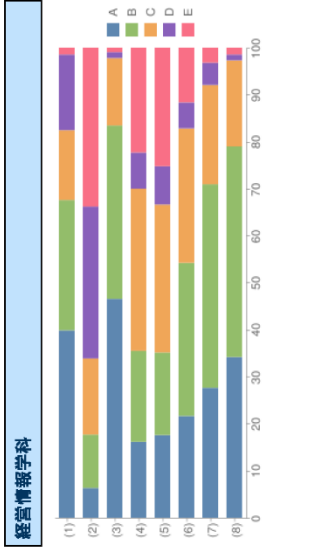
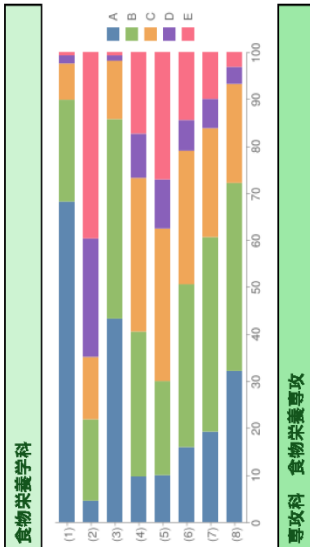
【選択肢】

- A. 積極的に行なった
- B. 行った
- C. どちらともいえない
- D. あまり行わなかった
- E. まったく行わなかった

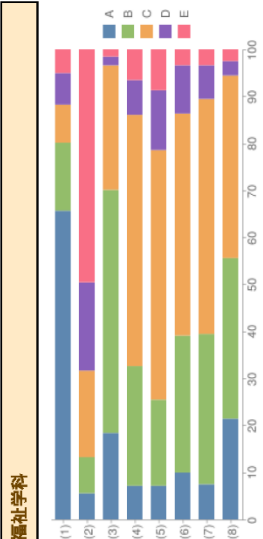
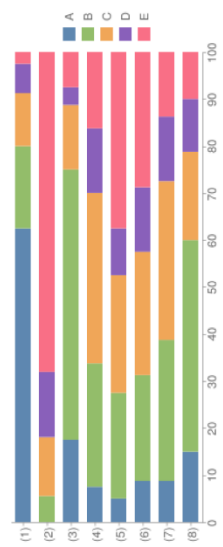


- (1)欠席回数
- (2)授業外学習時間
- (3)宿題・課題の実施
- (4)質問・発言
- (5)教員への質問・相談
- (6)友達との協働学習
- (7)自主的学習
- (8)自己努力

学科別回答結果



専攻科 食物栄養専攻



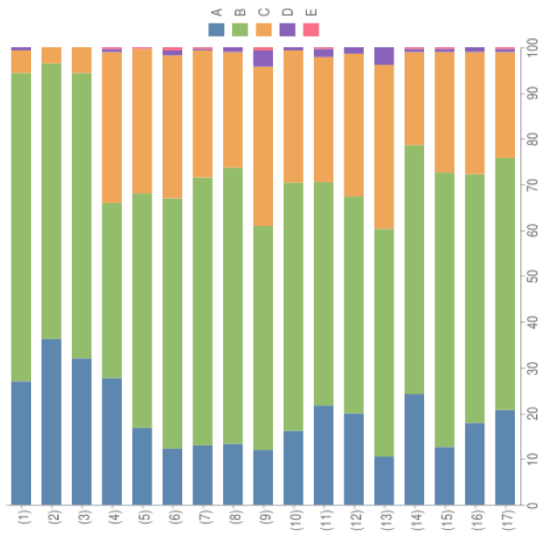
【参考資料 7】「平成 29 年度 学修行動・生活調査（2 年前期）」

2017 年度 2 年前期 「学修行動・生活調査」結果

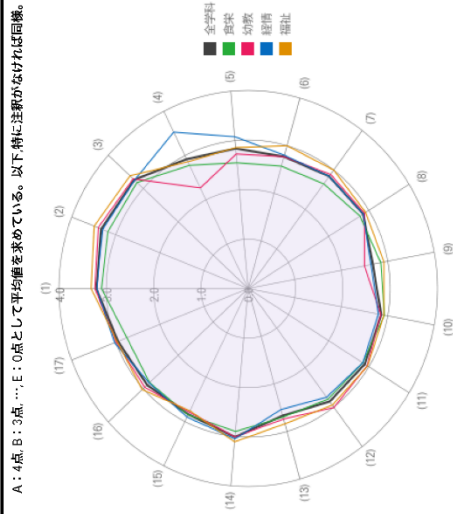
集計結果

合計	回答者数	299人	入学者数	344人	回答率	86.9%
食物栄養学科	60人	83人	83人	72.3%		
幼児教育学科	83人	88人	94.3%			
経営情報学科	106人	115人	92.2%			
福祉学科	37人	39人	94.9%			
食物栄養専攻	13人	15人	86.7%			

全学平均（専攻科を除く）



4学科平均値比較（専攻科を除く）



A: 4点 B: 3点 ... E: 0点として平均値を求めている。以下特に注釈がなければ同様。

1. 「学修成果」に関する自己評価

問1 次の各事項をどのように自己評価していますか。 ※

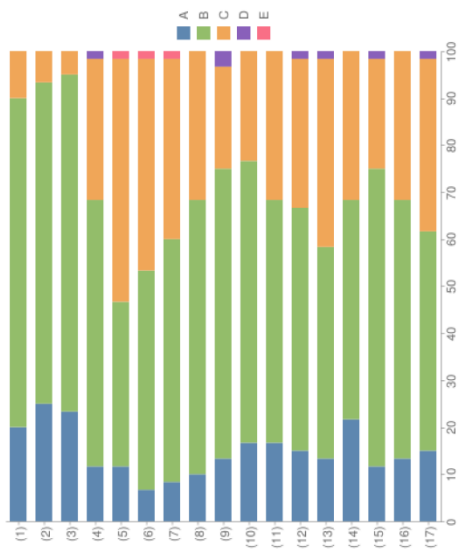
- (1) 幅広い教養・一般常識
- (2) 専門分野の基礎的な知識
- (3) 専門分野での実践に必要な技術・技能
- (4) ハンコンや情報機器を操作する力
- (5) 自分の考えを分かりやすく伝える力・プレゼンテーション力
- (6) 自分の知識や考えを分かりやすく文書にまとめられる力
- (7) 問題点・課題を発見して、論理的に問題・課題を解決できる力
- (8) 自分の適性や能力を把握する力
- (9) 自学自習する力・習慣
- (10) 自分で目標を設定し、計画的に行動する力
- (11) ねばり強さ・持続力・集中力
- (12) チャレンジ精神
- (13) 自己効力感や自信・自己肯定感を持つ
- (14) 多様な価値観・考えを持つ人々を理解し尊重する
- (15) 自らの社会的責任を自覚し高い倫理観を持つ
- (16) 地域や社会に貢献する意欲
- (17) 多様な人々と協働して共通の目標の実現に貢献する力

【選択肢】

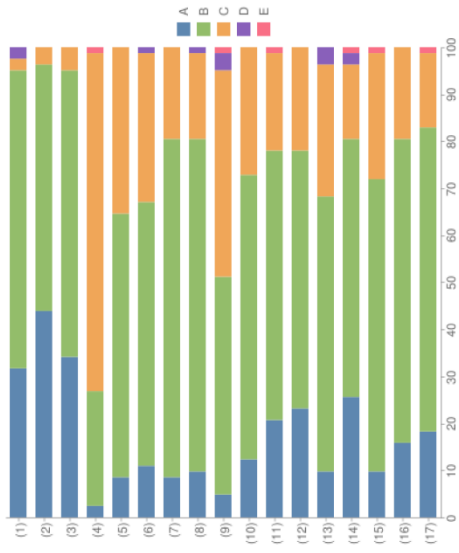
- A. 特に感えている（上位10%程度）
- B. 人並み以上
- C. 平均レベル
- D. 人並み以下
- E. かなり劣っている

学科別調査結果

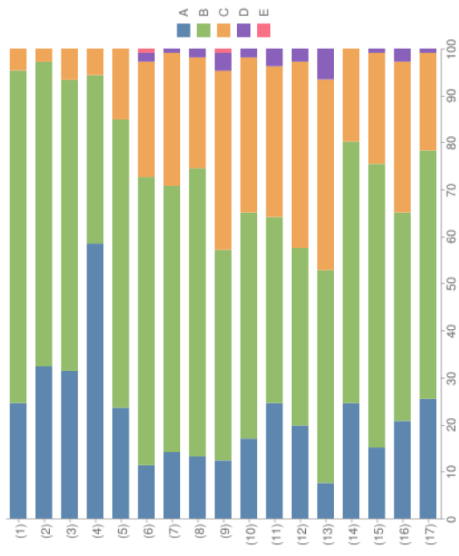
食物栄養学科



幼児教育学科



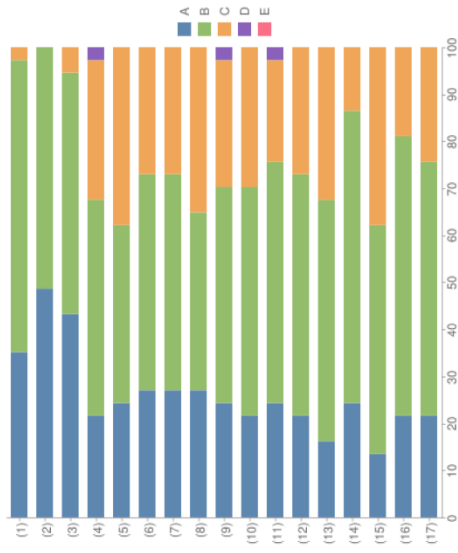
経営情報学科



専攻科 食物栄養専攻



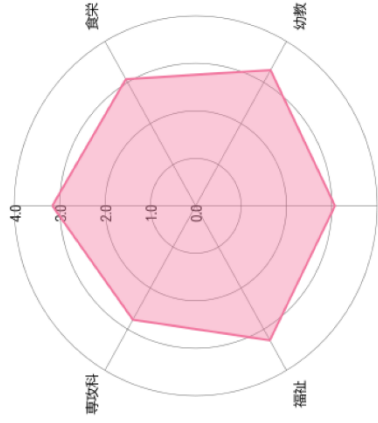
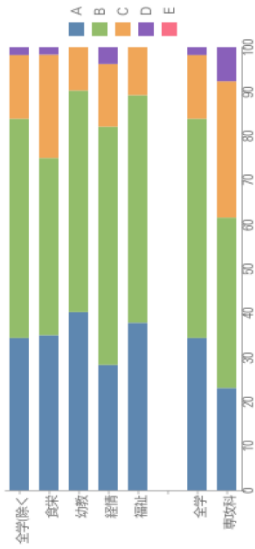
福祉学科



問2. 本学に在学して、どの程度満足していますか。

【選択肢】

- A. とても満足
- B. 満足
- C. どちらともいえない
- D. 不満
- E. とても不満

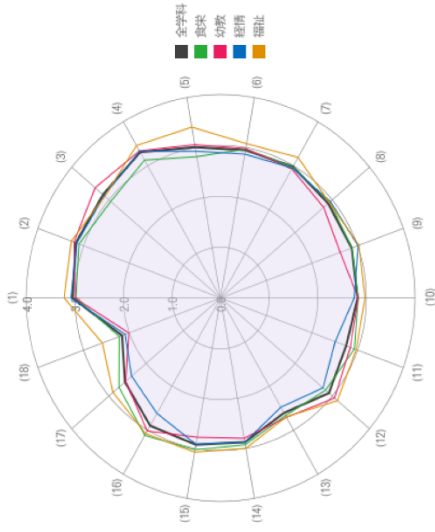
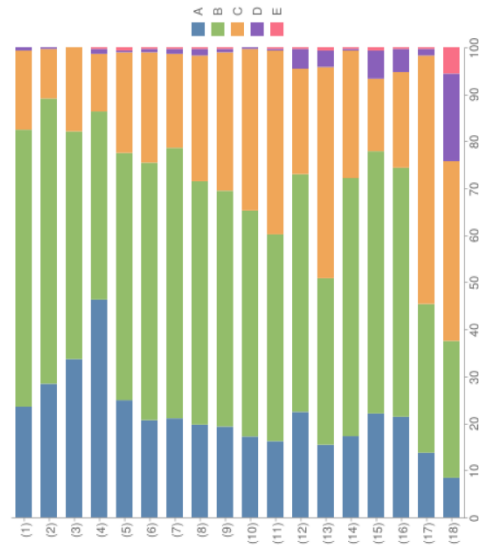


問3. 本学での次の各事項に関して、どの程度満足していますか。

- (1) 教養科目の授業
- (2) 専門科目の授業
- (3) 資格・免許の取得
- (4) 友人や仲間との出会い
- (5) 教職員との出会い
- (6) 担任の学生支援全般
- (7) 学科教職員からの学修支援 (履修や成績、単位取得に関する説明・アドバイスを含む)
- (8) 学務課の支援サービス
- (9) 就職支援センターの支援サービス
- (10) 保健室・学生相談室の支援サービス
- (11) 図書館の支援サービス
- (12) 学校行事 (学外研修・本学祭・球技大会など)
- (13) 課外活動 (クラブ・サークル活動、学生会活動など)
- (14) ボランティア活動への支援サービス
- (15) 学生食堂・売店のサービス
- (16) 大学の施設・設備全般
- (17) 奨学金など学費援助の制度
- (18) 通学の便 (バスや駐車場の利便性)

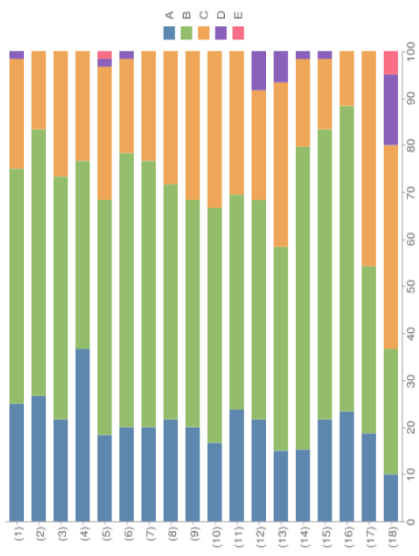
【選択肢】

- A. とても満足
- B. 満足
- C. どちらともいえない
- D. 不満
- E. とても不満

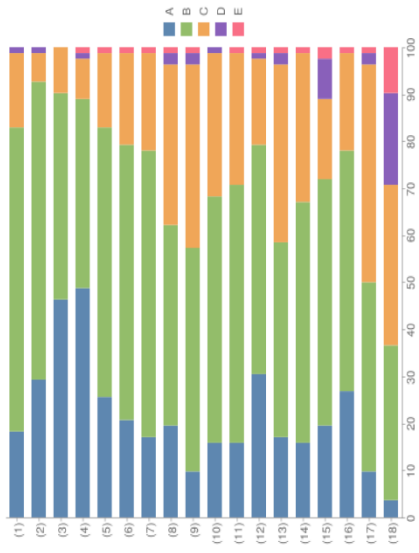


学科別調査結果

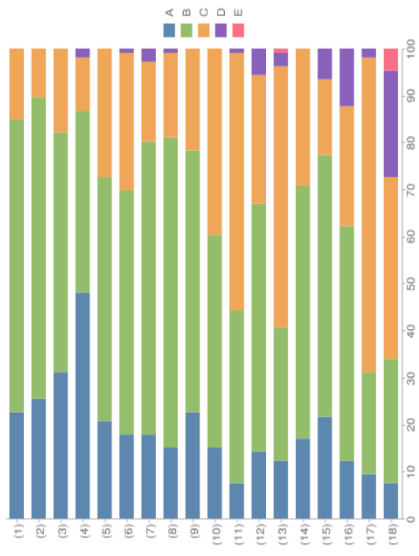
食物栄養学科



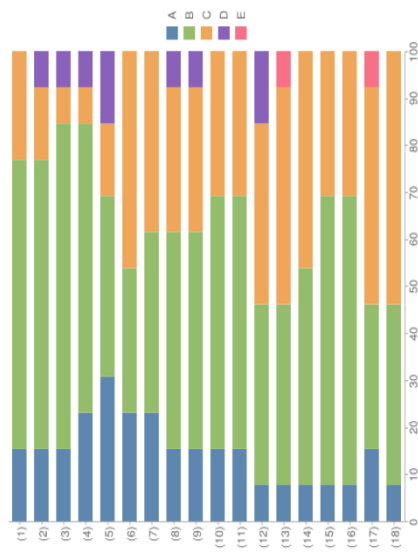
幼児教育学科



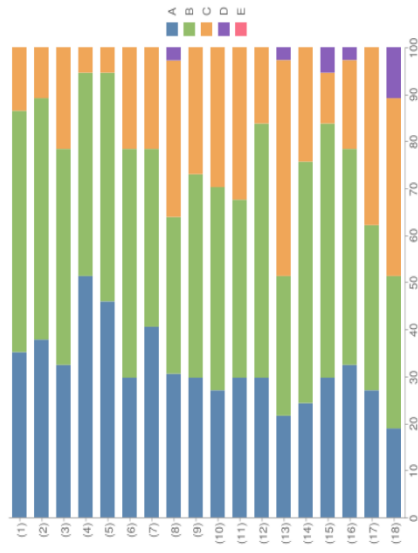
経営情報学科



専攻科 食物栄養専攻



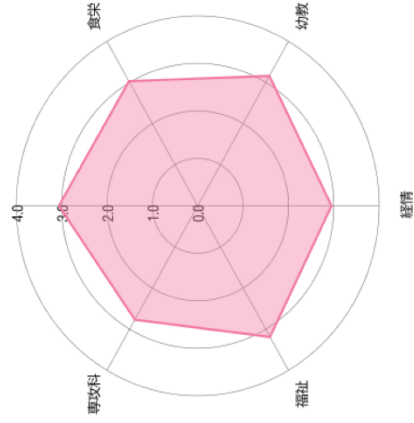
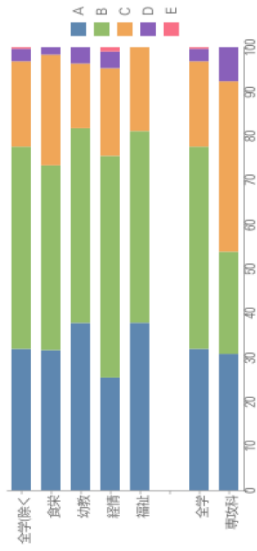
福祉学科



問5 学生生活は充実していますか。

【選択肢】

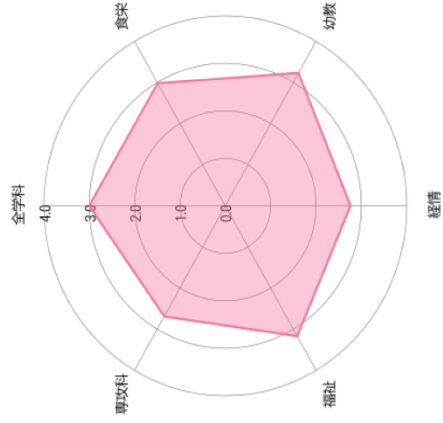
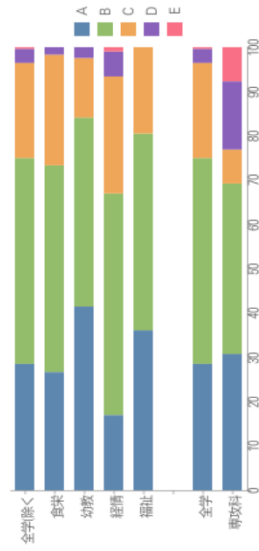
- A. 大いに充実している
- B. ある程度充実している
- C. 普通である
- D. あまり充実していない
- E. まったく充実していない



問6 身近に受験を控えた生徒がいた場合、本学への受験を勧められますか。

【選択肢】

- A. 大いに勧められる
- B. まあ勧められる
- C. どちらともいえない
- D. あまり勧められない
- E. まったく勧められない



III. 学修行動・生活行動

問7 今年度、本学へどの程度来りましたか。 また、授業へはどの程度出席しましたか。

- (1) 本学へは、「前期」平均して過当たり何日程度来りましたか。
- (2) 本学へは、「後期」平均して過当たり何日程度来りましたか。
- (3) 「前期」授業へは、平均して何回程度欠席しましたか。
- (4) 「後期」授業へは、平均して何回程度欠席しましたか。

【選択肢】(1)-(2)

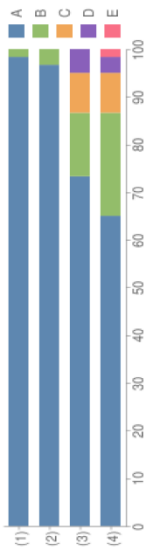
- A. 5日
- B. 4日
- C. 3日
- D. 2日
- E. 1日

【選択肢】(3)-(4)

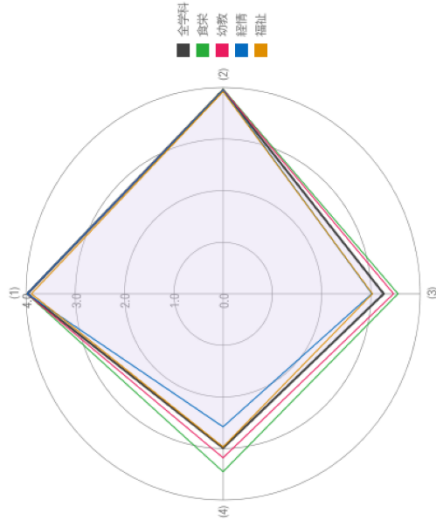
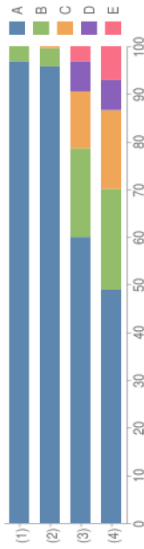
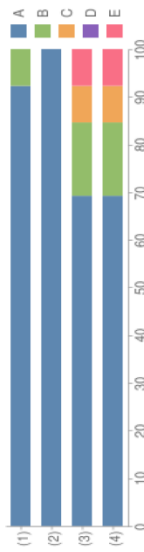
- A. ほぼ0回
- B. 1回程度
- C. 2回程度
- D. 3回程度
- E. 4~5回程度

学科別回答結果

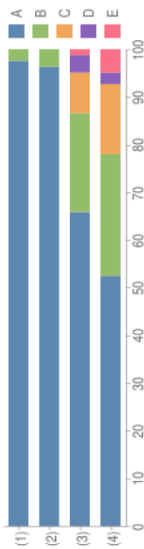
食物栄養学科



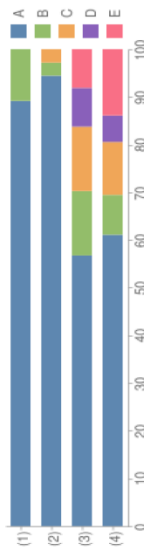
専攻科 食物栄養専攻



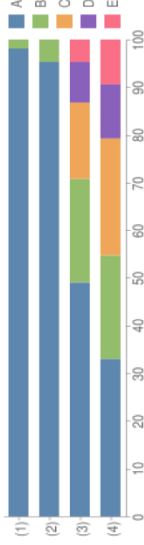
幼児教育学科



福祉学科



経営情報学科

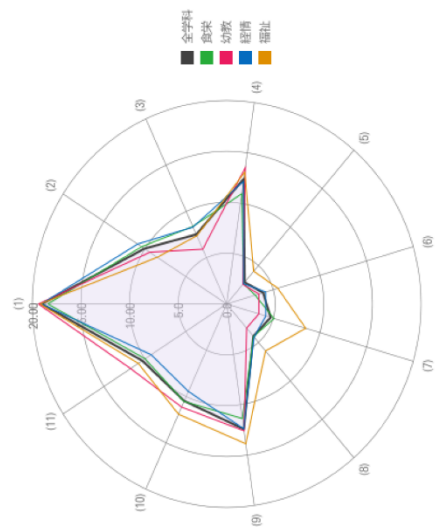
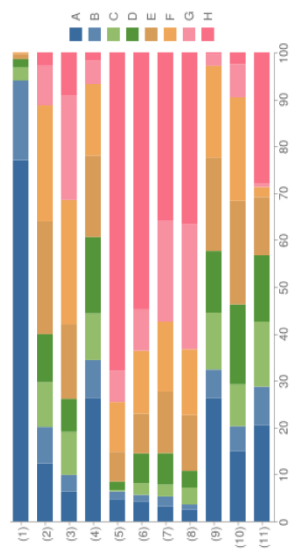


問8 次の各事項について1週間(月～日曜日)を振り返ってください。
 ※過去1年間の平均的な授業のある1週間(月～日曜日)を振り返ってください。

(1) 授業への出席
 (2) 授業に關係する勉強(予習・復習・宿題)
 (3) 授業以外の自主的な学習
 (4) 友だちつきあい
 (5) グラブ・サークル活動
 (6) 趣味などの面白い事(学外クラブ活動を含む)
 (7) 社会活動(ボランティア・NPO活動等を含む)
 (8) 読書(マンガ、雑誌を除く)
 (9) インターネットやSNSなど
 (10) テレビやDVDなどの視聴
 (11) アルバイト

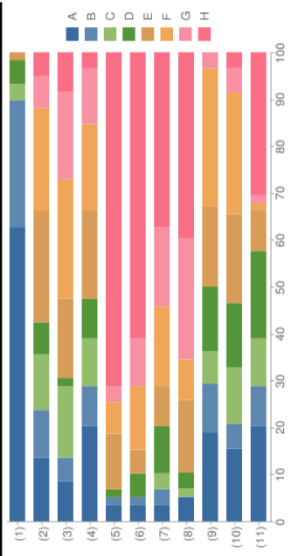
【選択肢】

- A. 20時間以上
- B. 15時間以上20時間未満
- C. 10時間以上15時間未満
- D. 6時間以上10時間未満
- E. 3時間以上6時間未満
- F. 1時間以上3時間未満
- G. 1時間未満
- H. 0時間

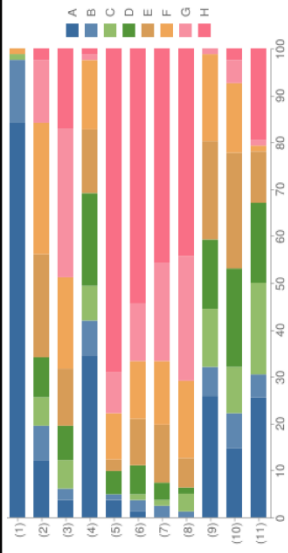


学科別調査結果

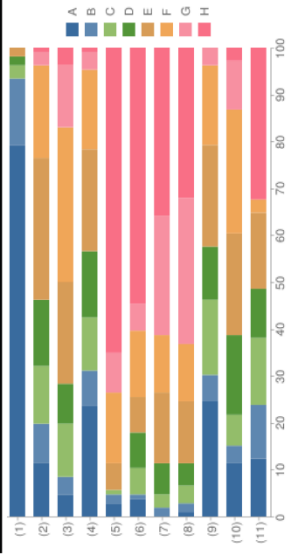
食物栄養学科



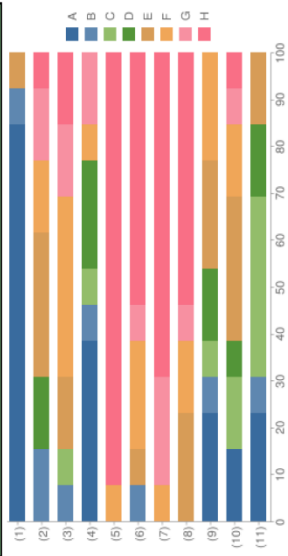
幼児教育学科



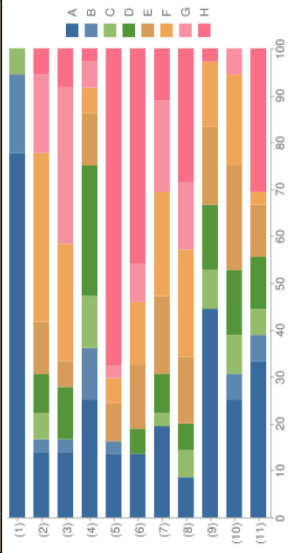
経営情報学科



専攻科 食物栄養専攻



福祉学科



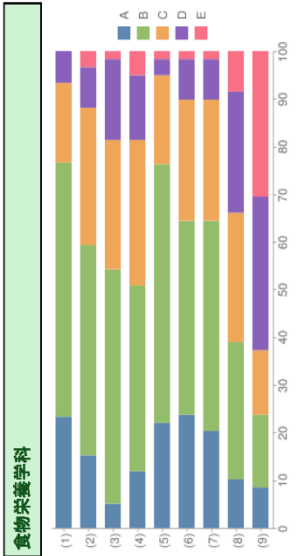
問10 友人関係について、次の各事項はどの程度当てはまりますか。

- (1) 違う意見を持った人とも仲良くできる
- (2) 言いづらいことでも、友達のことを助けてあげることができる
- (3) 仲間外れにされないように、話を合わせる
- (4) 友だちと話が合わない時、不安に感じる
- (5) 友だちを傷つけないよう、気を使っている
- (6) 一人で行動していても、気にならない
- (7) 世代の違う人と話をするのは、苦にならない
- (8) 知らない人はかなりの集まりにも参加できる
- (9) 実際に会う友人よりも、SNSの友人の方が本音を話しやすい

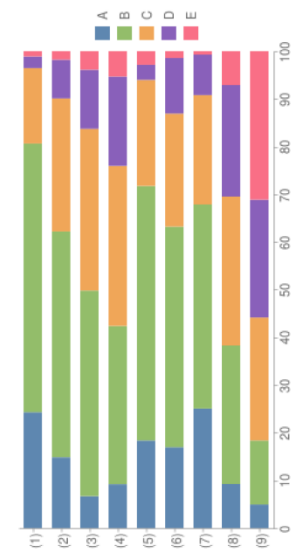
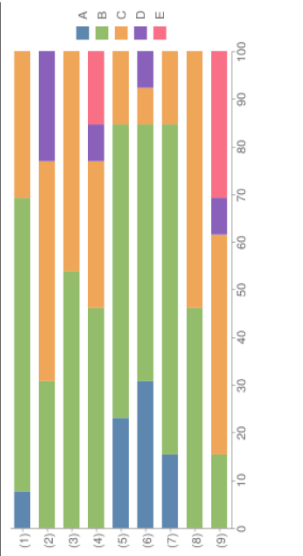
【選択肢】

A. とても当てはまる
 B. まあ当てはまる
 C. どちらともいえない
 D. あまり当てはまらない
 E. まったく当てはまらない

学科別調査結果



専攻科 食物栄養専攻



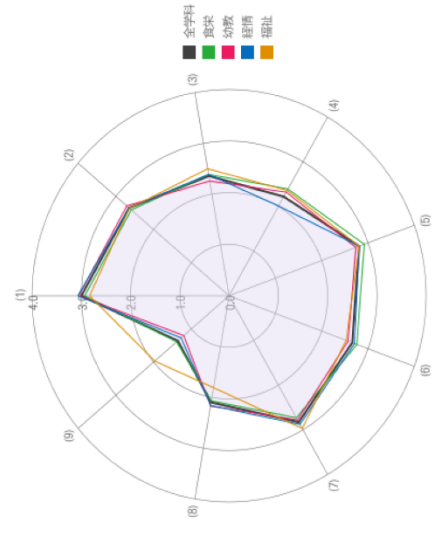
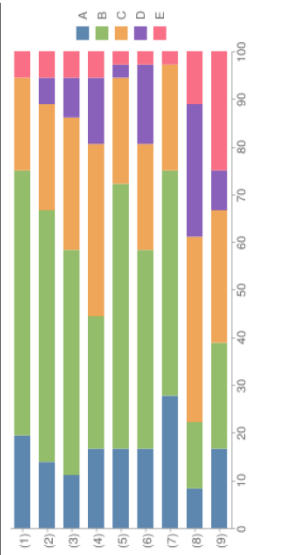
【選択肢】

A. とても当てはまる
 B. まあ当てはまる
 C. どちらともいえない
 D. あまり当てはまらない
 E. まったく当てはまらない

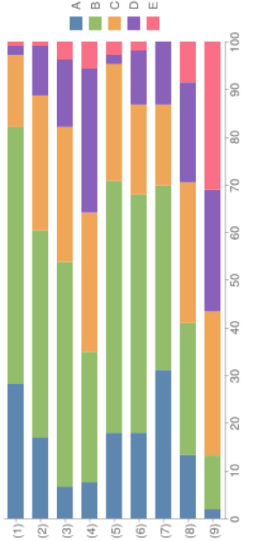
学科別調査結果



専攻科 福祉学科



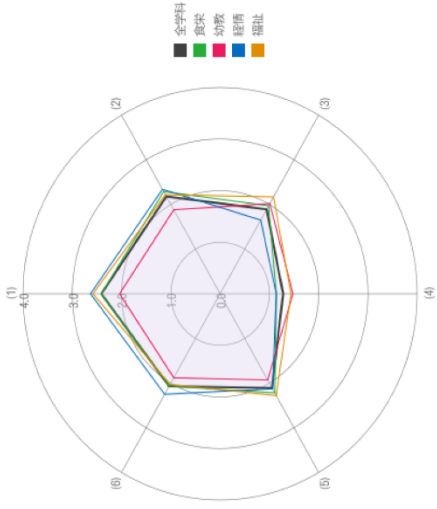
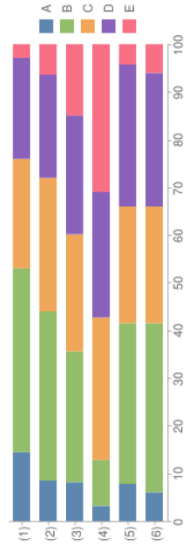
学科別調査結果



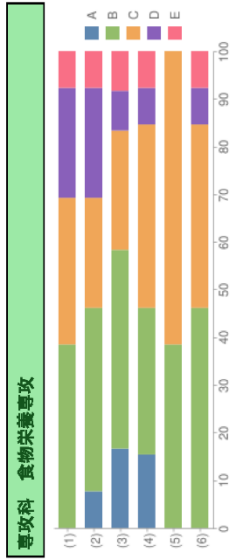
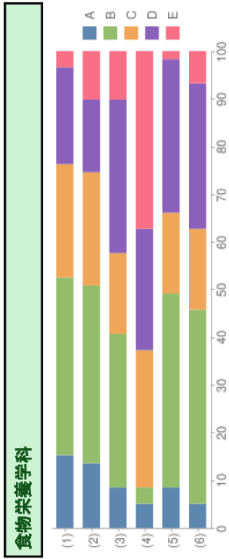
問11 この1年間に次の各事項を感じたり思ったりしたことが、どの程度ありましたか。

(1) やりたいことが見つからなかった
 (2) 生活に満足がわからなかった
 (3) 友だちのことで悩んだ
 (4) 先生のことでも悩んだ
 (5) 授業の内容についていけないかった
 (6) 授業に興味・関心がわからなかった

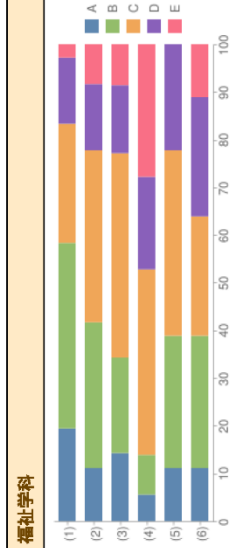
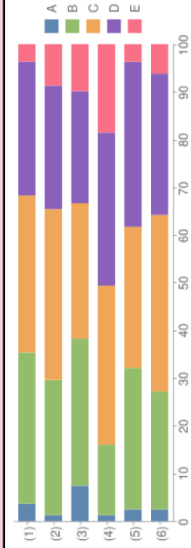
- 【選択肢】
- A. よくあった
 B. 時々あった
 C. どちらともいえない
 D. あまりなかった
 E. まったくなかった



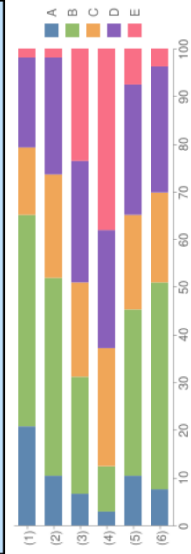
学科別回答結果



幼児教育学科 (Early Childhood Education)



経営情報学科 (Business Information)



【参考資料 8】「平成 29 年度 第三者アンケート調査結果の概要」

就職先アンケート（要旨）

I. 調査の概要

1. 調査の対象

過去 9 年間における富山短期大学卒業生の就職先（982 先）

2. 調査時期

平成 29 年 12 月

3. 調査方法

郵送法による配布・回収

4. 回答の状況

回答先数 478 先（回収率 48.7%）

5. 回答先の概要

業 種		
建設	10	2.1 %
製造	70	14.6 %
卸売・小売	63	13.2 %
宿泊・飲食・給食	19	4.0 %
教育・学習支援	19	4.0 %
医療、福祉	140	29.3 %
保育所・保育園	85	17.8 %
情報通信	12	2.5 %
その他サービス業	33	6.9 %
その他(不明を含む)	27	5.6 %
合 計	478	100.0 %

従業員数(正規社員人数)		
5人以下	12	2.5 %
6～20人	107	22.4 %
21～50人	122	25.5 %
51～100人	97	20.3 %
101～300人	86	18.0 %
301人以上	47	9.8 %
不詳(無回答)	7	1.0 %
合 計	478	100.0 %

短期大学卒業生人数		
0人・不詳	67	14.0 %
1人	60	12.6 %
2～4人	98	20.5 %
5～9人	92	19.2 %
10～19人	84	17.6 %
20～49人	61	12.8 %
50人以上	16	3.3 %
合 計	478	100.0 %

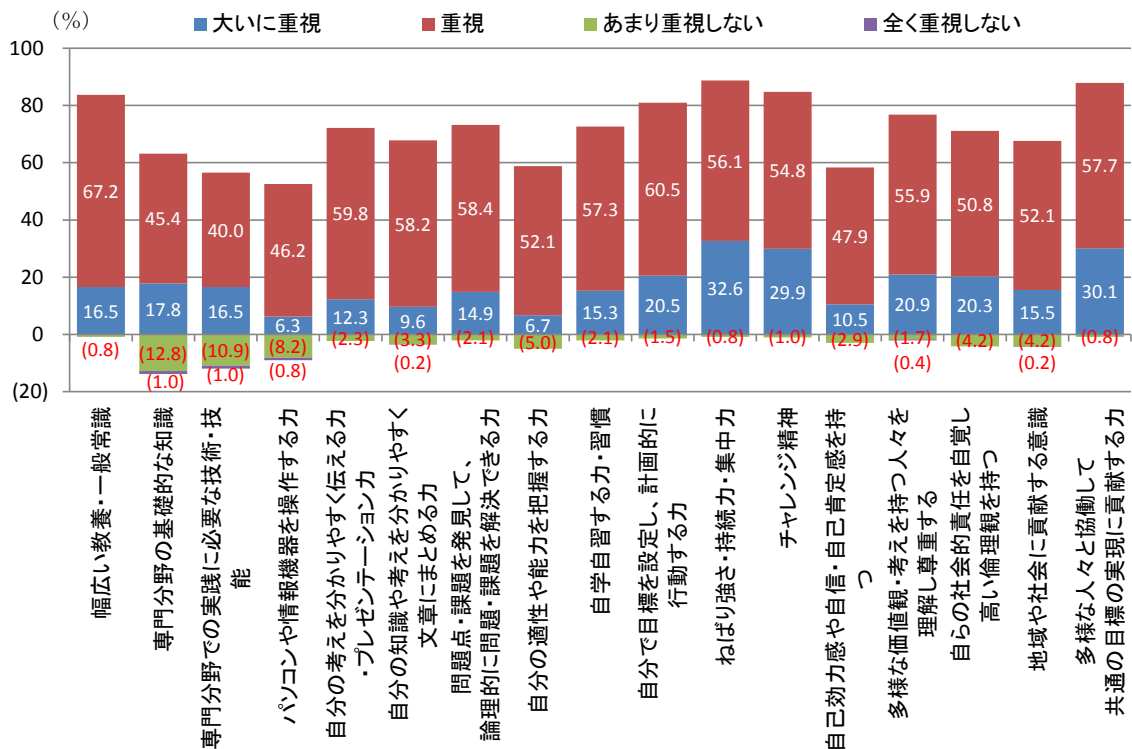
Ⅱ. 調査結果の要旨

以下、実施したアンケート調査のうち、富山短期大学における学修・教育内容、および富山短期大学卒業生に対する評価に関する部分について整理を行った。

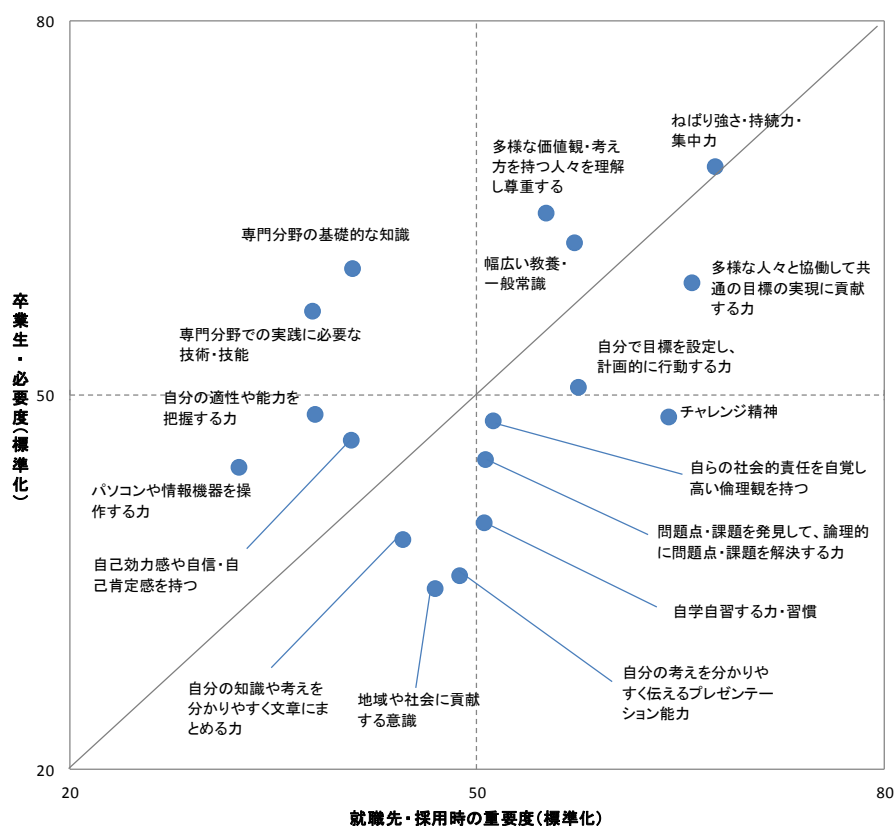
1. 短期大学卒業生の新規採用の際に重視すること

- ・質問した 17 の項目に対して半数以上が『重視する（「大いに重視する」「重視する」）』と回答し、なかでも〔ねばり強さ・持続力・集中力〕〔多様な人々と協働して共通の目標の実現に貢献する力〕〔チャレンジ精神〕〔幅広い教養・一般常識〕〔自分で目標を設定し、計画的に行動する力〕は『重視』するとした回答が 8 割以上と特に多くなっている。（図 1）
- ・全般的に、自主性・積極性と社会生活を営むうえで必要な知識や資質が重視され、これらと比較して〔パソコンや情報機器を操作する力〕〔自己効力感や自信・自己肯定感を持つ〕〔自分の適性や能力を把握する力〕〔専門分野での実践に必要な技術・技能〕〔専門分野の基礎的な知識〕に対する重視の度合いは低くなっており、特定分野における知識や技能よりも実社会におけるさまざまな問題・課題に対して主体的に、柔軟に、かつ、ねばり強く対応する姿勢や態度を重視する傾向がみられる。
- ・卒業生における同一内容の質問と比較した場合、上記の傾向はより顕著なものとなっている。（図 2）

（図 1）短期大学卒業生の新規採用の際に重視すること



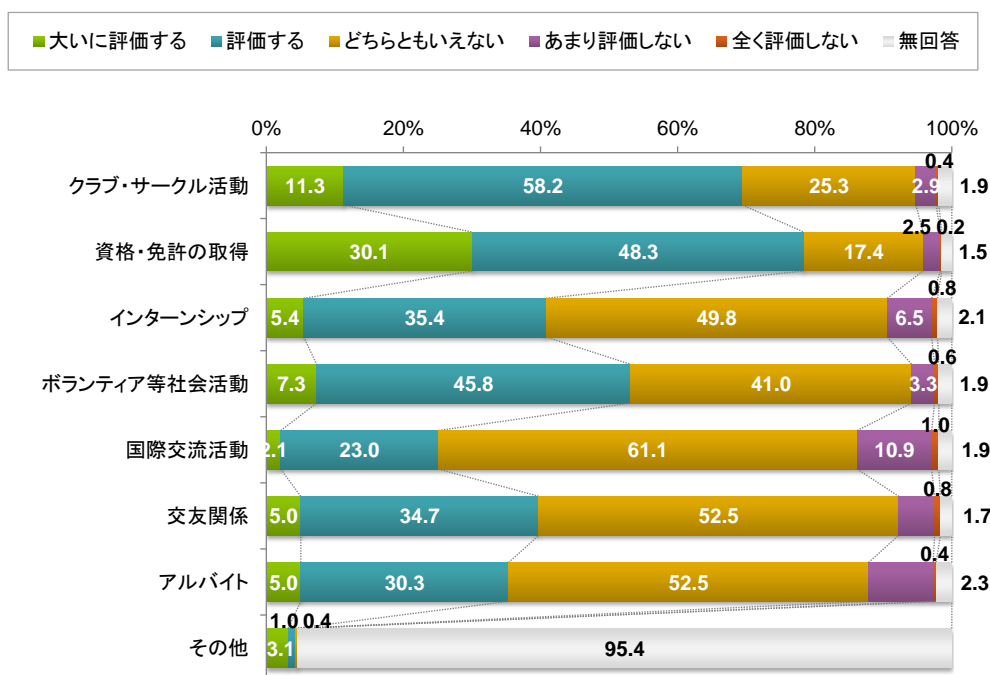
(図2) 卒業生からみた重要度との比較



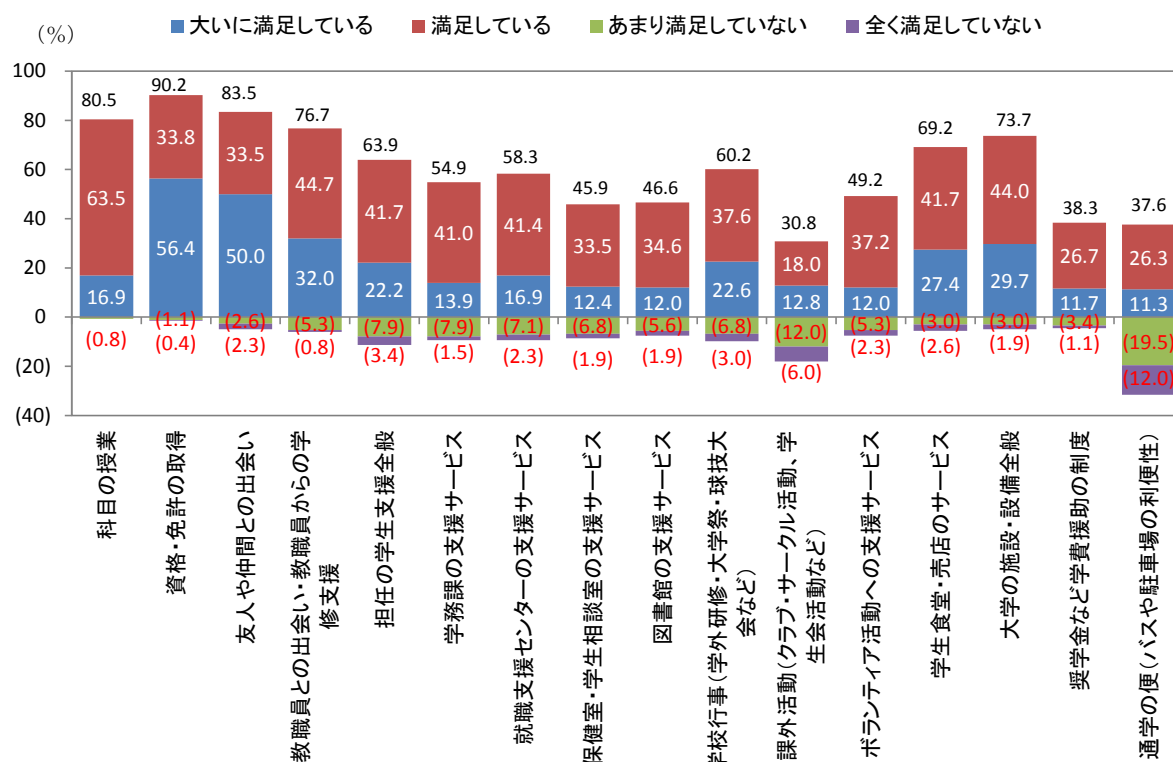
2. 短期大学卒業生の新規採用の際に学業成績以外に重視すること

- ・回答した企業・事業所の7割以上が〔資格・免許の取得〕を、6割以上が〔クラブ・サークル活動〕を『評価する(「大いに評価する」「評価する」)』と回答し、〔ボランティア等社会活動〕も半数以上が『評価する』と回答している。(図3)
- ・このうち〔クラブ・サークル活動〕は業種を問わず『評価する』とする回答が多く、活動を通じて協調性や持続力、目標に向かって取り組む力を身に付けてきたかを判断しようとするものと考えられるが、卒業生アンケートでは課外活動(クラブ・サークル活動、学生会活動など)に対する『満足(「大いに満足している」「満足している」)』の回答は最も低く、課題の一つとして指摘される。(図4)
- ・富山短期大学卒業生の採用が多い医療・福祉、保育所・保育園、教育・学習支援、宿泊・飲食・給食の業種では、〔資格・免許の取得〕〔クラブ・サークル活動〕に加えて、〔インターンシップ〕に対する評価が高くなる傾向がみられ、それ以外の業種では〔アルバイト〕に対する評価が比較的高くなっており、何らかの形で就業体験をすることが、学業外の評価対象として一定のウェイトを占めている。
- ・また、医療・福祉、保育所・保育園、教育・学習支援の業種では〔ボランティア活動〕に対する評価の度合いも高く、対人能力や業務への適応力をみるための一つの要素として位置づけられていると解されるが、卒業生アンケートではボランティア活動への支援サービスに対する『満足』の回答もやや低く、課外活動と同様に課題の一つとして指摘される。(図4)

(図3) 短期大学卒業生の新規採用の際に学業成績以外に重視すること



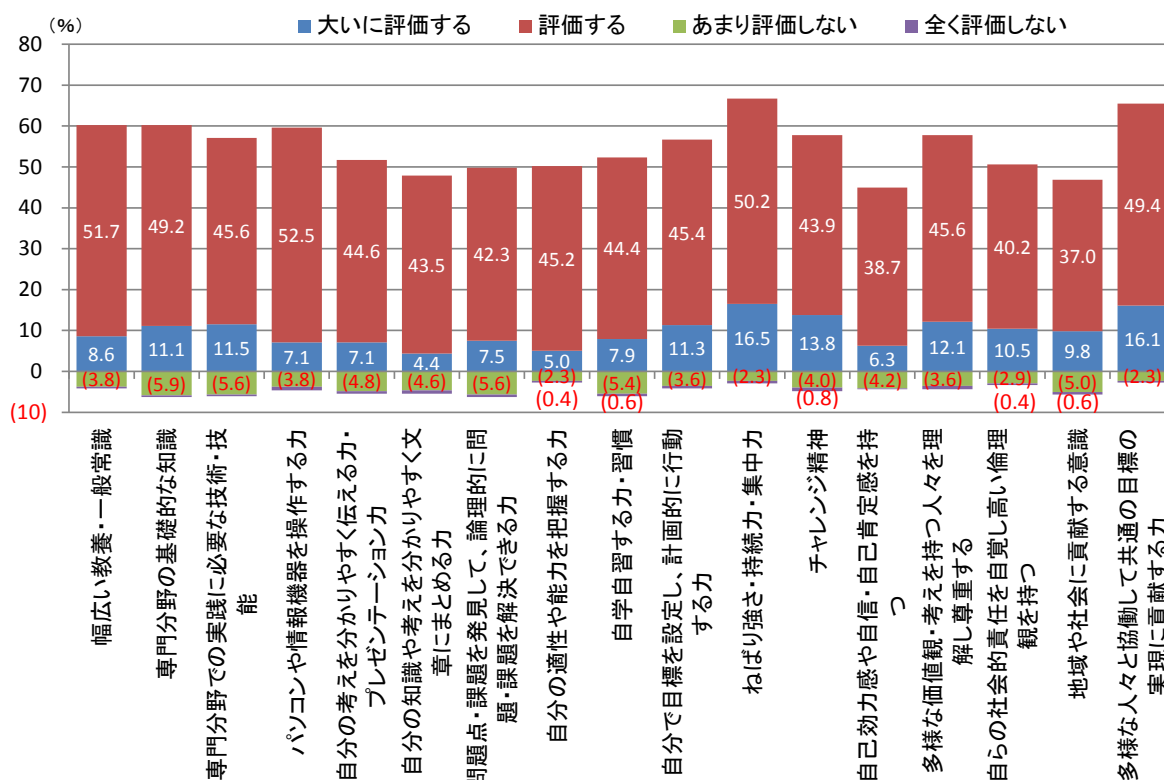
(図4) 卒業生アンケートにおける満足度



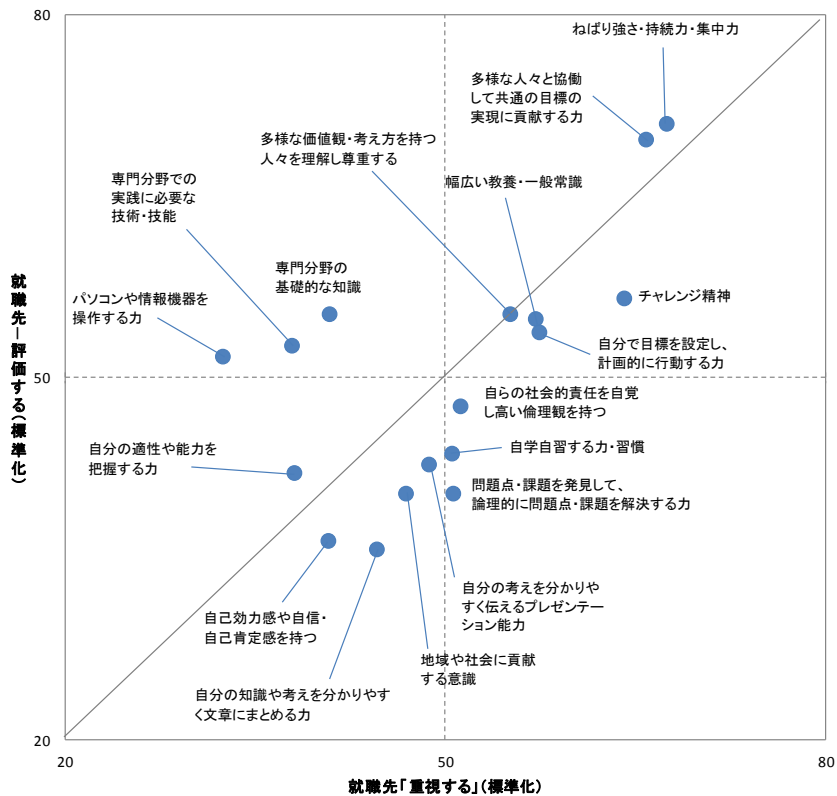
3. これまでに採用した富山短期大学卒業生に対する評価

- ・質問した 17 項目のうち、多くの項目で半数以上が『評価する（「大いに評価する」「評価する」）』と回答しており、〔ねばり強さ・持続力・集中力〕〔多様な人々と協働して共通の目標の実現に貢献する力〕〔幅広い教養・一般常識〕〔専門分野の基礎知識〕では 6 割以上が『評価する』としている。（図 5）
- ・1. の「短期大学卒業生の新規採用の際に重視すること」の回答結果と比較すると、〔専門分野の基礎知識〕〔専門分野での実践に必要な技術・技能〕〔パソコンや情報機器を操作する力〕〔自分の適性や能力を把握する力〕〔自己効力感や自信・自己肯定感を持つ〕は他の項目における重視－評価の傾向と比較して評価の度合いがやや高く、〔自分の考えを分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力〕〔問題点・課題を発見して、論理的に問題点・課題を解決する力〕〔自学自習する力・習慣〕の評価の度合いは重要度に比べてやや低くなっており、全般的に「知識・技能」に対する評価が高い一方で「知識・技能を発展させ、これを実社会で生かす能力」に対する評価が相対的に低い傾向にある。（図 6）
- ・他方、卒業生アンケートにおける同一項目に対する修得度の回答結果と比較すると、ねばり強さ・持続力・集中力、協調性、チャレンジ精神といった姿勢・態度については卒業生が考えている以上に評価されている。（図 7）
- ・富山短期大学卒業生は全体として自社・施設・機関の期待に答えているかという問いに対しては、回答企業・事業所の 75%が『期待に答えている（「応えている」「やや応えている」）』としている。（図 8）

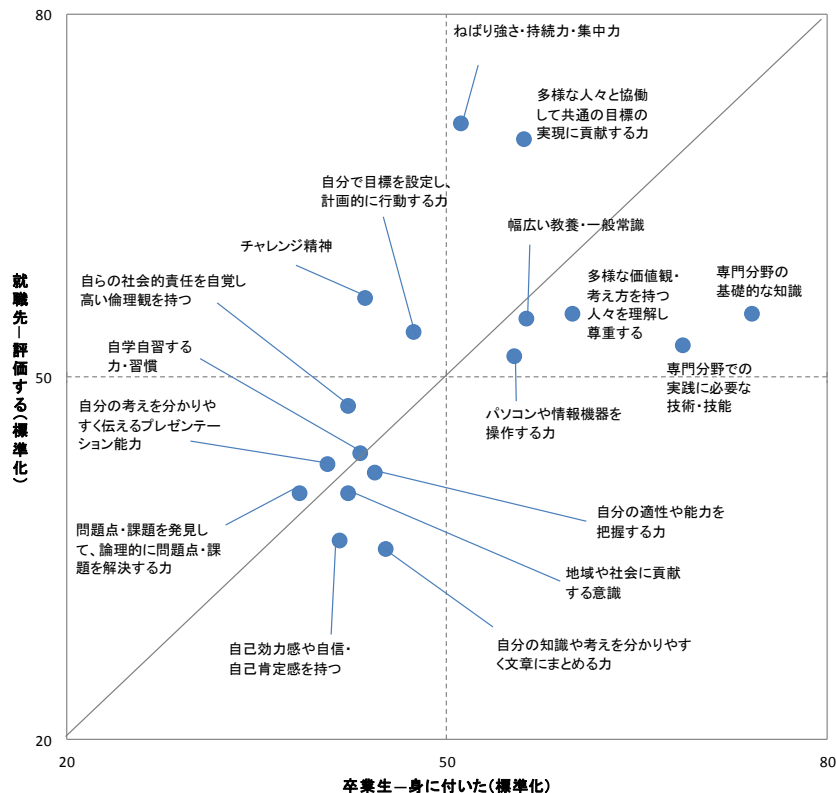
(図 5) これまでに採用した富山短期大学卒業生に対する評価



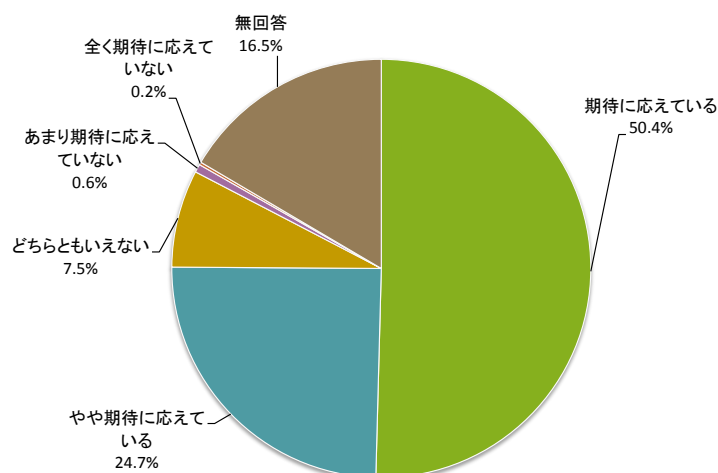
(図6) 採用の際の重視度—富山短大卒業生に対する評価の度合い



(図7) 就職先の評価の度合い—卒業生の修得の度合い



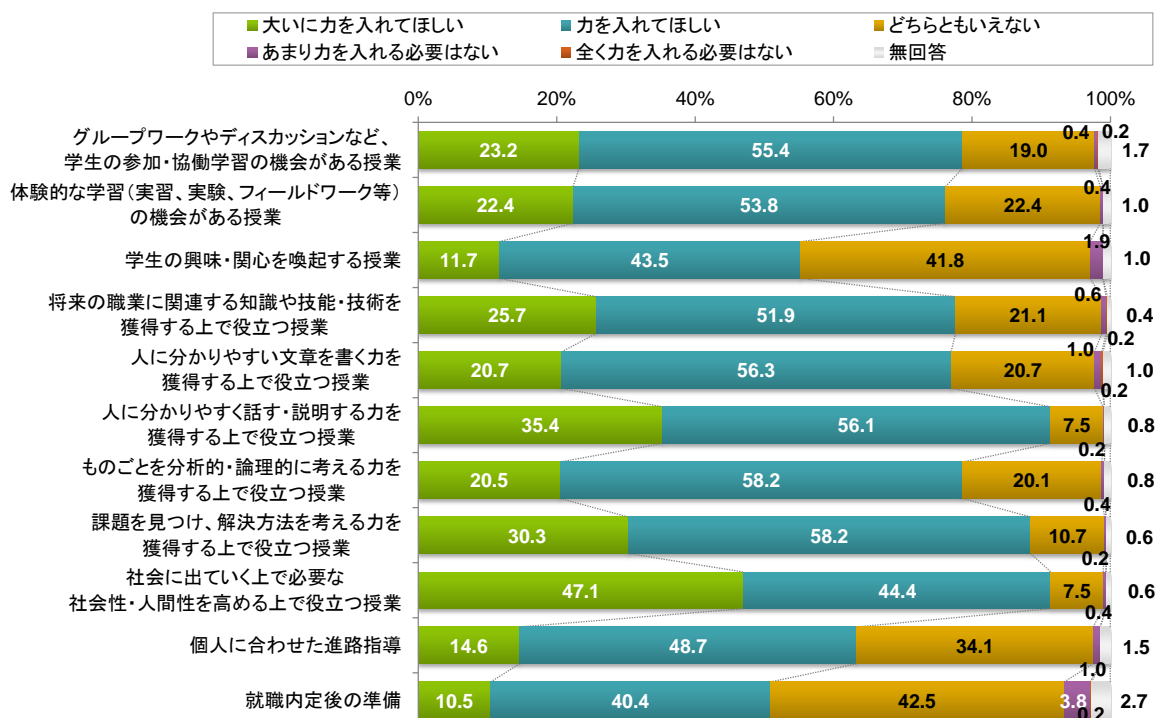
(図8) 富山短期大学卒業生は全体として自社・施設・機関の期待に応えているか



4. 富山短期大学の教育に関して、今後力を入れてほしい事項

- ・質問を行った 17 項目の全てにおいて半数以上が『力を入れてほしい (「大いに力を入れてほしい」「力を入れてほしい)』と回答した。(図9)
- ・特に〔社会に出ていく上で必要な社会性・人間性を高める上で役立つ授業〕〔人に分かりやすく話す・説明する力を獲得する上で役立つ授業〕については9割以上が『力を入れてほしい』と回答しており、社会人として必要とされる基本的な姿勢・態度、コミュニケーション能力、課題に対して主体的に取り組み、解決する力を身につけることができるような授業や教育が特に求められている。

(図9) 富山短期大学の教育に関して、今後力を入れてほしい事項



卒業生アンケート（要旨）

I. 調査の概要

1. 調査の対象

過去5年間における富山短期大学卒業生（1,719人）

2. 調査時期

平成29年12月

3. 調査方法

郵送法による配布・回収

4. 回答の状況

回答者数266人（回収率15.5%）

5. 回答者の概要

性別			卒業年度		
男性	19人	7.1%	平成28年度	87人	32.7%
女性	243人	91.4%	平成27年度	38人	14.3%
無回答	4人	1.5%	平成26年度	53人	19.9%
			平成25年度	39人	14.7%
			平成24年度	45人	16.9%
			無回答	4人	1.5%
合計	266人	100.0%	合計	266人	100.0%

卒業した学科・専攻科			該当年度 卒業生		回答者比率
食物栄養学科	56人	21.1%	440人	25.1%	12.7%
幼児教育学科	82人	30.8%	457人	26.1%	17.9%
経営情報学科	72人	27.1%	565人	32.2%	12.7%
福祉学科	42人	15.8%	210人	12.0%	20.0%
専攻科食物栄養専攻	10人	3.8%	81人	4.6%	12.3%
無回答	4人	1.5%			
合計	266人	100.0%	1,753人	100.0%	15.2%

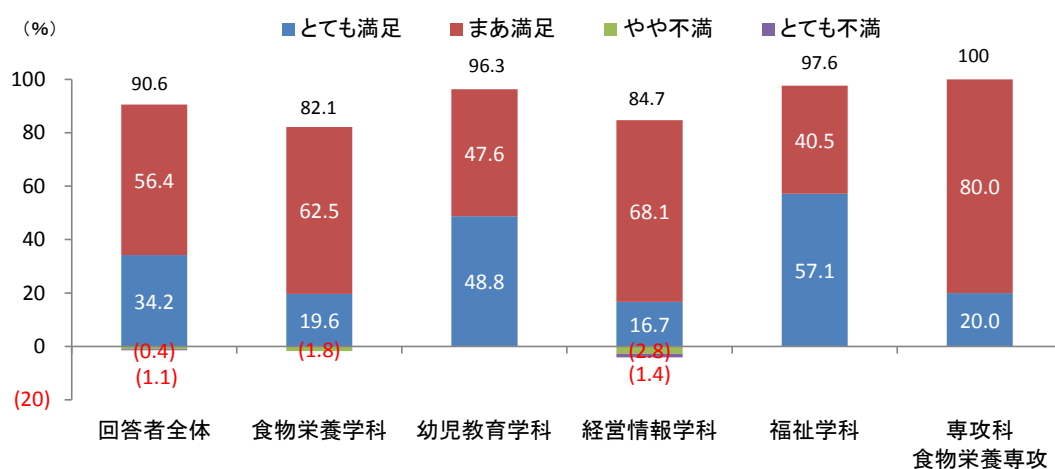
Ⅱ. 調査結果の要旨

以下、実施したアンケート調査のうち、富山短期大学における学修・教育内容、および富山短期大学に対する評価に関する部分について整理を行った。

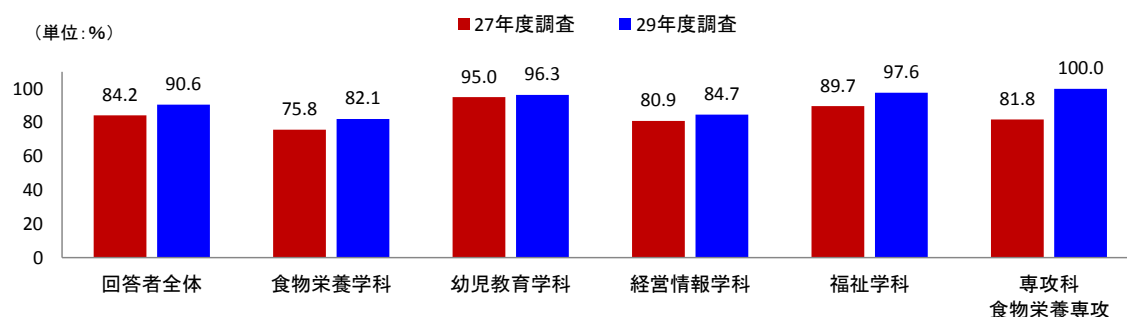
1. 本学に対する満足度

- ・回答者の9割以上が『満足（「とても満足」「まあ満足」）』と回答しており、27年度の
前回調査と比較して『満足』の回答割合は上昇している。（図1）（図2）
- ・学科・専攻科別にみると、いずれの学科においても8割以上が『満足』と回答し、特に
幼児教育学科卒業生および福祉学科卒業生は9割以上が『満足』、うち「とても満足」
が約半数を占めている。（図1）
- ・授業や学修支援、施設等16の項目について満足・不満の状況を尋ねたところ、全体の
9割以上が〔資格・免許の取得〕、8割以上が〔科目の授業〕〔友人や仲間との出会い〕
に『満足（「大いに満足している」「満足している」）』と回答し、〔教職員との出会い・
教職員からの学修支援〕〔大学の施設・設備全般〕〔学生食堂・売店のサービス〕に対す
る満足度も比較的高い。一方、〔通学の便（バスや駐車場の利便性）〕に対しては、3割
以上が、〔課外活動（クラブ、サークル活動、学生会活動など）〕については約2割が
『不満（「あまり満足していない」「全く満足していない」）』と回答している。（図3）

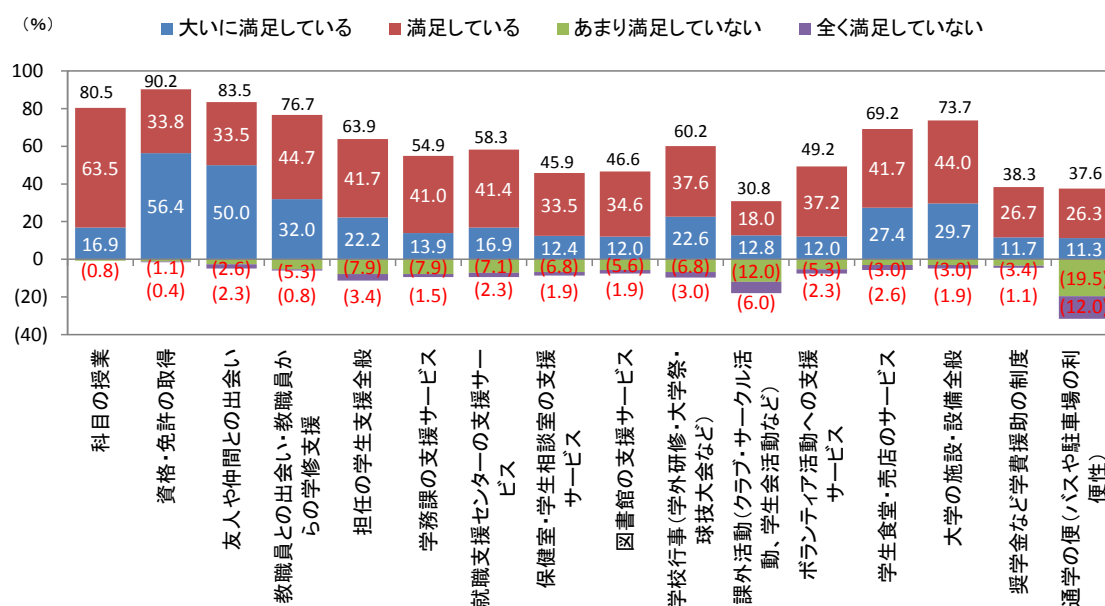
（図1）本学に対する現在の満足度



（図2）本学に対する満足度 前回調査との比較



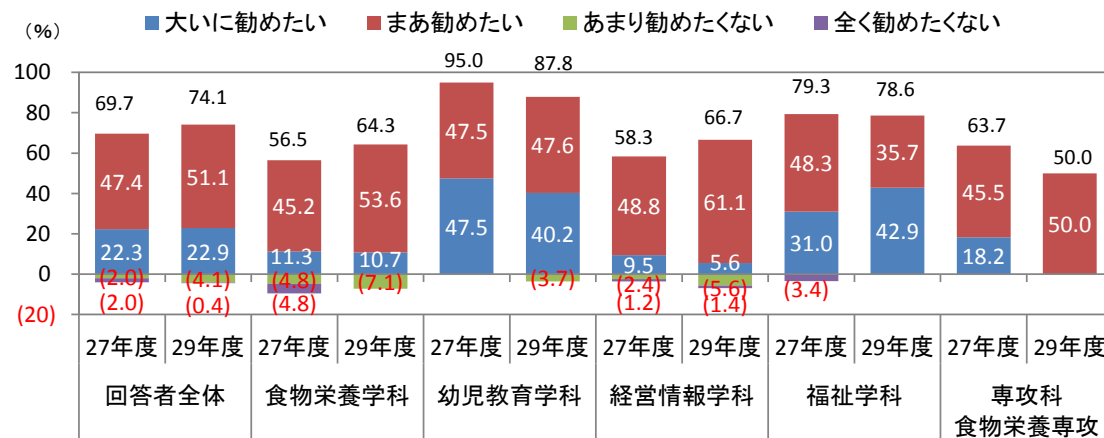
(図3) 項目別の満足度



2. 本学の推奨度

- ・弟妹に対する本学の推奨度は、回答者の約4分の3が『勧めたい(「大いに勧めたい」「まあ勧めたい」)』と回答した。
- ・学科別にみると、幼児教育学科および福祉学科の推奨度が高いが、前回調査と比較して全体の推奨度が高まる中、上記2学科では推奨度が低下している。(図4)

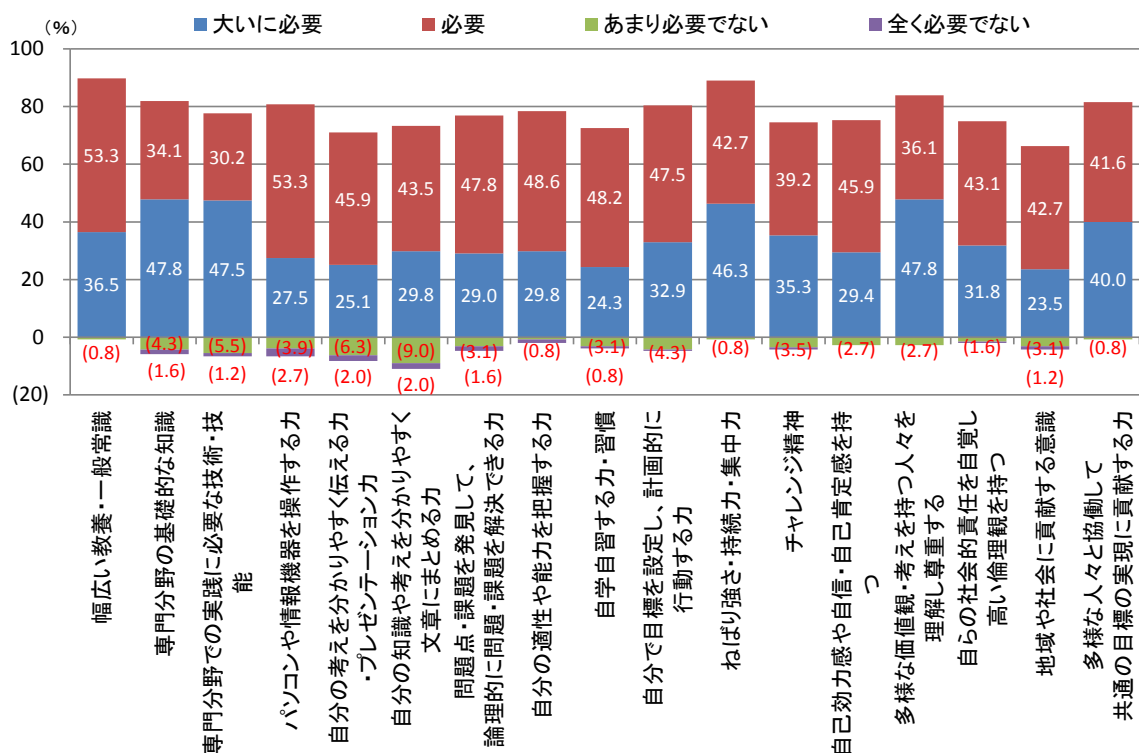
(図4) 本学の推奨度および前回調査との比較



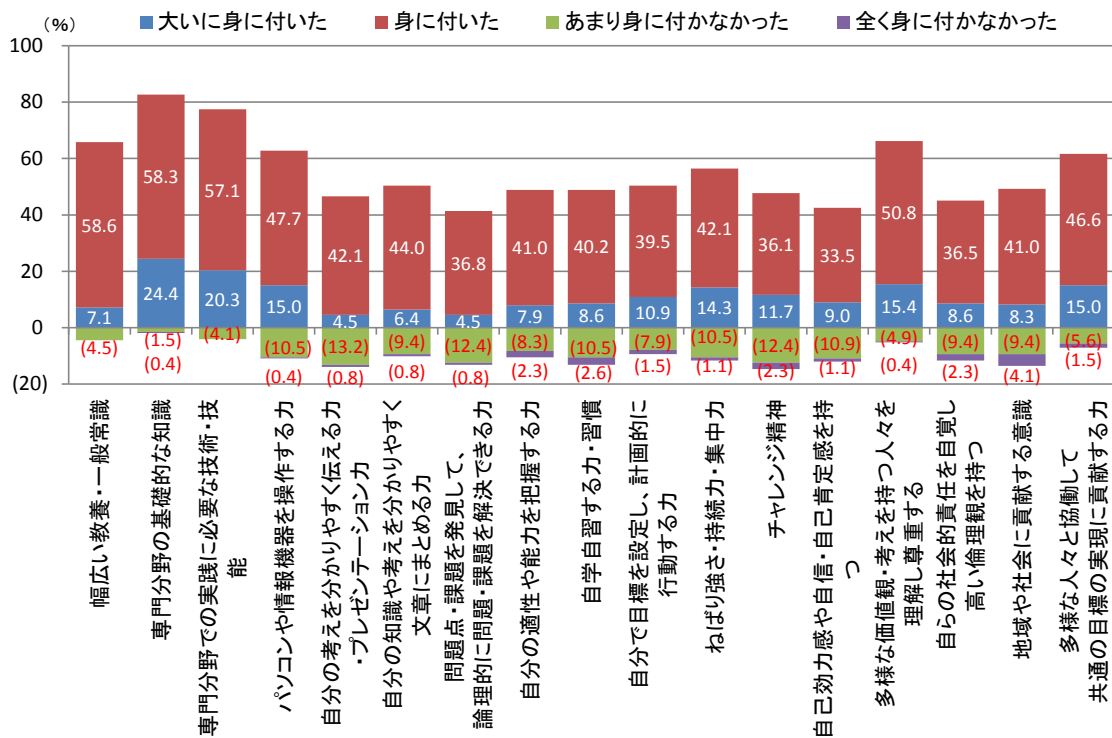
3. 必要な学修内容とその定着度

- ・17 項目の学修内容について、現在の仕事を行っていく上で必要度が高いかどうかを尋ねたところ、全ての質問項目について全体の 6 割以上が『必要(「大いに必要」「必要)』と回答した。必要度が高いものとしては、それぞれ 8 割以上が〔幅広い教養・一般常識〕〔ねばり強さ・持続力・集中力〕〔多様な価値観・考えを持つ人々を理解し尊重する〕〔専門分野の基礎的な知識〕〔多様な人々と協働して共通の目標の実現に貢献する力〕〔パソコンや情報機器を操作する力〕〔自分で目標を設定し、計画的に行動する力〕が『必要』としている。(図5)
- ・これらについて、在学中に『身に付けた(「大いに身に付いた」「身に付いた)』とする回答が同じく 6 割を超えるものは〔専門分野の基礎的な知識〕〔専門分野での実践に必要な技術・技能〕〔多様な価値観・考え方を持つ人々を理解し尊重する〕〔幅広い教養・一般常識〕〔パソコンや情報機器を操作する力〕〔多様な人々と協働して共通の目標の実現に貢献する力〕の 6 項目となっている。(図6)
- ・それぞれの項目について『身に付いた』とする割合をみていくと、全体の 8 割以上が〔専門分野の基礎的な知識〕、7 割以上が〔専門分野での実践に必要な技術・技能〕、6 割以上が〔多様な価値観・考え方を持つ人々を理解し尊重する〕〔幅広い教養・一般常識〕〔パソコンや情報機器を操作する力〕〔多様な人々と協働して共通の目標の実現に貢献する力〕、5 割以上が〔ねばり強さ・持続力・集中力〕〔自分で目標を設定し、計画的に行動する力〕について在学中に『身に付けた』と回答している。
- ・全般的に専門分野を含む“知識”や“技能”について在学中に『身に付けた』とする割合が高いのに対し、主体的に取り組み、問題解決に当たる“姿勢”や“態度”、“意識”といった項目については、必要度の強さに対して在学中に『身に付けた』とする割合が低くなっている。(図7)

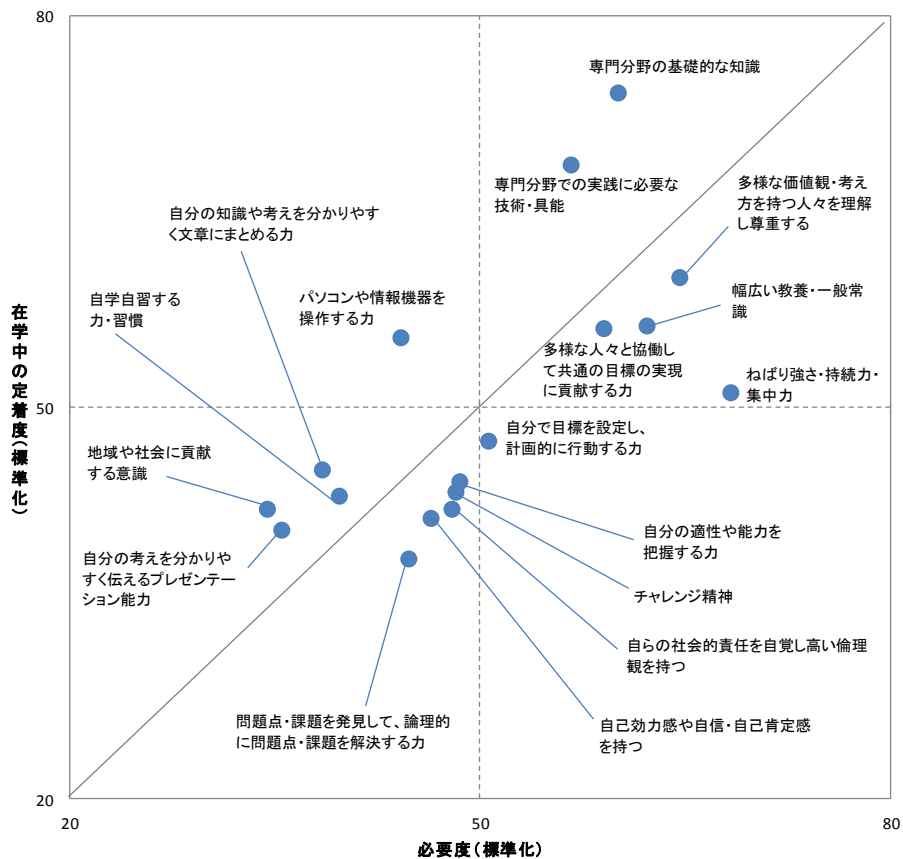
(図5) 必要な学修内容



(図6) 学修内容の在学中における定着度



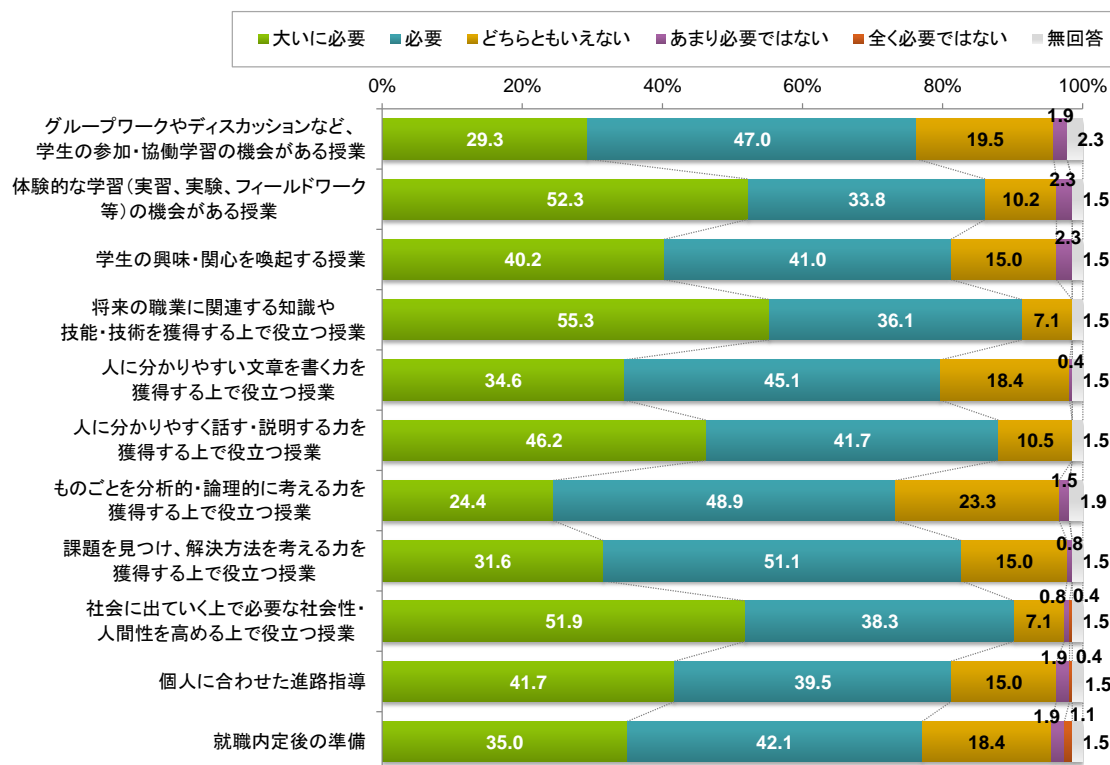
(図7) 学修内容の必要度と定着度



4. 実社会で必要・役に立つと思われる授業内容・方法

- ・質問を行った17項目について、いずれも、『必要（「大いに必要」「必要」）』とする回答割合が大きく、〔将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立つ授業〕〔社会に出ていく上で必要な社会性・人間性を高める上で役立つ授業〕は全体の9割以上が、〔人に分かりやすく話す・説明する力を獲得する上で役立つ授業〕〔体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク等）の機会がある授業〕〔課題を見つけ、解決方法を考える力を獲得する上で役立つ授業〕〔学生の興味・関心を喚起する授業〕〔個人に合わせた進路指導〕は、それぞれ全体の8割以上が『必要』としている。（図8）
- ・卒業学科・専攻科別にみると、学科との対応関係が強い職種の回答とほぼ同様の傾向にあり、いずれの学科においても〔将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立つ授業〕〔社会に出ていく上で必要な社会性・人間性を高める上で役立つ授業〕〔人に分かりやすく話す・説明する力を獲得する上で役立つ授業〕が必要・重要とされ、これに加えて食物栄養学科、幼児教育学科、福祉学科では〔体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク等）の機会がある授業〕も重要であるとし、実習や職業知識・技能など専門的職業人を養成するカリキュラムの重要性を指摘する傾向が強い。一方、就職先が多様な分野となっている経営情報学科では、まずはコミュニケーション能力や社会性といった社会人としての素養の涵養、次いで職業知識・技術を重視する傾向にある。（表1）

（図8）実社会で必要・役に立つと思われる授業内容・方法



(表1) 実社会で必要・役に立つと思われる授業内容・方法 (学科・専攻科別の傾向)

	食 物 栄 養 学 科	幼 児 教 育 学 科	経 営 情 報 学 科	福 祉 学 科	食 専 攻 科 栄 養 専 攻
グループワークやディスカッションなど、学生の参加・協働学習の機会がある授業	0.84	1.28	0.88	1.05	1.20
体験的な学習(実習、実験、フィールドワーク等)の機会がある授業	1.30	1.65	0.93	1.48	1.90
学生の興味・関心を喚起する授業	1.16	1.38	0.92	1.31	1.30
将来の職業に関連する知識や技能・技術を獲得する上で役立つ授業	1.39	1.66	1.29	1.48	1.50
人に分かりやすい文章を書く力を獲得する上で役立つ授業	0.89	1.32	1.04	1.19	1.50
人に分かりやすく話す・説明する力を獲得する上で役立つ授業	1.20	1.44	1.38	1.24	1.60
ものごとを分析的・論理的に考える力を獲得する上で役立つ授業	0.82	0.99	0.89	1.12	1.30
課題を見つけ、解決方法を考える力を獲得する上で役立つ授業	1.05	1.23	0.97	1.29	1.30
社会に出ていく上で必要な社会性・人間性を高める上で役立つ授業	1.36	1.52	1.28	1.45	1.40
個人に合わせた進路指導	1.13	1.43	1.04	1.14	1.40
就職内定後の準備	0.98	1.35	0.92	0.98	0.90
平均値	1.10	1.39	1.05	1.25	1.39

属性別1位

属性別2位

属性別3位

(注) 大いに必要=2、必要=1、どちらともいえない=0、あまり必要ではない=-1、全く必要ではない=-2、とした場合の平均得点

【参考資料 9】「富山短期大学 2015 年度入学者の追跡調査」 (第 4 回外部評価委員会提出資料 (改訂版))

大学教育再生加速プログラム (AP) に選定され、平成 26 年度の事業期間中に学修行動・生活調査や新入生アンケート、授業アンケートなど各種アンケートのデータ収集、集計機能を Web シラバス・システムに実装した。

それらのアンケート実施が可能となった 2015 年度 (平成 27 年度) 入学生の入試成績やその後の GPA、各種アンケートの結果を基に追跡調査を実施した。

初めに、1 年間の学修成果の総合的な指標である GPA を学科別・大括りの入試区分別に表したものである。

ここでの入試区分は、公募制推薦 (専願・併願)、併設校制推薦、自己推薦を「推薦」とし、指定校制推薦は事前に高等学校で選抜を経ていると考え別に「指定」と区分している。

その他、一般 I 期・II 期

入試を「一般」、大学入試センター試験利用型入試の前期・中期・後期をまとめて「センター」と区分している。福祉学科のみ、上記のいずれにも該当しない入試があり、それを「その他」としてまとめている。

またグラフは、各学科・入試区分に該当する学生の GPA の平均値 μ と標準偏差 σ を求め、 $\mu \pm \sigma$ が太く示されている棒グラフ部分であり、上下のひげは、それぞれ該当学生内の最高 GPA と最低 GPA を示すものである。図 1 は、1 年前期のみの GPA を集計した結果である。

図 2 は、同様に 1 年後期のみの GPA を集計した結果である。

前期と比較すると、大きな傾向は不変であるが、食物栄養学科では棒グラフが延びており、すなわち標準偏差が大きくなり学生の GPA の差が広がっていることが示されている。一方、幼児教育学科では、全体的に棒グラフの長さが

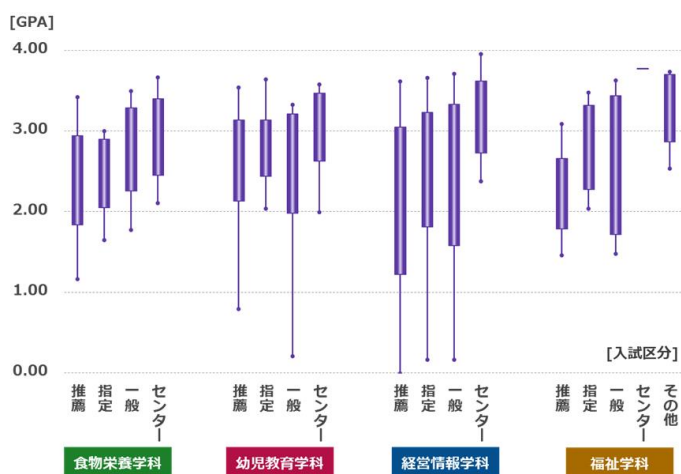


図 1. 入試区分別 学科別の 1 年前期のみ GPA

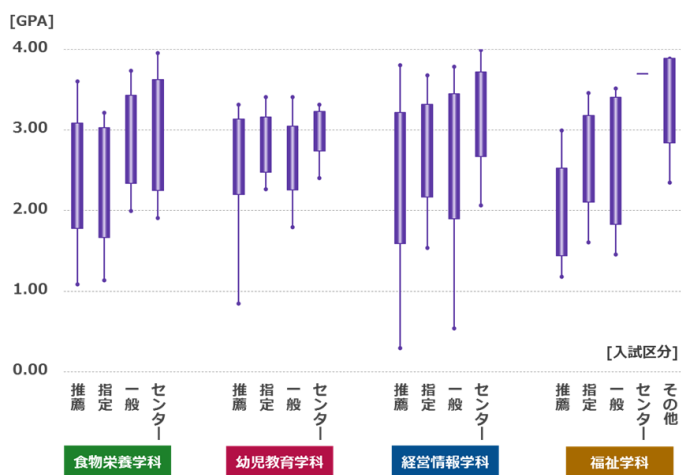


図 2. 入試区分別 学科別の 1 年後期のみ GPA

縮んでおり、全体の GPA 差が縮小すると同時に、入試区分による GPA 差も縮小傾向が見られる。

このように、学科や入試区分毎で異なった変化が見られ、継続的に追跡すると同時に、翌年度以降の入学生についても同様の傾向であるのか否かを確認する必要がある。

また1年間を通じての成績を可視化したものが図3である。

図3からはそれぞれの学科での入試区分の特長が見て取れる。

全体的に言えば、一般入試、大学入試センター試験利用型入試を利用して入学してきた学生の成績が良いことが見て取れる。

一方で、指定校制推薦入試で入学してきた学生は、

大崩れせず悪くても GPA2.0 弱水準に留まっているが、特に経営情報学科では一般入試で入学してきた学生は上位層もいる一方で、かなりの下位層も含まれており幅広い学力の学生が混在して入学してきているのが示されている。

次に、入試における成績と入学後の GPA についての関係について分析を行った。

各入試の評価方法は異なっており、かつ満点も異なっていることから、各入試の満点に対して、どの程度の得点率だったかを算出し、その得点率と1年終了時の GPA との比較分析を行ったものが、右の図4である。

入試区分は、先ほどの区分と同様である。

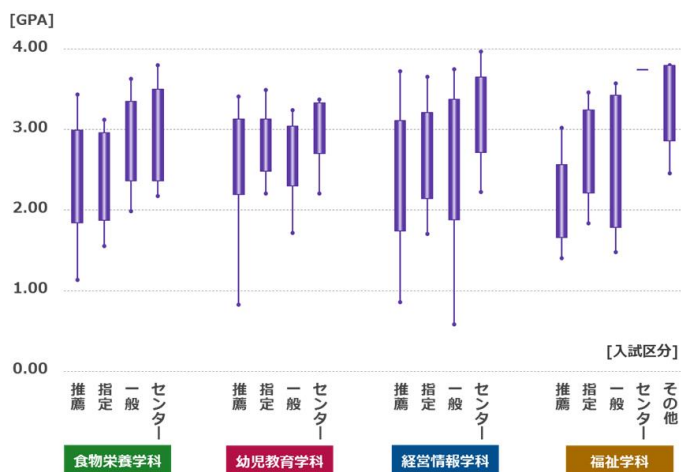


図3. 入試区分別 学科別の1年通年での GPA

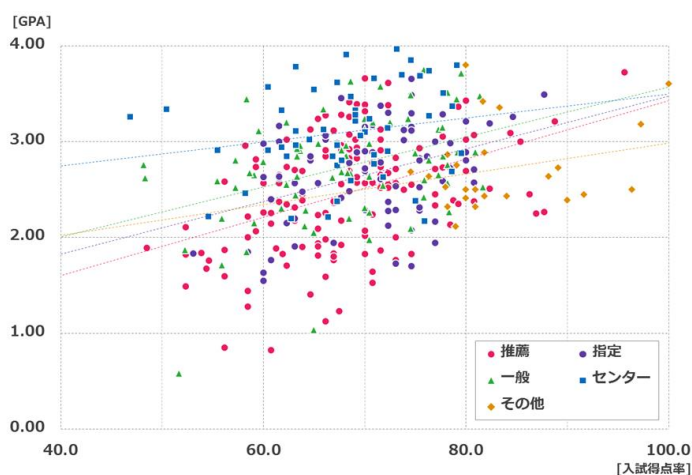


図4. 入試での得点率と1年終了時の GPA

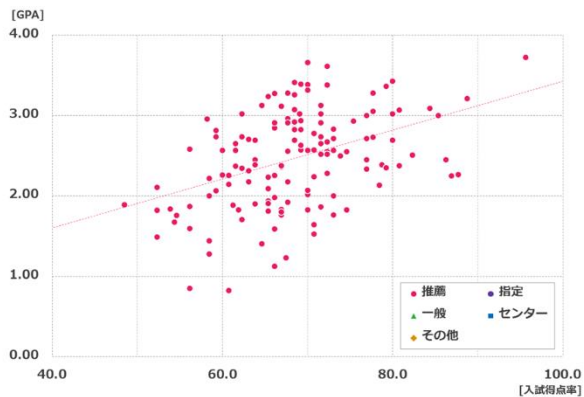


図 5. 推薦入試からの入学者の得点率と GPA

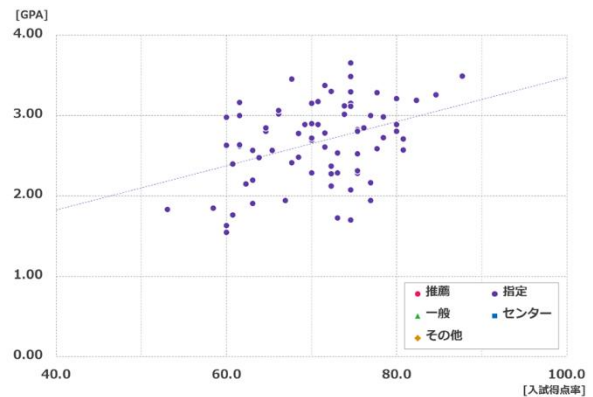


図 6. 指定校制入試からの入学者の得点率と GPA

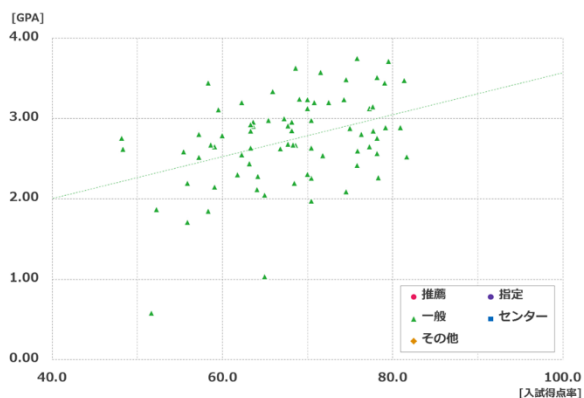


図 7. 一般入試からの入学者の得点率と GPA

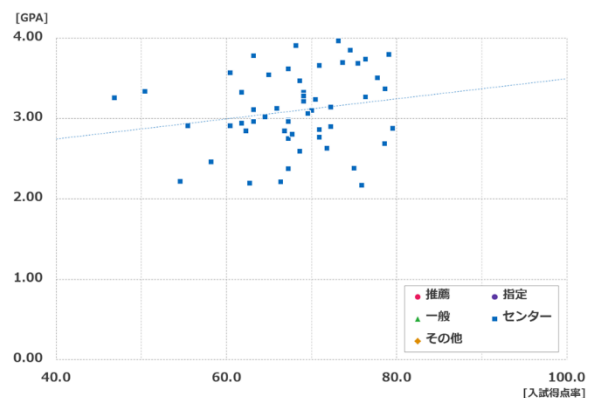


図 8. センター利用型入試からの入学者の得点率と GPA

また、図 4 は、全入学者を表示しているが、それぞれの入試区分別に分割したものが、図 5 から図 8 のグラフである。

全体的に入試の成績と入学後の GPA では、緩やかな相関関係が見られるが、センター試験利用型入試での入学者については、ほぼ無相関と言える水準である。したがって、センター試験利用型入試で入学してくる学生については、入試の成績が仮に振るわなかったとしても、本学での学修については問題がないことがほとんどであるということを示している。

また推薦入試での入学者については、得点率 70%未満となると、GPA2.0 未満が目立ってきているなど、それぞれの入試区分において特徴が見て取れる。

ただし、これらの得点率については、本学独自の試験によって得点化されたものではない。特に推薦入試においては、高校時代の学修を総合的に評価するため書類審査の点数割合が高く、各高等学校によって評価基準も異なることから、全入学者に対して統一された基準として評価可能な小論文試験の得点と入学後の GPA の比較分析も行った。

その結果は、図 9 である。小論文は推薦入試の評価項目であるため、前に示した図 5 と図 6 を合せた集団と同一になる。

小論文は学校間の評価差を除けるが、一方で入試当日の 60 分間の成果であり、結論から言

例えば学校間の評価差があるが約2年半の状況等が反映された書類審査点を加味した総合評価の方が GPA との相関係数は高い。

図9は、推薦入試におけるすべての入学者を示しているが、それぞれの入試種別で分割したものが、図10から図12のグラフである。

ただし、小論文の入試問題は、学科によって異なっており、また自己推薦入試は、他の推薦入試の入試問題とも異なっている。

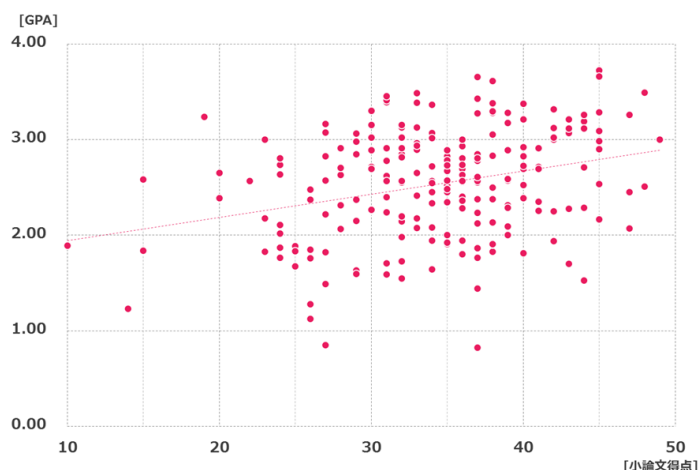


図9. 小論文の得点と1年終了時の GPA

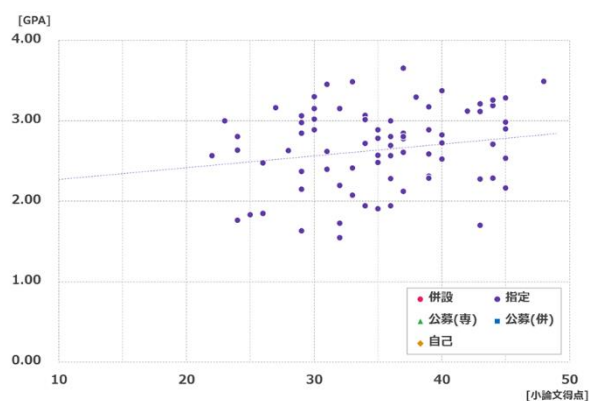


図10. 指定校制入試からの入学者の小論文得点と GPA

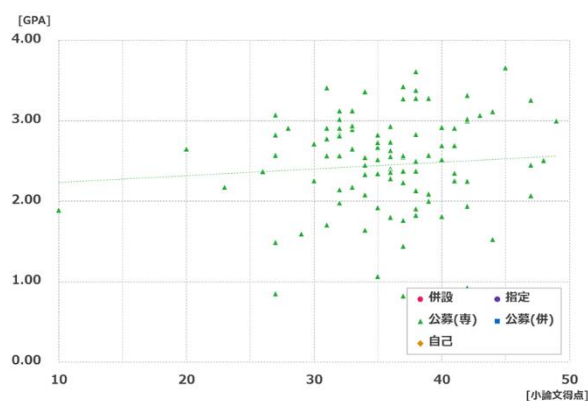


図11. 公募制入試からの入学者の小論文得点と GPA

ここで、図10の指定校制入試と図11の公募制入試を比較すると、小論文の得点のバラつきはさほど変わらないように見えるが、入学後の成績である GPA は指定校制での入学者はほとんどが 2.0 以上であるのに対し、公募制入試での入学者は、小論文が比較的好成績でも GPA 2.0 未満の学生が散見され、かつ GPA が高い学生から低い学生まで幅広く分布していることが特徴である。

したがって、入試での成績が良かったにも関わらず、入学後の成績が低調である要因は何なのかを新入生アンケートや、学修行動・

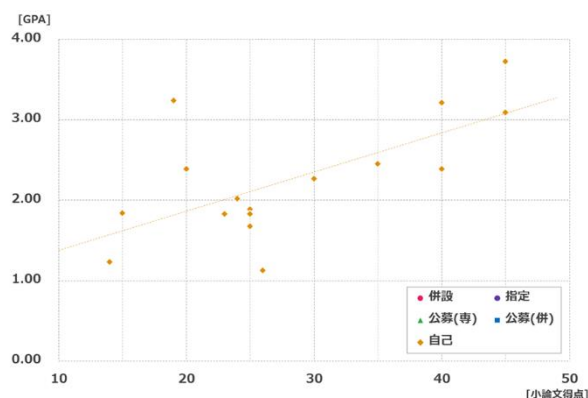


図12. 自己推薦入試からの入学者の小論文得点と GPA

生活調査、授業アンケートなどの各種アンケートの回答から見出していくことは今後の課題である。

さらに、入学時の入学生アンケートや、1年後期開始時、2年前期開始時などに実施する学修行動・生活調査において、共通した21の能力について自己評価をしてもらっている。その21の能力は右の表1の通りである。

本学では、5つの学修成果 (Learning Outcomes) を定めており、21の各能力についても、LO1からLO5それぞれの学修成果に該当させ分析を進めている。その対応は、表1の最左列の1から5が5つの学修成果と一致している。

また、21の各能力については、入学時の入学生アンケートと、その後実施する学修行動・生活調査では回答の基準が異なっている。

いずれも4, 3, 2, 1, 0の5段階で回答を求めているが、入学生アンケートでは、同世代と比較して「特に優れている」、「人並み以上」、「平均レベル」、「人並み以下」、「かなり劣っている」と回答を設定しているのに対し、学修行動・生活調査では、入学時と比較して各能力は「大いに増した」、「増した」、「変化なし」、「減った」、「大いに減った」と回答を設定している。そのため、回答の水準感が異なっていることに注意が必要である。

この21の能力に対する4から0の5段階による回答を、前述の5つの学修成果にまとめて全学生の平均値を求めてグラフとしたものが、右の図13である。

本学入学生の特長として、LO1からLO3までの知識や技能、思考力などは同年代と比較すると全体的には劣っていると自己評価をしている一方、LO4とLO5の関心や意欲、また人間性や社会性などは平均的と学生は自己評価をしている。

表1. 自己評価する21の能力

1	① 幅広い教養・一般常識	知識・理解
	② 専門分野の基礎的な知識・技能	
	③ 文献や資料にある情報を正しく理解する力	
2	④ データを収集・整理し読み取る力	技能
	⑤ 外国語を読み・書き・聞き・話す力	
	⑥ PCや情報機器を使って、レポートや発表資料を作成する力	
3	⑦ ものごとを論理的に考える力	思考力・ 判断力・ 表現力
	⑧ 分析し、問題点・課題を発見して、論理的に問題・課題を解決できる力	
	⑨ 自分の知識や考えを文章で論理的に書く力	
	⑩ 自分の考えを分かりやすく伝える力・プレゼンテーション力	
4	⑪ 自学自習する力・習慣	関心・意欲・ 態度
	⑫ 自分で目標を設定し、計画的に行動する力	
	⑬ ねばり強さ・持続力・集中力	
	⑭ チャレンジ精神	
	⑮ 自分に自信や肯定感を持つ	
5	⑯ 自分の適性や能力を把握する力	自己理解
	⑰ 自分の将来を考える力	
	⑱ 異なる文化や考えを持つ多様な人々を理解し尊重する	他者理解
	⑲ 地域や社会に貢献する意識	
	⑳ 自ら先頭立って行動し、グループをまとめる力	人間関係性 協調性
	㉑ 人と協力・協働しながら物事を進める力	

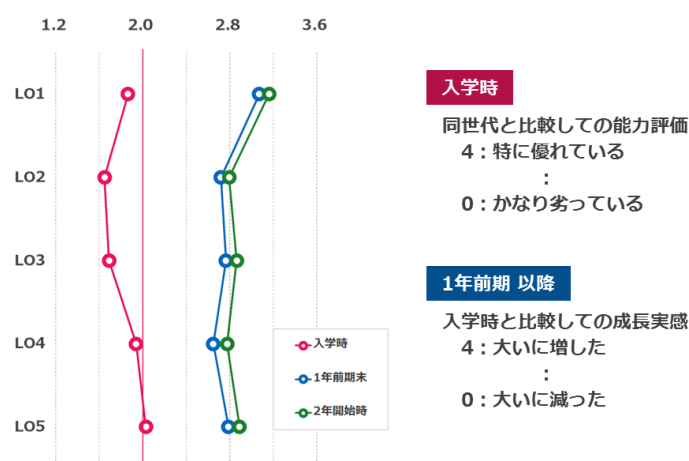


図13. 全学生の21の能力に関する自己評価

ただし、入学後の成長実感としては、LO1の知識・理解に関する項目において、高等学校までとは異なる各学科の専門性を深く学んだことから、かなり成長を実感している。それ以外の4つの学修成果についてもほぼ均等に成長実感を得ていることが見て取れる。

これらを学科別にデータを分割したものが図14である。

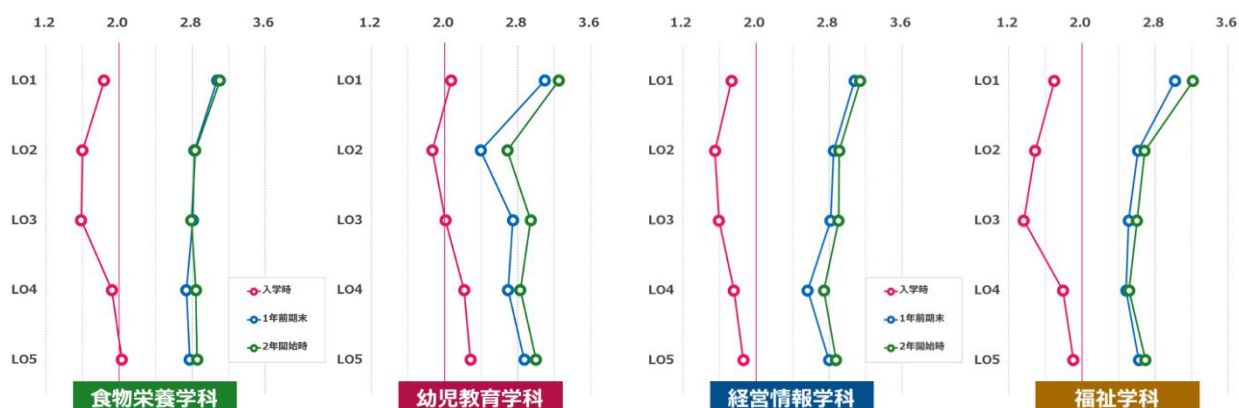


図14. 各学科別に集計した21の能力に関する自己評価

これらのグラフからは、幼児教育学科の学生の入学時の自己評価が他の学科と比較し高く、LO2を除き全体とすれば平均を示す2.0を超えている。一方で経営情報学科と福祉学科においてはLO1からLO5すべての学修成果に対して平均の2.0を下回る自己評価を全体としてはしている。

しかしながら、全学科において入学後約半年経った1年後期開始時、および約1年経った2年前期開始時の成長実感は、ほぼ2.5を超えており本学での学修により成長を自己認識していることが伺える。また、各学科によって、それぞれの学修成果の成長実感が、早期に現れその後変化が少ない項目と、時期を経るごとに成長実感が増していく項目がある。そのため、この要因をさらに分析することによって、教育課程の改善や教授法の改善に何らかの示唆を与えられる可能性がある。

また、この学修成果の自己評価と、入試時の成績、および入学後の成績との関係性を組み合わせて分析を試みる。今回は、初回の分析ということもあり非常に簡単に入試での得点率を65%以上と65%未満で区分けし、かつGPAを2.0以上と2.0未満で区分けすることで全体を4区分に分ける。

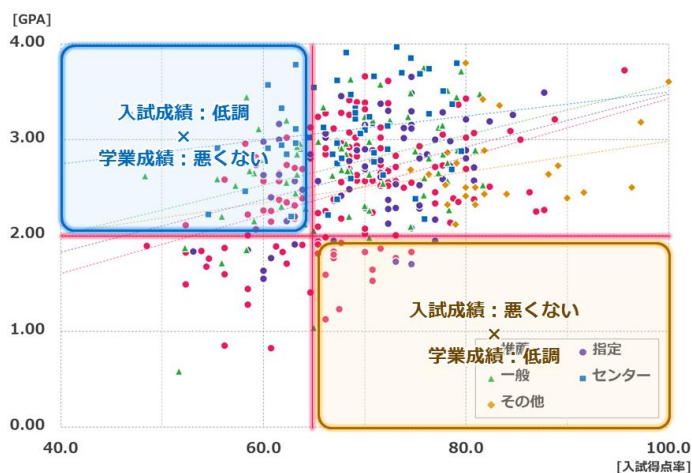


図15. 4区分化した入試での得点率と1年終了時のGPA

すなわち、入試の成績が高くかつ学業成績も高いグループと、その逆で共に低いグループ、また入試成績または学業成績の一方は高いが、もう一方が低いグループの 4 つに分けられる。

上記の 4 つの区分を図 4 の散布図に重ね合わせたものが図 15 である。この 4 グループに対して、先ほどの 21 の能力に関する自己評価をそれぞれ見ていくことにする。

まずは、入試の成績が高くかつ学業成績も高いグループと、その逆で共に低いグループの結果を表わしたものが図 16 である。

マーカーを付してあるグラフがそのグループの自己評価を集計した結果であり、一方マーカーを付していない細い線のグラフも示されているが、それは全学生の自己評価、すなわち本学学生の平均と考えて良いもので、図 13 に示されたグラフと同一の値を示すものである。

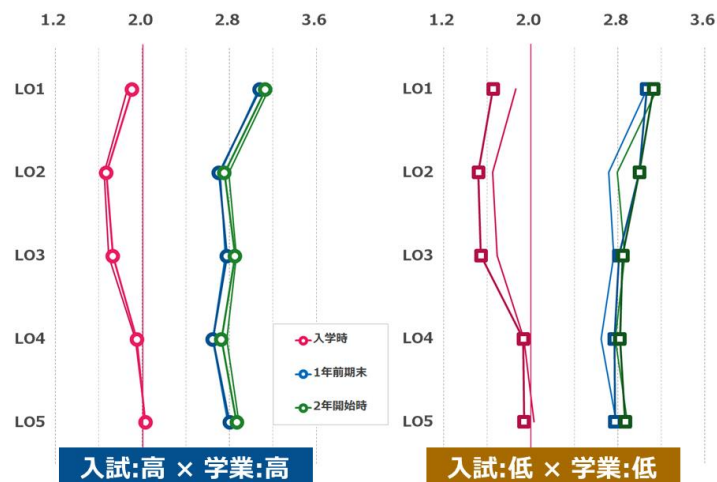


図 16. 「高×高」, 「低×低」学生の 21 の能力に関する自己評価

今回の区分では、図 15 の右上領域に該当する入試の成績が高くかつ学業成績も高いグループの学生数が多かったため、平均値と大して変わらない結果となっている。一方、入試の成績、および学業成績が共に低いグループでは、LO1 から LO3 の自己評価が低く、本学の入学生全体から見ると基礎学力が劣っている学生として考えられる。しかしながら、成長実感としては全体の平均値よりも成長を感じており、入学時の自己評価が低かった分、大きな成長を実感できていると考えられる。

また、入試の成績は低かったが学業成績は高いグループと、入試の成績は高かったが学業成績は低いグループの結果を表わしたものが図 17 である。

ここで特徴的なことは、入学時の自己評価において知識・理解に該当する LO1 と、技能に該当する LO2 は両方のグループとも全体と差異がほぼないのに対し、学業成績が良いグループは、関心・意欲に該当する LO4 と、人間性・社会性に該当する LO5 が

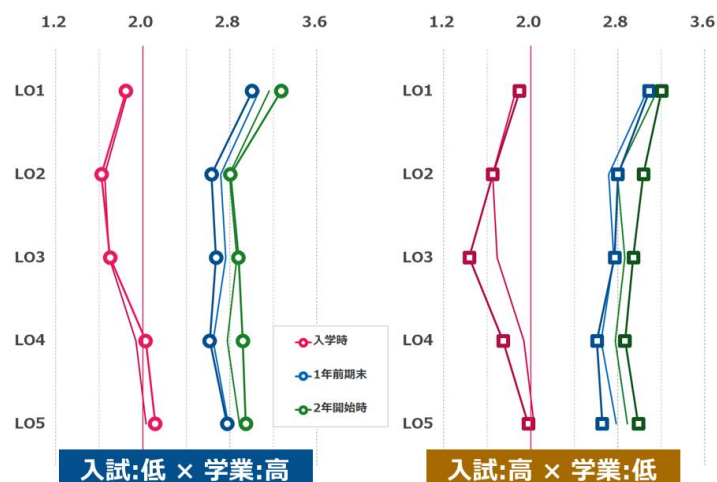


図 17. 「低×高」, 「高×低」学生の 21 の能力に関する自己評価

全体と比較して高い。一方で、学業成績が低いグループは、LO4 と LO5 が全体と比較して低く、さらに思考力等に該当する LO3 も低い。

これらのことから、大学入学後に自らの興味・関心のある事柄を積極的に学び、また友人同士で協働しながら学ぶ素養を持ち合わせていた学生は入試の成績が仮に低くても、大学での学修によってきちんと学修成果が獲得できる可能性が示唆されている。一方で、LO4 の関心や意欲が全体と比較しても低く、かつ LO3 の思考力が低い学生については、大学での学修に対する意欲が湧きにくく、その結果学修成果が低調であったり、また高等学校よりも大学では自ら思考しなければならない授業が増えることから、思考力が劣っていると自認する学生にとっては、大学での学修はハードルが高く、その結果として学修成果が獲得されにくいと考えられる。

ただし、幸いにしていずれのグループも、各能力の成長実感としては 2 年前期開始時には、全体よりも大きな成長を実感している。

今回は、4 つの区分の仕方が大雑把であったことからこのような結果であったが、平均値や標準偏差などから明らかな上位層と下位層に区分して改めて分析を試みることも考えられる。

以上が、大学教育再生加速プログラム（AP）に選定され、各種アンケート機能を Web シラバス・システムに実装し、それらのアンケート実施が可能となった初年度入学生の追跡調査結果である。

【参考資料 10】『富山短期大学 授業改善事例集』（目次）

富山短期大学 教務委員会 FD 推進部会

◆『富山短期大学 平成 28 年度 授業改善事例集』

- I 「大学教育再生加速プログラム（AP）」と FD：授業改善の取組
- II 各学科の取組
 - 1 食物栄養学科
 - 1-1 食物栄養学科の教育目標と FD の取組
 - 1-2 授業改善事例：「食品学総論」
 - 2 幼児教育学科
 - 2-1 幼児教育学科の教育目標と FD の取組
 - 2-2 授業改善事例：発問から始まるアクティブ・ラーニング ～「保育内容（言葉Ⅱ）」の授業実践から～
 - 3 経営情報学科
 - 3-1 経営情報学科の教育目標と FD の取組
 - 3-2 授業改善事例：「インターンシップ」に係る授業改善の試み ～「インターンシップ・ループリック」の活用と「リフレクション」の喚起～
 - 3-3 授業改善事例：SNS を活用した授業改善の内容・方法等に関する事例報告
 - 4 福祉学科
 - 4-1 福祉学科の教育目標と FD の取組
 - 4-2 授業改善事例：能力に応じたクラス編成授業について
- III 平成 28 年度 FD 活動実績報告



大学教育再生加速プログラム



学校法人 富山国際学園
富山短期大学

〒930-0193

富山県富山市願海寺水口 444

TEL 076-436-5146 FAX 076-436-5444

URL <http://www.toyama-c.ac.jp>